

施策及び構成事務事業	所管課	ページ
【第1編 はぐくみ】未来を拓く人がはぐくまれています		
(第1章) 安心して子どもを産み、育てることのできるまち		1
[視点1] 地域における多様な子育て支援		
家庭教育支援事業	生涯学習課	3
【重点】地域子育て支援拠点事業	子ども育成課	6
ファミリー・サポート・センター事業	子ども育成課	3
子育て短期支援事業	子ども育成課	3
保育所、幼稚園等における保護者負担軽減	子ども育成課	3
[視点2] 母子の健康維持		
(仮称) 子育て世代包括支援センター事業	子ども家庭課	3
【重点】妊婦健康診査事業	子ども家庭課	7
【重点】子ども医療費助成事業	子ども家庭課	8
育児支援事業	子ども家庭課	4
[視点3] 仕事と家庭が両立できる環境づくり		
保育所管理・運営事業	子ども育成課	4
【重点】放課後児童健全育成事業	子ども育成課	9
保育所等施設整備費補助事業	子ども育成課	4
休日保育事業	子ども育成課	4
病後児保育事業	子ども育成課	4
[視点4] 様々な家庭への子育て支援の充実		
児童家庭相談室事業	子ども家庭課	5
子ども支援ネットワーク事業	子ども家庭課	5
[視点5] 出会いのサポート		
結婚サポートセンター事業	子ども育成課	5
おおむた縁結び支援事業	子ども育成課	5
(第2章) 心豊かでたくましい青少年がはぐくまれるまち		10
[視点1] 子どもの体験活動の充実		
子どもの居場所づくり支援事業	生涯学習課	12

施策及び構成事務事業	所管課	ページ
【重点】通学合宿支援事業	生涯学習課	15
子ども会活動支援事業	生涯学習課	12
【重点】子ども読書推進事業	生涯学習課	16
子ども体験活動事業	生涯学習課、地域コミュニティ推進課	12
【重点】子ども未来デッサン事業	生涯学習課	17
[視点2]社会の宝として、地域全体で子どもたちを見守り、育てる		
子どもの居場所づくり支援事業	生涯学習課	12
通学合宿支援事業	生涯学習課	12
子ども会活動支援事業	生涯学習課	12
PTA活動支援事業	生涯学習課	12
[視点3]スポーツ・文化芸術活動を通じた青少年の心身の育成		
【重点】子どもの体力向上事業	スポーツ推進室	18
スポーツ少年団育成委託事業	スポーツ推進室	13
おおむたっ子がんばれ奨励金事業	生涯学習課、スポーツ推進室	13
(再掲)子どもの文化芸術体験事業	生涯学習課	61
[視点4]青年の社会参加の促進		
【重点】青年の社会参加活動促進事業	生涯学習課	19
青年スキルアップ事業	生涯学習課	13
青年ボランティア活動支援事業	生涯学習課	13
成人式の開催	生涯学習課	13
視点5 青少年の問題行動や悩みへの対応		
青少年指導相談事業	生涯学習課	14
青少年有害環境浄化事業	生涯学習課	14
青少年健全育成事業	生涯学習課	14
(第3章)社会を生き抜く力を育成する学校教育が充実しているまち		20
[視点1]特色ある学校教育の展開		
おおむた・みらい・ESD推進事業	指導室	22
【重点】大牟田英語教育ステップアップ推進事業	指導室	27

施策及び構成事務事業	所管課	ページ
おおむた郷土学習推進事業	指導室	22
小中連携・小中一貫教育の推進	指導室	22
[視点2] 知育・徳育・体育のバランスが取れた児童生徒をはぐくむ		
少人数学級編制・少人数授業推進事業	学校教育課	23
【重点】大牟田学カブラッシュアップ推進事業	指導室	28
【重点】「思いやり・親切」応援隊子どもプロジェクト事業	指導室	29
特別支援教育支援員活用事業	学校教育課	23
特別支援学校医療的ケア事業	学校教育課	23
教育相談事業	指導室	23
読書活動推進事業	指導室	24
子ども大牟田体力検定推進事業	指導室	24
学校教育における食育推進事業	学務課、指導室	24
[視点3] 学校教育環境の充実		
【重点】学校再編整備推進事業	学校再編推進室、学校教育課、学務課	30
学校空調設備設置事業	学務課	24
学校施設長寿命化改修事業	学務課	25
非構造部材耐震化推進事業	学務課	25
[視点4] 安心して学べ、地域とともにある学校づくり		
【重点】「思いやり・親切」応援隊子どもプロジェクト事業（再掲）	指導室	29
スクールソーシャルワーカー活用事業	指導室	25
就学援助事業	学務課	25
ユネスコスクールの体制に関する研究	学校教育課	26
(第4章) 専門的な教育の機会が確保されているまち		32
[視点1] 高等教育機関等の充実促進		
高等教育機関等充実促進事業	総合政策課	34
[視点2] 学生等のまちづくりへの参加促進		
学生等のまちづくり参加促進事業	総合政策課	34
[視点3] 高等教育機関等との連携		

施策及び構成事務事業	所管課	ページ
高等教育機関との連携事業	総合政策課	34
ほっと安心奨学金制度事業	総合政策課	34
(第5章) 生涯学習が盛んで、その成果が活かされるまち		35
[視点1] 学習機会の充実		
【重点】 多様な学習機会提供事業	生涯学習課	38
【重点】 学習情報提供事業	生涯学習課	39
【重点】 地域学習機会提供事業	地域コミュニティ推進課	40
[視点2] 学習成果を活かす仕組みづくり		
【重点】 生涯学習ボランティア登録派遣事業	生涯学習課	41
学習成果活用事業	生涯学習課、地域コミュニティ推進課	37
[視点3] 地域での学習活動の支援		
【重点】 地区公民館コミュニティ拠点化推進事業	地域コミュニティ推進課	42
地区公民館整備事業	地域コミュニティ推進課	37
(第6章) スポーツを通して生きがいに満ち、活気にあふれるまち		43
[視点1] 気軽に親しめるスポーツ活動の機会づくり		
【重点】 市民スポーツ推進事業	スポーツ推進室 (指定管理者)	47
【重点】 地域スポーツ活動推進事業	スポーツ推進室	48
[視点2] スポーツ活動を支える仕組みづくり		
【重点】 地域スポーツクラブ育成・支援事業	スポーツ推進室	49
スポーツ団体との連携によるスポーツ活動支援事業	スポーツ推進室	45
競技スポーツ振興・支援事業	スポーツ推進室	45
表彰・奨励事業	スポーツ推進室	45
[視点3] スポーツがしやすい環境づくり		
【重点】 スポーツ施設整備事業	スポーツ推進室	50
【重点】 (仮称)総合体育館整備事業	スポーツ推進室	51
指導者育成事業	スポーツ推進室	46
スポーツ情報提供事業	スポーツ推進室	46
(第7章) 文化芸術に親しみ、心豊かに生活できるまち		52

施策及び構成事務事業	所管課	ページ
[視点1] まちの歴史や文化を知る・学ぶ		
【重点】 市史編さん事業	市史編さん室	56
【重点】 近代化産業遺産活用事業	世界遺産・文化財室、総合政策課	57
文化財保護事業	世界遺産・文化財室	54
【重点】 三川坑跡保存活用事業	総合政策課	58
【重点】 市制100周年記念事業	100周年記念事業推進室	59
[視点2] 文化芸術事業の充実		
【重点】 多様な文化芸術提供事業	生涯学習課	60
【重点】 子どもの文化芸術体験事業	生涯学習課	61
若者の関心に合わせた文化芸術事業	生涯学習課	54
【重点】 本市の特色を活かした文化芸術事業	生涯学習課	62
広域連携による文化芸術事業	生涯学習課	54
[視点3] 文化芸術活動への参加機会の充実		
【重点】 文化芸術活動参加促進事業	生涯学習課	63
文化団体等育成・支援事業	生涯学習課	55
[視点4] 文化芸術の環境づくり		
【重点】 街かどのにぎわい創出事業	生涯学習課、産業振興課、観光おもてなし課	64
郷土伝統芸能保存継承事業	生涯学習課、世界遺産・文化財室	55
文化施設整備事業	生涯学習課	55
(第8章) 一人ひとりの人権が尊重され、男女が生き生きと暮らすまち		65
[視点1] 人権に関する教育・啓発の推進		
【重点】 人権・同和問題啓発推進事業	人権・同和・男女共同参画課	68
【重点】 人権・同和教育・啓発推進事業	人権・同和教育課	69
人権・同和教育連携事業	人権・同和教育課	67
[視点2] 人権擁護の推進		
【重点】 人権擁護推進事業	人権・同和・男女共同参画課	70
[視点3] 男女がともに生きる社会への意識づくり		
【重点】 男女共同参画に関する意識啓発事業	人権・同和・男女共同参画課	71

施策及び構成事務事業	所管課	ページ
【重点】女性に対する暴力防止及び被害者支援事業 [視点4]男女がともに参画する機会の確保	人権・同和・男女共同参画課	72
【重点】女性参画促進事業	人権・同和・男女共同参画課	73
(第9章) 多文化共生が実現するまち		74
[視点1]国際感覚を持った人づくり 多文化共生のまちづくり推進事業	総合政策課	76
[視点2]友好・姉妹都市交流の推進 中国大同市との友好都市交流事業	総合政策課	76
米国マスキーガンとの姉妹都市交流事業	総合政策課	76

評価・検証シート【施策】

平成 28 年度

【所管部局】保健福祉部・市民協働部


施策名	(第1編第1章) 安心して子どもを産み、育てることのできるまち
-----	------------------------------------

1. 計画 (Plan)

意図 (どういふ状態になることを狙っているのか)						
市民が安心して子どもを産むことができ、子育てに幸せや楽しさを実感して暮らせるまちを目指します。						
指標名	各年度末における	H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
子育てしやすいと思っている市民の割合	目標値 (%)	52.0	54.0	56.0	58.0	現状値からの 10 ポイント程度の向上を目指す。[現状値：47.2% (26 年度実績)]
	実績値 (%)	49.2				
	達成度 (%)	94.6				

2. 実行 (Do) → 構成事業の実施による

3. 検証・評価と今後の方向性 (Check & Action)

(1) 指標達成度に対する要因分析 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)	
<ul style="list-style-type: none"> 本施策の成果指標については、構成事業を概ね計画どおり進められたことにより、前年度より 0.1 ポイントアップとなり、目標の達成度としては 94.6%となっています。 子ども医療費助成事業では、H28 年 10 月診療分から助成対象を中学生の通院まで拡充するとともに、所得制限を撤廃しました。保育園、幼稚園における保護者負担軽減においては、市独自軽減の継続とともに、国の幼児教育の段階的無償化に基づく、低所得の多子世帯等の保護者負担の軽減を実施しました。指標の目標達成にあつては、子育て家庭の経済的負担の軽減の面から好影響を与えたと考えられます。 保育所、学童保育所においては、共働き世帯の増加や入所対象の拡充などの影響もあり、待機児童の増加が全国的な課題となっており、本市においてもサービス供給量の確保や保育士・支援員等の人材確保が大きな課題となっています。 	
(2) 今後の方向性 (1)の要因分析を踏まえ、施策目的達成に向けた部長方針を示す)	
<ul style="list-style-type: none"> 市民が安心して子どもを産み、育てることが出来るよう、引き続き、子育ての負担感・不安感の軽減や子育て家庭の経済的負担の軽減、仕事と家庭の両立支援などに向けた取組みを進めます。 地域子育て支援拠点事業 (つどいの広場) の更なる活性化に向け、直営での運営から民間委託へと変更するとともに、子ども・子育て支援事業計画に掲げる 2 か所目のつどいの広場設置の検討を進めます。また、妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援の推進に向け、H30 年度開設を予定している (仮称) 子育て世代包括支援センターの検討を進めます。 課題となっている学童保育所の待機児童の解消に向け、民設民営学童保育所に対する補助による設置促進を図るとともに、第 2 学童保育所の整備やその他の手法の検討を行います。また、病後児保育事業を委託する医療機関に対する施設整備費補助を行い、環境整備を図ります。 結婚サポートセンターの充実に向け、合同で運営するみやま市・柳川市とともに、情報発信や魅力ある事業実施の工夫・検討を行います。また、おおむた縁結び支援事業については、婚活イベントやセミナーの内容や実施回数の拡充を図るとともに、民間事業者への委託など、より効率的で効果的な事業の実施に向けた検討を進めます。 (保健福祉部長 大久保 徳政) 地域における多様な子育て支援の充実に向け、より多くの保護者に家庭教育のあり方を見つめ直す機会としてもらうため、就学前の子どもを持つすべての保護者の参加が見込める入学説明会を活用した「就学前子育て講座」を始めとした家庭教育支援事業を引き続き実施します。 (市民協働部長 中村 珠美) 	
(3) 達成度	(4) 二次評価結果
	<p>一次評価のとおり、構成事務事業の進め方の改善や、新規事業の追加、既存事業の見直し、休止等が必要。当施策は、最重点課題でもあることから、今後も各事業の必要性や有効性を検証し、状況に応じて重点化していくなど随時の見直しが必要である。あわせて、成果指標の目標値の達成に向けて、子育て世代のみならず、より多くの市民に本市の取組みを理解していただき、ご協力がいただけるよう取り組まれない。</p>

※(3)達成度…施策目的が達成できたかを指標の達成度をもって測ります。 80%以上…はれ、60%以上 80%未満…くもり、60%未満…あめ

4. 施策推進の視点と各構成事業

No	事業名	所管課	成果指標等			評価結果	
			指標名	単位	H28 目標 H28 実績	結果検証 ・分析	今後の 方向性
[視点1] 地域における多様な子育て支援							
1	家庭教育支援事業	生涯学習課	就学前子育て講座参加率	%	86.0 81.2	順調	継続
2	【重点】地域子育て支援拠点事業	子ども育成課	つどいの広場登録組数	組	780 738	順調	継続
3	ファミリー・サポート・センター事業	子ども育成課	支援活動件数	回	840 870	順調	継続
4	子育て短期支援事業	子ども育成課	利用申請中利用できた人の割合	%	100.0 97.3	順調	継続
5	保育所、幼稚園等における保護者負担軽減	子ども育成課	軽減の実施	—	実施 実施	順調	充実
[視点2] 母子の健康維持							
6	(仮称)子育て世代包括支援センター事業	子ども家庭課	センター設置の検討	—	検討 検討	順調	継続
7	【重点】妊婦健康診査事業	子ども家庭課	健康診査平均受診回数	回	12.7 12.1	順調	継続
8	【重点】子ども医療費助成事業	子ども家庭課	子ども医療費受給者1人当たりの平均助成額	円	25,000 25,636	順調	継続
9	育児支援事業	子ども家庭課	延参加人数	人	1,000 1,036	順調	充実
[視点3] 仕事と家庭が両立できる環境づくり							
10	保育所管理・運営事業	子ども育成課	入所できた児童の割合	%	100 100	順調	継続
11	【重点】放課後児童健全育成事業	子ども育成課	入所できた児童の割合	%	100.0 94.7	やや遅れ	充実
12	保育所等施設整備費補助事業	子ども育成課	整備数	園	0 0	順調	継続
13	休日保育事業	子ども育成課	年間延べ利用者数	人	240 309	順調	継続
14	病後児保育事業	子ども育成課	年間利用児童数	人	180 136	順調	継続
[視点4] 様々な家庭への子育て支援の充実							
15	児童家庭相談室事業	子ども家庭課	相談に対する述べ対応件数	回	4,500 6,829	順調	充実
16	子ども支援ネットワーク事業	子ども家庭課	個別ケース会議の開催	回	45 81	順調	充実
[視点5] 出会いのサポート							
17	結婚サポートセンター事業	子ども育成課	イベントへの大牟田市民参加者数及び大牟田市市内開催参加者数	人	40 22	遅れ	改善
18	おおむた縁結び支援事業	子ども育成課	出会い応援事業参加者数	人	75 100	順調	充実

評価・検証シート【施策】・「別表」

5. 構成事業の実施状況

[視点1] 地域における多様な子育て支援

事業名	家庭教育支援事業
事業の実施状況と課題	【順調】家庭や地域における教育力の低下が指摘されている中、子育てに関心の薄い親も含め、より多くの保護者に家庭教育のあり方を見つめなおす機会を提供するため、小学校入学前の子どもを持つ保護者の参加が見込める入学説明会を活用し「就学前子育て講座」を実施しました。
今後の方向性と具体策	【継続】より多くの保護者に家庭教育のあり方を見つめなおす機会を提供できるよう、子育て講座の実施手法等を検討します。
事業名	【重点】地域子育て支援拠点事業 《評価・検証シート【事業】参照》
事業名	ファミリー・サポート・センター事業
事業の実施状況と課題	【順調】社会福祉法人に委託して、事故もなく安全に事業実施ができました。児童（特に乳児）を預かることから、安全確保を含めた質の向上と会員の増が課題です。
今後の方向性と具体策	【継続】援助会員（児童の預かりを行う会員）の質の向上のため、定期的な研修を継続します。仕事と家庭の両立支援に向け利用ニーズの充足を図ります。
事業名	子育て短期支援事業
事業の実施状況と課題	【順調】児童福祉施設に委託して事業を実施しています。施設の入所児童の増加や感染症の発生等の要因により、利用希望者の受入ができなかった時もあり、利用者数が減っています。利用ニーズの充足が課題です。
今後の方向性と具体策	【継続】委託施設の人員体制や施設の状態等の制約がある中であっても、施設と連携を密にしながら、受入促進につなげていきます。
事業名	保育所、幼稚園等における保護者負担軽減
事業の実施状況と課題	【順調】子育て世帯の経済的な負担の軽減を目的に、本市独自の保育料軽減を継続して行うとともに、国の幼児教育の段階的無償化に伴う、低所得の多子世帯やひとり親世帯等の保護者負担の軽減を行いました。子育て支援充実に向けて、保護者の経済的負担の軽減の拡充が求められています。
今後の方向性と具体策	【充実】国や他市の動向等を注視しながら、保護者の経済的負担の軽減による子育て支援の充実を図ります。

[視点2] 母子の健康維持

事業名	(仮称) 子育て世代包括支援センター事業
事業の実施状況と課題	【順調】妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援を行うための(仮称)子育て世代包括支援センターの開設に向け、研修会等への参加や運営手法等についての検討を行いました。特に設置場所、専門職の確保が大きな課題であり、引き続き検討が必要です。
今後の方向性と具体策	【継続】先進地等の情報収集を行うほか、設置場所や人材の確保、既存事業の拡充等についての検討を完了させ、H30年度のセンター設置を目指します。
事業名	【重点】妊婦健康診査事業 《評価・検証シート【事業】参照》
事業名	【重点】子ども医療費助成事業 《評価・検証シート【事業】参照》

事業名	育児支援事業
事業の状況と課題	【順調】事業の延参加人数は、パパママ専科 92 人、ママのほっとスペース 237 人、赤ちゃん広場 401 人、乳幼児の歯育て教室 306 人でした。利用者が参加しやすい環境づくりとして、事業内容に適した人数で実施できる開催場所や時間帯等についての工夫が必要です。
今後の方向性と具体策	【充実】補助金等を有効に活用し、利用者ニーズに沿った事業を実施していきます。また、既存事業の実施回数やメニューの拡充と併せ、参加者の意見を参考にした事業の再構築を行っていきます。

[視点 3] 仕事と家庭が両立できる環境づくり

事業名	保育所管理・運営事業
事業の状況と課題	【順調】公立保育所を含む市内 22 園の保育所において、安心して安全な保育の提供及び継続的な施設の運営が行えるよう、私立保育所の管理、公立保育所の運営を実施しました。H28 年度は待機児童の発生はありませんでしたが、今後、保育士不足の影響等による入所困難な状況発生が懸念されます。
今後の方向性と具体策	【継続】安心・安全な保育環境の確保が図れるよう実施できるように、継続的な運営等の支援を実施します。保育所との連携・調整を密に行いながら、待機児童発生防止に取り組みます。
事業名	【重点】放課後児童健全育成事業 <評価・検証シート【事業】参照>
事業名	保育所等施設整備費補助事業
事業の状況と課題	【順調】児童の安心・安全な環境の確保を目的に、国・県の補助金を活用して老朽化が進んでいる社会福祉法人立の保育所等の施設整備費補助を計画的に進めています。H28 年度は、実施希望の法人がなかったため、事業は実施していません。
今後の方向性と具体策	【継続】児童の安心・安全な環境の確保のため、社会福祉法人等の意向等を踏まえながら、引き続き事業を実施します。
事業名	休日保育事業
事業の状況と課題	【順調】仕事と家庭の両立支援の充実に向けて、情報発信の強化等を図りながら利用者拡大に取り組みました。情報発信は、これまでの幼稚園・保育所等へのチラシの配布等を行う外、FM たんとを活用した情報発信を行いました。利用者数は、年々増加しています。保育士不足が進む状況にあり、休日保育対応の保育士確保が課題です。
今後の方向性と具体策	【継続】安心して子どもを預けられる環境の充実に向け、情報発信の強化等を図りながら利用ニーズの充足を図ります。あわせて、安定した保育士確保を目指します。
事業名	病後児保育事業
事業の状況と課題	【順調】市内の医療機関に委託して事業を実施しています。事業の実施場所となる医療機関の閉院に伴い、実施場所変更を行いながら事業の継続実施を図りました。実施場所の変更においては、保育所・幼稚園等を通じたチラシの配布や広報おおむた、ホームページ掲載による市民周知を行いました。今後、事業を継続していくための施設等の環境づくりと情報発信が重要です。
今後の方向性と具体策	【継続】国・県の補助を活用して、事業を委託する医療機関に対する施設整備費補助を行います。新たな施設等の情報発信を充実させ、利用者拡大を目指します。

[視点 4] 様々な家庭への子育て支援の充実

事業名	児童家庭相談室事業
事業の実施状況と課題	【順調】子育てに関する相談や児童虐待の通告等に対応して、内容に応じた適切な対応を図っています。専門職の確保と相談内容や対応についての効率・効果的な情報管理及びシステム間の連携等が課題です。
今後の方向性と具体策	【充実】相談等へ対応する専門職の継続的な確保を図ります。効率・効果的な情報管理に向けた児童相談システムの導入を検討します。
事業名	子ども支援ネットワーク事業
事業の実施状況と課題	【順調】子ども支援ネットワークにおいて、虐待などにより支援が必要な児童等の情報共有や支援方針の協議を行い、個別のケースに応じた具体的な支援を行っています。調整機関としての更なる能力向上と相談内容や対応についての効率・効果的な情報管理及びシステム間の連携等が課題です。
今後の方向性と具体策	【充実】調整機関職員としての必要な研修受講と職場共有を図ります。効率・効果的な情報管理に向けた児童相談システムの導入を検討します。

[視点 5] 出会いのサポート

事業名	結婚サポートセンター事業
事業の実施状況と課題	【遅れ】H28年度の3市（大牟田、柳川、みやま）合計では、新規会員登録数は148人、これまでの累計登録会員数は1,000人となっています。また、イベントを9回開催し、結婚3組、婚約1組で累計成婚者数（28年度末現在）は32組という状況です。課題としては、イベント参加者の減少、成婚者数の伸び悩み、新規会員獲得のための積極的な取組み及び結婚までの支援の継続的な実施など、業務内容の充実を図る必要があります。
今後の方向性と具体策	【改善】情報発信等、魅力ある事業実施の工夫・検討が必要であり、成果に繋がるよう、共同で運営している3市で協議、検討を行っていきます。
事業名	おおむた縁結び支援事業
事業の実施状況と課題	【順調】県と市が共催でライフデザインセミナーを10月と11月に2回開催し、計24人が参加しました。また、婚活イベントとして2月に「DIY婚活 in おおむた Zoo」を開催。定員20人に対し48人の申込みがあり、抽選により23人が参加（1人キャンセル）、4組のカップルが成立しました。あわせて、おおむた縁結び支援事業補助金として1団体に20万円の補助も行いました。今後も魅力あるイベント内容の検討が課題と考えます。
今後の方向性と具体策	【充実】本市独自事業である当該事業の実施については、H28年度が初年度ということもあり、婚活イベントについては市が直接実施しました。今後も他市の事例等情報収集を行いながら、民間事業者への委託など、より効率的で効果的な事業の実施に向けて検討していきます。

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 子ども育成課

事業名	(施策推進の視点) 地域における多様な子育て支援 地域子育て支援拠点事業
-----	---

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)						
子育て中の親とその子どもが、気軽に集い、交流を図ることや相談援助等を受けることで、子育てへの不安や負担感の緩和を図り、親子で楽しく過ごせる場を確保します。						
事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)						
月 1 回以上の子育て講座の他、リズム遊び、絵本の読み聞かせ、制作等を実施しています。市民参画による子育て支援充実のため、子育てサポーターの登録と活動支援に取り組んでいます。						
また、これまで直営で行ってきた当該事業について、その運営形態についての見直しが課題とされてきたことから、H29 年度からファミリー・サポート・センター事業と一体的に外部委託を行い、事業の充実を図れるよう検討をしていきます。						
なお、子ども・子育て支援事業計画に掲げている 2 か所目のつどいの広場については、利用ニーズ等を分析し、設置についての整理を行います。						
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
つどいの広場登録組数	目標値 (組)	780	800	820	840	えるる移転後の H26 年度登録組数実績 (781 組) からの年 20 組相当の増。
	実績値 (組)	738				
	達成度 (%)	94.6				

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の怪我や事故、大きなトラブルもなく事業実施ができ登録組数 738 組で延べ 11,565 人の利用がありました。また、毎年度の利用者アンケート実施により、ニーズを踏まえた講座や行事の実施が図られています。 ・H29 年度からの円滑な事業委託に向け、関係機関との協議を重ねるとともに詳細な引継ぎも行うなど十分な準備ができました。 ・2 か所目のつどいの広場の設置については、国からの子ども・子育て支援事業計画の見直し基準に基づき、再検討を行っています。 						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	3,274 千円	1,301	1,301		6	666
(次年度への繰越)	千円)					
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた (気付いた) 問題点及び課題						
<ul style="list-style-type: none"> ・民間の事業者にファミリー・サポート・センター事業とあわせて委託することにより、集いの場の提供、子育て情報の発信、子育てに関する相談等から直接的な子どもの預かり支援へと繋がりやすくなり、より一体的な子育て支援の実施が期待できます。 ・2 か所目のつどいの広場の設置については、子ども・子育て支援事業計画に掲げる量の見込みや確保方策の見直しの状況なども踏まえ、さらに検討を行う必要があります。 						
今後の方向性 (具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> ・要綱や契約書等に基づいた確実な事業の実施と事業の活性化、指標の達成に向けて、委託事業者との密な連携と必要に応じた委託事業者への指導・助言を行います。 ・2 か所目のつどいの広場の設置についての検討を行い、早い時期に結論を出します。 						
評価結果	評価の理由					
順調・継続	指標の目標値は達成できませんでしたが、達成度は 95% となっており、引き続き利用者の増加と安全な事業実施に取組みます。あわせて、事業の委託に向けた十分な準備ができました。					

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 子ども家庭課

事業名	(施策推進の視点) 母子の健康維持 妊婦健康診査事業
------------	-------------------------------

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)						
母体と胎児の健康管理の充実と経済的負担の軽減を図るため、妊婦健康診査について公費で負担し、安心して妊娠・出産ができる環境を整えます。						
事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)						
妊娠の届出時に母子健康手帳と14回分の妊婦健康診査補助券を交付し、妊婦の転入の際は、前住所地で交付された健診補助券を本市のものと交換します。看護職が全ての妊婦と面接を行い、特に支援を必要とする妊婦に対しては、電話や訪問による指導や助言等を行います。						
妊婦健診は福岡県、熊本県、佐賀県、大分県の医療機関と福岡県内の助産所に委託しており、妊婦は健診補助券を提示することで、対象となる検査等を無料で受けることができます。補助券を利用できない地域で受診した場合は、申請により一定の基準に基づく補助金を交付します。						
妊娠期間を健康で安全に過ごし、安心して出産を迎えるためには、妊婦が必要な医学的検査を受けると、妊婦や家族の出産に向けた心構えも大切なことから、早期の妊娠届や必要な健診受診を促すよう、周知に向けた広報等を行います。						
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
健康診査平均受診回数	目標値 (回)	12.7	12.8	12.9	13.0	出産までに14回の受診が望ましいとされています。[H27実績12.6回から、年度0.1回ずつの増で設定]
	実績値 (回)	12.1				
	達成度 (%)	95.3				

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> 妊娠の届出時に母子健康手帳と妊婦健康診査補助券を交付し、妊婦健康診査の公費負担を行いました。全ての妊婦と面接を行い、その状況把握に努め、特に支援を必要とする妊婦に対しては、電話や訪問による指導や助言等を行いました。 FＭたんとかや広告モニターで、妊娠11週以下の届出や望ましいとされる14回の妊婦健康診査について、市民周知の強化を行いました。 						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	74,332 千円		62			74,270
(次年度への繰越)	千円)					
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた(気付いた)問題点及び課題						
<ul style="list-style-type: none"> 年間の総受診回数(委託料及び補助金の支払件数)を当該年度の妊娠届出者数で除した結果、目標値を下回る結果となりました(9,824回÷810人=12.1回)。しかしながら、出産までに14回受診する人の割合は、増加の傾向にあります。 妊娠11週以下の届出が増えており、市民周知の効果はあったものと考えます。 今後も、医療機関等と密接に連携しながら、妊婦を見守っていく必要があります。 						
今後の方向性(具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> 早期に妊娠の届出をすることで自己管理意識も向上し、妊娠の週数に応じた必要な健康診査の受診も可能になることから、妊娠11週以下の届出を引き続き周知していきます。 医療機関等との連携のもと、健診結果を活用して適切な保健指導を行い、妊婦と胎児の充実した健康管理を進めます。 						
評価結果	評価の理由					
順調・継続	妊婦健康診査は、母体と胎児の健康の保持増進を図り、疾病の早期発見・早期治療に繋ぐことができることから、今後も継続して実施していきます。					

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 子ども家庭課

事業名	(施策推進の視点) 母子の健康維持 子ども医療費助成事業
------------	---------------------------------

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)						
子どもの医療費の一部を助成することにより、その疾病の早期治療を促進し、保健の向上と福祉の増進を図ります。子育て家庭の経済的負担の軽減を図り、安心して子どもを産み、育てられる環境を整えます。						
事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)						
子どもが病気やけがにより医療機関を受診した場合の医療費を、福岡県と市で助成を行います。更なる子育て家庭の経済的負担の軽減に向け、H28年10月から制度を拡充し、中学3年生までの入院、通院の助成を行うとともに、保護者の所得要件を廃止します。市民及び関係機関への制度周知を行いながら、子ども医療費助成対象者への医療証の発行を促進します。						
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
子ども医療費受給者1人当たりの平均助成額	目標値 (円)	25,000	25,000	25,000	25,000	H27年度の医療費助成の実績をもとに算出した1人当たりの平均助成額25,000円を基準に設定。
	実績値 (円)	25,636				
	達成度 (%)	102.5				

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> 計画どおりに、H28年10月から制度を拡充し、中学3年生までの入院・通院の助成を行うとともに、保護者の所得要件を廃止しました。 中学生に対する助成と所得制限廃止は、県の制度を超えた本市独自の制度です。 拡充対象者(小・中学生)の保護者には、申請案内を行い、児童手当の現況届と時期を併せて申請受付を行いました。認定後の9月には、小・中学生の子ども約6,500人に新たに「子ども医療証」を交付しました。未申請者に対しては再案内による申請の勧奨を行っています。 市民周知は、広報おむたやホームページに掲載し、FMたんとも活用しました。小中学校を通じて各家庭にチラシ配布も行いました。 関係機関周知は、大牟田医師会・大牟田歯科医師会・大牟田薬剤師会を通じて各医療機関等に通知(4月・9月)を行いました。市内各小学校・中学校に対しても通知を行いました。 						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	272,915 千円	0	114,730	98,700	26,120	33,365
(次年度への繰越)	千円)					
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた(気付いた)問題点及び課題						
<ul style="list-style-type: none"> 子ども未来室の窓口等において、市民の方からの助成拡充を歓迎する声が多数寄せられています。 子ども・子育て会議においても、子ども医療費助成事業に対する各委員の関心は高く、福岡県の制度を超えて本市独自に拡充した点(中学生の助成等)についても高い評価をいただきました。 中学3年生までの子どもが制度を利用できるようになり、指標の「子ども医療費受給者1人当たりの平均助成額」が目標値を上回ったことから、疾病の早期治療の促進と子育て家庭の経済的負担の軽減が図られたと考えます。 助成拡充による対象者数増加に伴う業務量の増大が課題です。 						
今後の方向性 (具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> 市民及び関係機関への制度周知を引き続き行いながら、全ての子ども医療費助成対象者への医療証発行を促進することにより、安心して子どもを産み育てられる環境を整えます。 審査支払事務委託先を一部変更することにより、業務量の軽減を図ります。 						
評価結果	評価の理由					
順調・継続	子ども医療費助成の拡充により、中学3年生までの子どもが必要に応じて医療費助成を受けることができる環境が整い、子育て家庭の経済的負担の軽減が図られました。					

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 子ども育成課

事業名	(施策推進の視点) 仕事と家庭が両立できる環境づくり 放課後児童健全育成事業
------------	---

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)						
放課後等に保護者が家庭にいない児童で入所を希望する児童に対して、生活や適切な遊びの場を提供することで、児童の健全育成及び保護者の家庭と仕事の両立支援を図ります。						
事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)						
利用希望者の増加による待機児童の解消が及び未整備校区への対応が課題となっており、各校区の状況に応じた取組みを進めることとしています。待機児童の解消については、特に待機児童が多い手鎌校区について、H28 年度には第 2 学童保育所 (クラブ) の整備を行い、29 年度の開設予定としています。さらに、民間の学童クラブの活用による待機児童の解消についても検討を行います。						
また、未整備校区への対応については、未整備校区 3 校区のうち 2 校区において、引き続き近隣学童保育所 (クラブ) への送迎事業を行います。						
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
入所できた児童の割合	目標値 (%)	100	100	100	100	利用希望者全員が利用できる状態を目指します
	実績値 (%)	94.7				
	達成度 (%)	94.7				

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> 待機児童の解消等を目的に、H29 年度当初開設の第 2 学童保育所 (手鎌学童クラブ) の整備及び委託事業者の選定を行いました。 待機児童の解消等を目的に、H29 年度からの民設民営学童保育所への運営費等補助事業について検討を進めました。 学校再編により H28 年 4 月 1 日に大牟田中央小学校が開校することに伴い、大牟田中央学童クラブを新たに開設しました。 						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	91,536 千円	26,444	25,241		13,416	26,435
(次年度への繰越)	千円)					
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた (気付いた) 問題点及び課題						
<ul style="list-style-type: none"> 送迎事業の実施ができていない未整備校区が 1 校区あるためことや利用希望児童が大きく増加している状況から、「(第 3 次) 学童保育所 (クラブ) 整備方針」を基本とした、事業充実に向けた取組みが必要となります。 H29 年度予算に民設民営学童保育所への運営費等の補助事業の計上はできましたが、この事業を活用した開設が進むような取組みが必要となります。 						
今後の方向性 (具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> 新たな第 2 学童保育所の整備や民設民営学童保育所の設置促進等を図りながら、利用希望児童増加や待機児童解消に向けた対応を進めます。 学校再編に伴う新設の学校で、円滑に学童保育所 (クラブ) の設置・運営が行えるように対応を図ります。 						
評価結果	評価の理由					
やや遅れ・充実	待機児童の解消はできなかったものの、第 2 学童保育所の整備や民設民営学童保育所への補助事業の創設など、H29 年度以降の利用者増加の受け皿確保に向けた対応が図れました。利用希望児童が大きく増加していることから、更なる体制の充実に取り組めます。					

評価・検証シート【施策】

平成 28 年度

【所管部局】市民協働部


施策名	(第1編第2章) 心豊かでたくましい青少年がはぐくまれるまち
-----	-----------------------------------

1. 計画 (Plan)

意図 (どういう状態になることを狙っているのか)						
次世代を担う青少年が、家庭や学校、地域における様々な人との関わりの中で、社会を生き抜くたくましさ身に付けながら、創造性豊かで思いやりのある心を持ち、心身ともに健康に、社会の一員として成長し自立することを目指します。						
指標名	各年度末における	H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
子どもの育成や見守り活動への参加率	目標値 (%)	19.0	21.0	23.0	25.0	現状値から 10 ポイント程度 (年2ポイント) の向上を目指します。 [現状値:16.5%(H26年度実績)]
	実績値 (%)	15.0				
	達成度 (%)	78.9				

2. 実行 (Do) → 構成事業の実施による

3. 検証・評価と今後の方向性 (Check & Action)

(1) 指標達成度に対する要因分析 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)	
<ul style="list-style-type: none"> 成果指標については、H26年度実績より下がっています。子どもの育成や見守り活動へより多くの参加を促すため、事業情報の広報や青少年活動に大人が関わることの必要性等の啓発が必要です。 発達段階に応じて身に付けておくべき意識や能力をはぐくむとともに、家庭、学校、地域、行政が連携強化し、それぞれの役割を果たしながら、社会全体で青少年を見守りはぐくむ環境づくりを行うことが必要です。 青少年の体験活動等の各事業を通して、地域等で子どもの育成や見守り活動への参加がありました。各種事業においては、一部に遅れはあるものの順調に目標の達成に向け事業を進めています。 	
(2) 今後の方向性 (1)の要因分析を踏まえ、施策目的達成に向けた部長方針を示す)	
<ul style="list-style-type: none"> 各事業を行うにあたっては、家庭、学校、地域の理解と多くのボランティアの協力が必要となることから、機会を捉えて次世代育成に対する理解の促進やボランティアの養成に取り組みます。 今後も、家庭、学校、地域、行政がそれぞれの教育力を高め、連携を密にし、それぞれが役割を果たしながら、社会全体で青少年を見守りはぐくむ環境づくりに向け、幅広い広報啓発活動に取り組みます。 <p style="text-align: right;">(市民協働部長 中村 珠美)</p>	
(3) 達成度	(4) 二次評価結果
	<p>一次評価における「達成度の検証」、「有効性の検証」がともに不十分。目標の達成状況の要因を再検証するとともに、構成事務事業の進め方の改善や既存事業の見直し等が必要。構成事業は概ね順調という評価だが、指標達成度は低いことから、成果指標と各事業が連動していないのではないか。青年の社会参加の促進については、これまでも注力してきた分野でもあるので、魅力ある事業へと再構築を進めるとともに、子ども居場所づくりについても、子育て支援施策等と連携しながら取り組まれない。</p>

※(3)達成度…施策目的が達成できたかを指標の達成度をもって測ります。 80%以上…はれ、60%以上80%未満…くもり、60%未満…あめ

4. 施策推進の視点と各構成事業

№	事業名	所管課	成果指標等			評価結果	注力
			指標名	単位	H28 目標 H28 実績		
[視点1] 子どもの体験活動の充実							
1	子どもの居場所づくり支援事業	生涯学習課	開設箇所数	箇所	26 24	順調	継続
2	【重点】通学合宿支援事業	生涯学習課	通学合宿を実施している校区数	校区	6 5	順調	継続
3	子ども会活動支援事業	生涯学習課	子ども会入会率	%	31 29.9	順調	継続
4	【重点】子ども読書推進事業	生涯学習課	児童書の貸出し冊数	冊	162,000 158,348	順調	充実
5	子ども体験活動事業	生涯学習課 地域コミュニティ推進課	リフレスおおむた青少年利用者数	人	10,000 9,590	順調	継続
6	【重点】子ども未来デッサン事業	生涯学習課	チャレンジ意識を持てるようになった参加者の割合（参加者アンケート）	%	100 97.9	順調	継続
[視点2] 社会の宝として、地域全体で子どもたちを見守り、育てる							
7	子どもの居場所づくり支援事業	生涯学習課	開設箇所数	箇所	26 24	順調	継続
8	通学合宿支援事業	生涯学習課	通学合宿を実施している校区数	校区	6 5	順調	継続
9	子ども会活動支援事業	生涯学習課	子ども会入会率	%	31 29.9	順調	継続
10	PTA 活動支援事業	生涯学習課	研修会の開催数	回	3 3	順調	継続
[視点3] スポーツ・文化芸術活動を通じた青少年の心身の育成							
11	【重点】子どもの体力向上事業	スポーツ推進室	半年後に運動・スポーツを週1回以上継続して実施している子どもの割合	%	100 100	順調	継続
12	スポーツ少年団育成委託事業	スポーツ推進室	小学生数に占めるスポーツ少年団員数の割合	%	13.4 12.8	順調	継続
13	おおむたっ子ががんばれ奨励金事業	生涯学習課、スポーツ推進室	奨励金の交付件数	件	170 226	順調	継続
14	子どもの文化芸術体験事業	生涯学習課	アウトリーチ事業の実施件数	件	37 47	順調	継続
[視点4] 青年の社会参加の促進							
15	【重点】青年の社会参加活動促進事業	生涯学習課	講座の参加者数	人	150 65	やや遅れ	継続
16	青年スキルアップ事業	生涯学習課	講座の参加者数	人	30 9	やや遅れ	休廃止
17	青年ボランティア活動支援事業	生涯学習課	講座の参加者数	人	60 9	遅れ	改善
18	成人式の開催	生涯学習課	式典出席率	%	65 66.4	順調	継続
[視点5] 青少年の問題行動や悩みへの対応							
19	青少年指導相談事業	生涯学習課	本市の非行者率（少年人口千人当たり）	人	5.3 5.2	順調	継続
20	青少年有害環境浄化事業	生涯学習課	県条例違反店舗数	件	0 0	順調	継続
21	青少年健全育成事業	生涯学習課	毛筆書写作品展への小中学校からの出展率	%	70.0 62.2	順調	継続

※「青少年健全育成プラン改訂事業」は評価対象から除外しています。

評価・検証シート【施策】・「別表」

5. 構成事業の実施状況

[視点1] 子どもの体験活動の充実

事業名	子どもの居場所づくり支援事業
事業の実施状況と課題	【順調】居場所ボランティアの高齢化等に伴い「継続が難しい」との声も聞こえてくる中、子どもが気軽に集える場所が継続して開所できるように、居場所を訪問し人的支援や助言等を行いました。また、新規開設を目指して、広報啓発及び未開設校区に新設に向けての取り組み依頼に出向き、問題点等の聞き取りを行いました。
今後の方向性と具体策	【継続】居場所新設や継続に向け、地域等に対し働きかけや支援を行います。
事業名	【重点】通学合宿支援事業 《評価・検証シート【事業】参照》
事業名	子ども会活動支援事業
事業の実施状況と課題	【順調】子どもの数の減少とともに、子ども会への入会の減少や、子ども会運営が難しくなり活動を辞める子ども会も増えています。今後、加入率増加に向けての支援の見直しが必要です。
今後の方向性と具体策	【継続】校区単位での子ども会設立等新しい形での子ども会加入を検討し、校区まちづくり協議会やPTAへの働きかけを行います。
事業名	【重点】子ども読書推進事業 《評価・検証シート【事業】参照》
事業名	子ども体験活動事業
事業の実施状況と課題	【順調】リフレッシュおおむたにおいては、農業体験や長期宿泊体験を実施し、連帯感や信頼関係の大切さ、仲間づくりや共同生活の大切さなどを体験する機会を提供しました。公民館においても食や環境等をテーマに、ものづくりや自然体験、公民館での宿泊等を実施しました。
今後の方向性と具体策	【継続】より多くの子どもに体験の機会を与えられるよう、事業参加対象枠等も含め事業の検討を行います。
事業名	【重点】子ども未来デッサン事業 《評価・検証シート【事業】参照》

[視点2] 社会の宝として、地域全体で子どもたちを見守り、育てる

事業名	子どもの居場所づくり支援事業 《再掲 上記視点1 参照》
事業名	通学合宿支援事業 《再掲 上記視点1 参照》
事業名	子ども会活動支援事業 《再掲 上記視点1 参照》
事業名	PTA活動支援事業
事業の実施状況と課題	【順調】単位PTAの活動の活性化を図るとともに子どもの健全育成と会員の知識教養を高めるための研修会を委託し、PTA活動の振興を図りました。
今後の方向性と具体策	【継続】単位PTAと研修会の委託契約をする等、PTA活動を支援します。

[視点3] スポーツ・文化芸術活動を通じた青少年の心身の育成

事業名	【重点】子どもの体力向上事業 《評価・検証シート【事業】参照》
事業名	スポーツ少年団育成委託事業
事業の実施状況と課題	【順調】地域の子どものためのスポーツ活動の機会づくりとして、交流ドッジボール大会(実績:15団体、287名)や体力測定会(26団体、451名)を実施しました。また、スポーツ少年団活動を普及・啓発を図るため、機関紙「スポーツ少年団ニュース」を作成し配布しました。(H28年度スポーツ少年団員数:694名)
今後の方向性と具体策	【継続】ライフスタイルの変化、少子化に伴う学校再編等により、スポーツ少年団員数も減少傾向にあることから、スポーツ少年団の活動を広く周知してまいります。
事業名	おおむたっ子がんばれ奨励金事業
事業の実施状況と課題	【順調】18歳以下の市民が地区予選を経て全国レベルの大会又は国際大会に出場する青少年に、「おおむたっ子がんばれ奨励金」を交付しました。(H28年度は、225人・1団体に対し825千円)
今後の方向性と具体策	【継続】今後も、青少年の育成、文化の振興及び出場者の意欲向上に寄与するために青少年育成基金を活用し、「おおむたっ子がんばれ奨励金」を交付します。
事業名	子どもの文化芸術体験事業 《再掲 同編第7章視点2 参照》

[視点4] 青年の社会参加の促進

事業名	【重点】青年の社会参加活動促進事業 《評価・検証シート【事業】参照》
事業名	青年スキルアップ事業
事業の実施状況と課題	【やや遅れ】2月の日曜日に新社会人や就活生のためのスキルアップセミナーとして、コミュニケーション力向上とマナー力向上のセミナーを実施しました。例年参加者が少ないため、H28年度は商工会議所の会報でも広報を行いました参加人数は増えませんでした。次年度の事業展開については、若者が求めるスキルについて再検討を行います。
今後の方向性と具体策	【休廃止】H29年度は本事業を休止し、施策推進の視点「青年の社会参加の促進」に沿って必要な事務事業を再検証します。
事業名	青年ボランティア活動支援事業
事業の実施状況と課題	【遅れ】H28年度は参加者の確保が見込めず、連続講座を休止しました。共催事業であるDreamサンタについては、第24回目を迎え12月23日に青年たちがサンタクロースなどに扮し予め家庭から預かったプレゼントを子供達に届けました。訪問家庭は10件でした。
今後の方向性と具体策	【改善】連続講座については青年に特化したボランティア活動ではなく、市民活動促進策と連携した支援策を含め検討します。また、Dreamサンタについては、25回目の節目を迎える年であり、継続できるよう取り組みます。
事業名	成人式の開催
事業の実施状況と課題	【順調】市外居住者の成人式参加申込みの電子申請を可能とし、成人式出席者の増加に努めました。
今後の方向性と具体策	【継続】今後も、成人の自覚と社会参加意識の醸成へとつながるよう、成人式を開催します。

[視点 5] 青少年の問題行動や悩みへの対応

事業名	青少年指導相談事業
事業の状況と課題	【順調】街頭活動：延べ2,560人で470回、青パト巡回：延べ841人で438回 補導された少年の数は、昨年度より161人減少し、223人となりました。電話・面談により悩みを持つ青少年や保護者等からあらゆる分野の相談を受ける相談活動については、ヤングテレホンカードの配布等周知を図っていますが、相談数が減少傾向にあります。
今後の方向性と具体策	【継続】関係機関・団体等との連携を図りながら、年間の活動計画に基づき、引き続き活動を実施します。
事業名	青少年有害環境浄化事業
事業の状況と課題	【順調】H28年度は、店舗等への要望活動や立ち入り調査について、例年と同様立ち入り調査を行い、指摘事項はありませんでした。
今後の方向性と具体策	【継続】店舗等に福岡県青少年健全育成条例の趣旨を理解し、実践してもらうよう、引き続き活動を実施します。
事業名	青少年健全育成事業
事業の状況と課題	【順調】青少年自らが地域の一員として、豊かな心、命の大切さ、自分の将来について考える機会としての毛筆書写作品展等について事業を実施し、例年同様の参加がありました。
今後の方向性と具体策	【継続】「青少年の非行・被害防止強調月間」の7月と、「子ども・若者育成支援強調月間」の11月を中心として、関係機関と連携を図り引き続き実施します。

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 生涯学習課

事業名	(施策推進の視点) 子どもの体験活動の充実/社会の宝として、地域全体で子どもたちを見守り、育てる 通学合宿支援事業
------------	---

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)						
子どもが、家事などの日常生活を自分自身で行うことにより、規則正しい生活習慣を身につけ、働くことや協力することの大切さを理解し、自主性や協調性、自尊感情を高めます。また、地域の大人が、ボランティアとして関わることにより、地域住民同士の交流を深め、子どもを地域で育てようとする機運を高めます。この事業を継続することにより、地域における子育て環境の充実に図ります。						
事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)						
市通学合宿は、子どもたちが親元を離れ、地域の人々の協力を得て、公民館等に寝泊りしながら学校外の生活を自分たちの力で行う事業です。市は、通学合宿を実施する各実行委員会に対する事業費補助の交付や運営の助言指導を行うことで支援します。 また、実行委員会と共催で通学合宿 (モデル事業) を行い、通学合宿の認知度の向上及び運営手法の確立を図ります。 ボランティア養成講座を実施することにより、通学合宿の意義や必要性の理解を促し、通学合宿の運営や子どもの指導を行うボランティアを養成します。						
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
通学合宿を実施している校区数	目標値 (校区)	6	7	8	9	実施校区が増えることにより、子どもの体験活動の場と機会が増え、地域における子育て環境が充実します。
	実績値 (校区)	5				
	達成度 (%)	83.3				

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> 新規実施校区を対象とした通学合宿モデル事業を実施しました。天の原校区通学合宿実行委員会と共催でモデル事業としての通学合宿を実施し、8人の子どもたちと実人数25人 (延べ57人) のボランティアが参加しました。 通学合宿を実施する団体への補助を行いました。市の補助を受けて通学合宿を実施した実行委員会 (3団体)、及び県の委託を受けて実施した実行委員会 (1団体) に対し、助言や本番の人的支援等を行いました。4団体合計で82人の子どもたちと実人数109人 (延べ274人) のボランティアが参加しました。 新規に通学合宿を行う校区で、ボランティア養成講座を行いました。天の原校区で通学合宿ボランティア説明会とボランティア養成講座を一体的に実施し、実人数16人が参加しました。 						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	206 千円					206
(次年度への繰越)	千円)					
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた (気付いた) 問題点及び課題						
<ul style="list-style-type: none"> 通学合宿を地域で実施するには、学校、地域、保護者の理解と多くのボランティアの協力が必要となることから、機会を捉えて通学合宿に対する理解の促進やボランティアの養成に取り組みます。 通学合宿の新規立ち上げや継続を推進する中で、事前準備等の参加すべき会議が多い等地域の負担や、子どもとどのように接したらよいか等の不安があるため、事業のスリム化やマニュアルの整備が必要です。 						
今後の方向性 (具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> 通学合宿の意義等を理解してもらえるよう地域、保護者、学校に対しての広報・啓発を行います。 実行委員会や説明会のスリム化等の検討を行います。 実施時期、内容、手法などわかりやすいマニュアルの作成を行います。 						
評価結果		評価の理由				
順調・継続		目標実施校区より1校少ないが、新規に1校区実施できました。地域の取組みで通学合宿を実施するもので、地域の事情により実施できない場合もあります。H28年度実施できなかった校区についても、今後実施できるよう支援を継続します。				

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 生涯学習課

事業名	(施策推進の視点) 子どもの体験活動の充実 子ども読書推進事業
------------	------------------------------------

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)							
多くの子どもが、読書の楽しさを知り、自主的に読書活動を行うようになります。							
事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)							
①家庭・地域・学校での、子どもの発達段階に応じた読書活動推進、②各関係団体、機関の連携や協力の推進、③子どもの読書活動に関する理解と関心の普及啓発により、子どもの読書活動の環境づくりを進めます。 具体的には、ブックスタート事業、小学生読書リーダー養成講座、各種おはなし会の充実、ヤングアダルトコーナーの充実、子ども読書に関する啓発などに取り組みます。							
	指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
児童書の貸出し冊数	目標値 (冊)		162,000	163,000	164,000	165,000	子どもの数が減少していく状況にあっても、H27年度の実績 (16万1千冊) から毎年1千冊増加。
	実績値 (冊)		158,348				
	達成度 (%)		97.7				

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> 子ども読書に関する啓発 4月23日の子ども読書の日にあわせ、広報紙で広報を行うとともに、全児童・生徒にチラシを配布。図書館においては関連イベント等を実施：(指定管理者) ブックスタート事業 全新生児に、ブックスタートパック (絵本、布バッグ、リーフレット) を配布するとともに、フォローアップ講座「赤ちゃんとのコミュニケーション講座」を実施。 小学生読書リーダー養成講座 全4回講座を実施し、22人の読書リーダーを養成しました。 ※その他、おはなし会の充実 (毎週3回) やヤングアダルトコーナーの充実に努めました。(指定管理者) 						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	1,067 千円					1,067
(次年度への繰越)	千円)					
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた (気付いた) 問題点及び課題						
<ul style="list-style-type: none"> おはなし会や講座等への参加者は元々意識が高く、関心が薄い層や参加したくても諸事情により参加できない層への働きかけや手立てが必要です。 成果指標の達成度は、97.7%となっていますが、前年と比較すると、貸出し冊数は減少しています。 養成した読書リーダーのその後の活動状況の把握と活躍の場の確保。 市立図書館の貸出し冊数を指標としているため、具体的に増加するための仕掛けが必要。 						
今後の方向性 (具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> 今後も学校や指定管理者、読書ボランティアと連携しながら、各事業の充実に努めます。 (①県の補助事業である「うち読」に取り組み、学校へ直接図書館が出向く。②読書リーダーが中学校に進級する際、活用を呼びかける。③参加しやすい日時、場所の検討。) 						
評価結果	評価の理由					
順調・充実	各講座やイベントなどの参加者の満足度は高い。今後はより参加しやすい環境の整備や、参加意欲を喚起するよう事業内容・広報の充実に努めます。また、目標を直接的に達成する手段として、新規事業に取り組みこととしています。					

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 生涯学習課

事業名	(施策推進の視点) 子どもの体験活動の充実 子ども未来デッサン事業
------------	--------------------------------------

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)						
小学校高学年 (4~6 年生) が、自分の将来のことを考え、夢や目標を見つけるきっかけをつくることで、児童達に未来へ向かって頑張る姿勢を身に付けてもらうための一助となることを目指しています。						
事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)						
児童達が、様々な仕事に携わる職業人から、職業に就いたきっかけや、夢を実現させるために努力したこと、現在の職業のやりがいや様子などの話を聞く機会をつくります (H27 年度からスタートし、大変人気があったことから、H28 年度は講座数を増やして全 6 講座を開催)。実施にあたっては、講義のみならず模擬体験などを行い、子ども達の興味を促すよう工夫を凝らした内容で行います。 なお、職種については、青少年向けの職業を紹介した書籍、小学校 6 年生の将来の夢 (小学校だより)、受講した子どものアンケートなどを参考にし、児童達のニーズを踏まえて選定を行います。						
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
チャレンジ意識を持てるようになった参加者の割合 (参加者アンケート)	目標値 (%)	100	100	100	100	児童全員が事後のアンケートで「自分も何かを頑張ってみようと思った」と回答することを目指して取組みます。
	実績値 (%)	97.9				
	達成度 (%)	97.9				

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> ・舞台女優 (劇団四季所属: 梅崎友里絵氏・潮崎亜耶氏) 7/25 (月) / 受講者 20 人 ・保育士 (天領保育園) 7/30 (土) / 受講者 27 人 ・スポーツウェアをつくる人 (帝人フロンティアアパレル工業株) 8/ 5 (金) / 受講者 32 人 ・パン職人 (どんぐりの樹) 10/ 8 (土) / 受講者 38 人 ・消防士 (大牟田市消防本部) 11/20 (日) / 受講者 31 人 ・医師 (大牟田市立病院・2 回開催) 12/18 (日) / 受講者 56 人 						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	266 千円					266
(次年度への繰越 千円)						
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた (気付いた) 問題点及び課題						
<ul style="list-style-type: none"> ・大変人気があり、申込みが定員 (全講座 20 人) を上回るケースが多いことから、実施にあたっては多くの児童が参加できるよう、手法の工夫や職業人の協力が不可欠となっています。(職業人の協力により定員を超過した人数で実施。特に医師については定員の 3 倍以上の申込みがあったが市立病院の協力により 1 日に 2 回実施して対応。) 						
今後の方向性 (具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、児童が憧れる職業やニーズを把握するとともに、できるだけ多くの児童が参加できるように定員、手法等の検討を行います。 ・また、指標の達成度を維持させるために、当該事業が仕事の素晴らしさや将来の目標を見つけるきっかけとなれるよう、職業人の皆さんに理解・協力を得ながら講話や体験に工夫を凝らします。 						
評価結果	評価の理由					
順調・継続	対象者のニーズに即しており、社会性をはぐくむ事業です。大人 (職業人) の「子どもを地域で育てる意識」の醸成、社会全体で青少年を見守りはぐくむ環境づくりにも寄与しています。					

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： スポーツ推進室

事業名	(施策推進の視点) スポーツ・文化芸術活動を通じた青少年の心身の育成 子どもの体力向上事業
------------	--

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)						
子どもが、幼少期から運動・スポーツに慣れ親しむことで、スポーツの習慣化による心身の健全化を図ります。						
事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)						
就学前の子どもの保護者に対してスポーツが持つ効果の理解促進を図り、子どもと保護者が、家庭において気軽に運動・スポーツに取り組めるよう就学前の子ども (3~6歳) を対象とした「親子運動セミナー」を実施します。						
全5回連続講座：第1回目 保護者講義、子どもの体力測定① 第2、3、4回目 親子を対象とした実技 第5回目 子どもの体力測定②						
参加者に対するアンケート追跡調査 (H29年2~3月頃)						
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
半年後に運動・スポーツを週1回以上継続して実施している子どもの割合	目標値 (%)	100	100	100	100	H27年度実績 (継続実施率: 100%) を基に目標値を設定
	実績値 (%)	100				
	達成度 (%)	100				

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況						
親子運動セミナー (60組、137人)						
・時期 H28.7.17~11.27						
・場所 明治小学校体育館 (第4回のみ大正小学校運動場)						
・内容 第1回 保護者セミナー、子どもの体力測定① 第2、3、4回 親子で運動遊び 第5回 子どもの体力測定②						
・参加者に対するアンケート追跡調査 (H29.1)						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	450 千円					450
(次年度への繰越)	千円)					
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた (気付いた) 問題点及び課題						
・本事業は、募集開始後すぐに定員となるニーズが高い事業です。						
・就学前の子どもを対象として継続して実施する事業が少なく、アンケート結果では、親は年間を通じた事業実施を望む声もありますが、人的な対応ができない状況です。						
今後の方向性 (具体策)						
・業務委託先であるスポーツ推進委員協議会と協議を行いながら、実施回数の増加ができないか検討します。						
評価結果	評価の理由					
順調・継続	当セミナーは、申込状況もよく、セミナー終了時に行うアンケート結果からも、好評を得ており、セミナー内容の検証をしながら継続して実施していきます。					

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 生涯学習課

事業名	(施策推進の視点) 青年の社会参加の促進 青年の社会参加活動促進事業
------------	---------------------------------------

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)						
青年 (18 歳～35 歳) が多くの人との交流を持ちながら、社会参加活動の中で自ら担う役割を認識し、積極的に社会貢献ができるようにします。						
事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)						
本事業は、「大牟田市青少年健全育成プラン (2015～2019)」に掲げる基本施策「青年の社会活動参加の促進」のための 3 重点事業の 1 つであり、青年期における仲間づくりの機会の減少や青年のコミュニケーション能力の低下等の課題を解決するため、青年が多くの人と交流し仲間づくりを行ったり、コミュニケーション能力を高めるための講座を開催します。 具体的には、H28 年度は全 5 回程度の連続講座を 3 回開催し、講座終了後にはサークルとしての活動の継続を目指します。						
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
講座の参加者数	目標値 (人)	150	200	250	270	上述の青少年健全育成プランの H31 年度の目標値が 3 事業で 450 人であり、本事業では、最終年度に 270 人の参加を目指す
	実績値 (人)	65				
	達成度 (%)	43.3				

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> 10 月の毎週土曜日の午前中に、全 5 回の日程で「はじめてのヨガ～バランスのとれた心と体を手に入れよう～」講座を実施しました。本講座は、毎日を学校や職場、あるいは家庭、育児のなかで忙しく過ごし、なかなか、学校や職場、家庭以外の場所へ出かけて行って、新しい人と出会ったり、コミュニケーションを図る機会も余力もない人たちへ、ヨガ講座を通じて日々のストレスを少しでも解消し、心と体をリフレッシュし余力が出てきたところで、新たな仲間づくりを行うことを目指し実施しました。 また、講座終了後はサークルとして活動を継続することが決まり、11 月にヨガサークル「11.5 縁 (いごえん)」が設立し、えるるでの活動を継続しています。 						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	99 千円				21	78
(次年度への繰越)	千円)					
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた (気付いた) 問題点及び課題						
・3 つのテーマで予定していた連続講座を 1 テーマでしか実施できなかったため、指標の達成度が目標を下回りました。						
今後の方向性 (具体策)						
・若者が興味を持つようなテーマの設定、参加がしやすい時間帯の設定など、内容や開催時間など、工夫を凝らし講座を企画、実施します。						
評価結果	評価の理由					
やや遅れ・継続	講座の開催が計画通り実施できておらず、また参加者の確保についても苦慮していますが、引き続き青少年健全育成プランの推進に努めます。					

評価・検証シート【施策】

平成 28 年度

【所管部局】教育委員会


施策名	(第1編第3章) 社会を生き抜く力を育成する学校教育が充実しているまち
-----	--

1. 計画 (Plan)

意図 (どういう状態になることを狙っているのか)						
児童生徒に、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させるとともに、激しく変化し続ける社会の中で、それらを活用しながら、自ら課題を発見し、主体的に解決できるようになるために必要な資質や能力すなわち「社会を生き抜く力」をはぐくみます。						
指標名	各年度末における	H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
将来に向けて意欲を持って取り組もうとする 中学3年生の割合	目標値 (%)	74.0	76.0	78.0	80.0	現状値から8ポイント程度 (年2ポイント)の向上を目指します。 [現状値: 72.6% (27年度実績)]
	実績値 (%)	74.3				
	達成度 (%)	100.4				

2. 実行 (Do) → 構成事業の実施による

3. 検証・評価と今後の方向性 (Check & Action)

(1) 指標達成度に対する要因分析 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)	
本施策の成果指標の28年度の実績値は74.3%となり、目標を達成することができました。その要因として次のようなことが考えられます。 児童生徒は、自己の能力を発揮できたときや自己の目標の達成感を味わったとき、新たな目標を持ち、主体的に行動します。本市の特色ある教育の主要な柱であるESDの推進において、各学校は、学校の特色や児童生徒の発達段階に応じ、自ら考え行動する児童生徒の育成を目指した教育活動を展開し、教育委員会はその支援を行うとともに、ESDに関する様々な全市的的事业に取り組みました。その結果、児童生徒は、目標を持つことの大切さについて理解するとともに、目標に向けて頑張ったことによる達成感を味わうことができたと考えられます。 更に、社会を生き抜く力の基礎となる「確かな学力(知育)」、「豊かな心(德育)」、「健やかな体(体育)」のバランスが取れた児童生徒の育成を目指して、各学校は、児童生徒の興味・関心や能力に応じた教育活動を展開し、教育委員会はその支援を行うとともに、様々な全市的的事业に取り組みました。その結果、児童生徒それぞれが自己のよさを様々な場面で発揮でき、達成感を味わうことができたと考えられます。	
(2) 今後の方向性 (1)の要因分析を踏まえ、施策目的達成に向けた部長方針を示す)	
これまでの継続的な取り組みの結果が28年度目標の達成につながったと考えられますので、今後においても、本施策を構成する様々な事業の更なる推進と拡充を基本に取り組んでいくことが重要であると考えます。 このため、ESDを中核として、郷土愛をはぐくむ学習や英語教育などの本市の特色ある教育の充実を一層進めるとともに、知育・德育・体育のバランスが取れた教育を推進し、児童生徒が達成感を味わうことで、新たな目標を持ち、将来に向けた意欲を持てるようはぐくんでいきます。 また、各学校が更に特色ある教育活動を展開することで、児童生徒一人ひとりが自己のよさを発揮し、目標を持って主体的に学ぶことができるよう支援していきます。	
(教育委員会事務局長 大迫 孝博)	
(3) 達成度	(4) 二次評価結果
	一次評価のとおり、継続して施策を推進する。目標値を達成し、構成事業も全体的に順調に進んでいると評価されているが、全体的な底上げに向けた取組みを検討されたい。また、多くの事業で今後更に充実するとされているが、事務負担も増える場合もあるので、事業の重点化や集約化を検討しながら進められたい。

※(3)達成度…施策目的が達成できたかを指標の達成度をもって測ります。 80%以上…はれ、60%以上80%未満…くもり、60%未満…あめ

4. 施策推進の視点と各構成事業

№	事業名	所管課	成果指標等			評価結果	
			指標名	単位	H28 目標 H28 実績	結果検証 ・分析	今後の 方向性
[視点1] 特色ある学校教育の展開							
1	おおむた・みらい・ESD 推進事業	指導室	ESD を通じた地域や世界への貢献の意識	%	87.0 87.4	順調	充実
2	【重点】大牟田英語教育ステップアップ推進事業	指導室	英語の授業の理解度	%	82.0 82.9	順調	充実
3	おおむた郷土学習推進事業	指導室	郷土大牟田に対する興味・関心	%	86.0 88.8	順調	充実
4	小中連携・小中一貫教育の推進	指導室	小中連携・小中一環教育の取組み実績	回	50 61	順調	充実
[視点2] 知育・徳育・体育のバランスが取れた児童生徒をはぐくむ							
5	少人数学級編制・少人数授業推進事業	学校教育課	少人数学級編制による学習意欲の向上	%	90.0 94.0	順調	充実
6	【重点】大牟田学力ブラッシュアップ推進事業	指導室	標準学力検査結果	—	50 50.3	順調	充実
7	【重点】「思いやり・親切」応援隊子どもプロジェクト事業	指導室	友だちを大切にする意識	—	3.7 3.72	順調	充実
8	特別支援教育支援員活用事業	学校教育課	特別支援教育支援員の配置効果	%	100 100	順調	充実
9	特別支援学校医療的ケア事業	学校教育課	看護師の配置効果	%	100 100	順調	継続
10	教育相談事業	指導室	適応指導教室、訪問指導員が関わることで解決又は好転した事案の割合	%	80.0 82.7	順調	充実
11	読書活動推進事業	指導室	本をよく読むと答えた児童生徒の割合	%	30.0 30.1	順調	充実
12	子ども大牟田体力検定推進事業	指導室	児童生徒の体力向上の取組み実績	%	90.0 93.5	順調	充実
13	学校教育における食育推進事業	学務課、指導室	毎日朝食を食べている児童生徒の割合	%	86.5 79.5	順調	充実
[視点3] 学校教育環境の充実							
14	【重点】学校再編整備推進事業	学校再編推進室、学校教育課、学務課	学校再編による教育環境向上の満足度（大牟田中央小）	%	80.0 81.9	順調	継続
15	学校空調設備設置事業	学務課	小中学校の普通教室等への空調設備の設置	—	小学校全校に設置 小学校全校に設置	順調	継続
16	学校施設長寿命化改修事業	学務課	長寿命化を完了した学校の割合（当該年度分）	%	100 100	順調	継続
17	非構造部材耐震化推進事業	学務課	耐震化を完了した学校の割合（特定天井の撤去率）（当該年度分）	%	100 100	順調	継続
[視点4] 安心して学べ、地域とともにある学校づくり							
18	【重点】「思いやり・親切」応援隊子どもプロジェクト事業（再掲）	指導室	友だちを大切にする意識	—	3.7 3.72	順調	充実
19	スクールソーシャルワーカー活用事業	指導室	S S Wが関わることで解決又は好転した事案の割合	%	74.0 76.6	順調	充実
20	就学援助事業	学務課	保護者への就学援助事業を周知した割合（申請書等配布率）	%	100 100	順調	充実
21	ユネスコスクールの体制に関する研究	学校教育課	ユネスコスクールの体制に関する研究・協議の実施回数	回	5 5	順調	継続

※「市立学校適正規模・適正配置計画の中間見直し」は評価対象から除外しています。

評価・検証シート【施策】・「別表」

5. 構成事業の実施状況

[視点1] 特色ある学校教育の展開

事業名	おおむた・みらい・ESD 推進事業
事業の実施状況と課題	<p>【順調】各学校は、ユネスコスクールの趣旨を踏まえ ESD に取り組みました。本市や各学校の ESD の取組みについて、教育委員会ホームページへの掲載や、ESD 実践事例集等を作成して関係機関に配布し、情報発信を行いました。</p> <p>1月17日を「大牟田市ユネスコスクールの日」と定め、1月14日に、制定記念式典と併せ、第6回「ユネスコスクール子どもサミット」を開催し、市内外のユネスコスクールとの交流を行いました。</p> <p>教職員対象の ESD 研修会を8月と12月に開催し、各学校の ESD の充実を進めました。中学校版世界遺産学習教材集を作成し、各中学校と全ての中学生に配布しました。今後更に、一般の市民にも ESD について理解してもらうことが課題です。</p>
今後の方向性と具体策	<p>【充実】本事業に係る各取組みの継続と充実を図るとともに、一般の市民も対象とした ESD に係る知識の普及や情報の発信を進めていきます。</p>
事業名	【重点】大牟田英語教育ステップアップ推進事業 《評価・検証シート【事業】参照》
事業名	おおむた郷土学習推進事業
事業の実施状況と課題	<p>【順調】子ども大牟田検定（郷土検定）の28年度1回目（通算11回目）を9月に行い、5,768人の児童生徒が受検しました。2回目（同12回目）を1月に行い、5,397人の児童生徒が受検しました。年間合計の受検率は90.8%でした。また、27年度に引き続き高校や一般市民にも受検を呼びかけ、高校生1,410人、一般市民250人が受検しました。</p> <p>「子どもが見る大牟田100年史」を刊行し、各市立学校、全児童生徒、関係機関等に配布しました。</p> <p>今後は、小学校1・2年生の児童も子ども大牟田検定を受検できるようにすることが課題です。</p>
今後の方向性と具体策	<p>【充実】28年度に検討してきた郷土学習ガイドブック（小学校1・2年生用と3年生以上用の2種類）を作成・配布するとともに、検定問題を入門編（小学校1・2年生対象）・中級編（同3年生以上対象）・上級編（同5年生以上の希望者を対象）の3種類とするなどの充実を図ります。</p>
事業名	小中連携・小中一貫教育の推進
事業の実施状況と課題	<p>【順調】市内中学校区ごとに、小学校と中学校の9年間を見通した教育活動を推進するため、全職員参加の研修会や管理職・担当者ごとの情報交換会などを実施しました。今後、中学校区ごとの小学校と中学校の取組みの一層の具体化と、市全体としての取組みの充実が課題です。</p>
今後の方向性と具体策	<p>【充実】中学校校区ごとの各研修会の定期的実施の奨励と、市教委が主催する各担当者会や教育講座等において小中連携の視点を取り入れるようにします。</p>

[視点2] 知育・徳育・体育のバランスが取れた児童生徒をはぐくむ

事業名	少人数学級編制・少人数授業推進事業
事業の状況と課題	<p>【順調】少人数学級編制については、県加配教員を担任とする等により、全小学校の全学年を35人以下学級としました。中学校では学校の実態に応じて弾力的運用を図り、対象6校のうち3校4学年を35人以下学級としました。また、少人数授業推進のため、非常勤講師を小学校に13人、中学校に12人派遣しました。これらの取組みを通してきめ細やかな指導の充実を図ったことで、学習意欲や学力の向上とともに、落ち着きある学級づくりを進めることができました。</p> <p>課題としては、事業の成果を更に向上できるよう、非常勤講師の派遣の一層の充実を図る必要があります。</p>
今後の方向性と具体策	<p>【充実】今後数年間における本事業の対象学級数の出現率を見極めながら、非常勤講師の派遣の充実に取り組みます。</p>
事業名	<p>【重点】大牟田学力ブラッシュアップ推進事業 《平成28年度重点事業の取組状況報告書 参照》</p>
事業名	<p>【重点】「思いやり・親切」応援隊子どもプロジェクト事業 《平成28年度重点事業の取組状況報告書 参照》</p>
事業名	特別支援教育支援員活用事業
事業の状況と課題	<p>【順調】障害児就学指導委員会等により要支援と判断された全ての児童生徒76人に対し、小学校18校に37人、中学校8校に14人、計51人の支援員を派遣しました。きめ細やかな支援を受けることで、対象児童生徒本人の精神的な安定が図られ、周囲の児童生徒の理解も進み、学級全体が落ち着き、集中して学習に取り組むことができました。また、保護者の介助等の軽減も図られました。課題としては、今後も要支援児童生徒の増加が見込まれており、それに伴う人材と派遣人数の確保と、各学校の校長を中心とした組織的な校内支援体制づくりの充実が必要です。</p>
今後の方向性と具体策	<p>【充実】要支援児童生徒の増加に対応できるよう、支援員の人材確保と資質の向上を図るとともに、組織的な校内支援体制づくりに関する管理職への周知を更に進めます。</p>
事業名	特別支援学校医療的ケア事業
事業の状況と課題	<p>【順調】大牟田特別支援学校の対象児童生徒4名に対し、2名の看護師を非常勤職員として配置しました。校長を中心とした医療的ケア運営委員会を毎学期2回開催し、主治医・指導医の指導のもと、保護者の理解も得ながら医療的ケアを行うことで、児童生徒の症状は安定し、保護者の負担も軽減されています。また、対象児童生徒の年度途中の増加に対しても対応できるよう、看護師の一定の増員も可能としました。</p>
今後の方向性と具体策	<p>【継続】児童生徒数の推計では、今後数年は同程度で推移すると予想されますが、常に関係機関との連携を図りながら、児童生徒の実態把握に努めていきます。</p>
事業名	教育相談事業
事業の状況と課題	<p>【順調】市教育研究所教育相談室に、教育相談員2人、ひきこもり児童生徒訪問指導員3人、スクールソーシャルワーカー(SSW)1人を配置しました。随時3者で連携を図り、児童生徒、保護者等への面談、学校訪問・家庭訪問等を実施し、問題の解決に取り組んだことで、その多くが解決又は好転しました。複雑化・深刻化する前の段階での早期対応の充実が課題です。</p>
今後の方向性と具体策	<p>【充実】教育相談室、学校、子ども家庭課等の関係機関と、問題発生時の早い段階での情報の共有を進め、問題への早期対応、早期解決に努めていきます。</p>

事業名	読書活動推進事業
事業の実施状況と課題	【順調】7月に読書感想文を募集し、2月に優秀賞の表彰を行いました。また、3月に読書感想文集を各学校や関係機関等へ配布しました。各学校では、担当教師と司書等が連携を図り、学校の実態に応じて、読書週間の設定や奨励本コーナーの設置、読み聞かせや親子読書などに取り組んだことにより、読書に関心を持つ児童生徒の割合が増えました。各学校の実態や児童生徒の発達段階に応じた読書活動の更なる充実が課題です。
今後の方向性と具体策	【充実】各学校の担当教師と司書等が一層の連携を図り、学校の実態に応じた読書活動の更なる充実を進めていきます。
事業名	子ども大牟田体力検定推進事業
事業の実施状況と課題	【順調】5月にチャレンジカードと検定カードを全児童生徒に配布しました。6月から2月までを子ども大牟田体力検定の実施期間と設定し、各学校では学校の実態に応じて実施日を設定し、体力検定を実施しました。さらに、児童生徒の達成状況に応じて認定証を配布しました。このような取組を通して児童生徒の運動の習慣化を図りました。 小学校に比べて中学校の検定参加率が低い状況にあり、中学校の参加率の更なる向上が課題です。
今後の方向性と具体策	【充実】今後も児童生徒の運動の習慣化を図るとともに、各学校の実態に応じた体力検定の種目選択や実施方法等の検討を行っていきます。
事業名	学校教育における食育推進事業
事業の実施状況と課題	【順調】食育推進モデル校、早寝早起き朝ごはん運動推進モデル校の指定による食に関する意識や食習慣の改善、朝食摂取率の向上等の推進とともに、学校給食における地場産青果物の優先活用基準を策定し、取組みを進めました。成果指標（朝食摂取率）のH28実績値は目標値に届いていませんが、「順調」と評価しました。これは、目標値に対する達成度が90%を超えていること、また、年度当初の計画どおりに事業を実施できており、課題と対応策など、今後の見通しも立っていることがその理由です。課題としては、H29年度は2年目・3年目となるモデル校での取組み等の充実を図る必要があります。
今後の方向性と具体策	【充実】モデル校での取組みの内容とその成果を各学校へ拡げること、全ての児童生徒と保護者が朝食の大切さをしっかりと理解し、家庭での実践に結び付けていくよう、更なる啓発を進めます。また、地域の農業者の方の指導による田植えや稲刈りなどの体験活動や、学校・家庭・地域の連携による生活習慣の改善に向けた研修会の開催など、朝食摂取の意義に対する理解を深める取組みを進めます。

[視点3] 学校教育環境の充実

事業名	【重点】学校再編整備推進事業 《平成28年度重点事業の取組状況報告書 参照》
事業名	学校空調設備設置事業
事業の実施状況と課題	【順調】学校再編事業で設置した2小学校を除く18校の普通教室及び食堂に空調設備を設置しました。また、使用するに当たっての基準や方法を定めた「学校空調設備取扱要領」を策定し、その運用について学校に対し周知徹底を行いました。
今後の方向性と具体策	【継続】29年度は、学校再編で設置した2中学校を除く6校の普通教室へ空調設備を設置することで、全小中学校への設置が完了することとなり、より快適な教育環境が実現します。

事業名	学校施設長寿命化改修事業
事業の実施状況と課題	<p>【順調】小学校2校（吉野小学校、手鎌小学校）の外壁改修及び屋上防水工事の実施設計を行いました。</p> <p>学校施設の整備については、長寿命化改修以外にも、学校再編に伴うものや非構造部材の耐震化などの多くの事業を実施していく必要がありますが、改修時期等を延伸することで施設の老朽化が一層進行し改修費用が更に増加することがないように、26年度に策定した学校施設長寿命化改修計画に示す基本方針を踏まえ、計画的に整備を進める必要があります。</p>
今後の方向性と具体策	<p>【継続】29年度に吉野小学校の外壁改修及び屋上防水工事を行うことで、計画的に学校施設の長寿命化を進めます。</p>
事業名	非構造部材耐震化推進事業
事業の実施状況と課題	<p>【順調】小学校2校（中友小学校、羽山台小学校）と中学校2校（米生中学校（現・宮原中学校）、歴木中学校）の体育館の天井落下防止工事、及びLED照明器具への取替えを行うとともに、小学校2校については外壁の安全対策も行いました。</p> <p>非構造部材の耐震化（天井落下防止工事）が必要な体育館は残り9校あり、総合計画の財政計画との整合を図りながら、30年度までに計画的に天井落下防止工事を実施する必要があります。</p>
今後の方向性と具体策	<p>【継続】29年度に小学校2校（大正小学校、白川小学校）と中学校1校（田隈中学校）の天井落下防止工事等を行うことで、30年度の完了に向けて計画的に非構造部材の耐震化を進めます。</p>

[視点4] 安心して学べ、地域とともにある学校づくり

事業名	<p>【重点】「思いやり・親切」応援隊子どもプロジェクト事業</p> <p>《再掲・平成28年度重点事業の取組状況報告書 参照》</p>
事業名	スクールソーシャルワーカー活用事業
事業の実施状況と課題	<p>【順調】市教育研究所相談室にスクールソーシャルワーカー（SSW）を1人・週3日配置し、学校関係者や保護者等からの電話での相談や面談等の対応を行いました。教育相談室内の関係者による情報交換会や教育、福祉の関係機関によるケース会議において、支援を要する児童生徒等の情報の共有と問題の解決を図りました。しかし、相談件数は年々増加するとともに、相談内容も多様化・複雑化しており、よりきめ細かな対応ができる相談体制の整備が課題です。</p>
今後の方向性と具体策	<p>【充実】SSWと関係機関との更なる連携強化を図るとともに、よりきめ細やかな対応ができるようSSWの配置を拡充することとしました。</p>
事業名	就学援助事業
事業の実施状況と課題	<p>【順調】1,162人（小学校744人、中学校418人）の児童生徒の保護者に対して、学校給食費や学用品費等を支給しました。</p> <p>就学援助制度に関する説明文書を、よりわかりやすくなるよう見直しを行い、申請書とともに、児童生徒を通して全ての保護者に配布しました。また、ホームページの就学援助の説明記事についても同様に見直しを行いました。</p> <p>課題としては、更に制度の周知徹底を図るとともに、援助内容の拡充について検討していく必要があります。</p>
今後の方向性と具体策	<p>【充実】更なる就学援助制度の内容を検討するとともに、子どもの貧困対策の推進に関する法律などの関係法令の趣旨を踏まえ、新入学用品費の入学前支給を行うよう予定しています。</p>

事業名	ユネスコスクールの体制に関する研究
事業の実施状況と課題	<p>【順調】ユネスコスクールと地域との連携の推進を図るため、ユネスコスクールの体制に関する研究会を設置し、ユネスコスクールの支援体制強化を目指した「大牟田版コミュニティ・スクール構想」についての調査、研究及び協議を進めました。</p> <p>課題としては、各ユネスコスクールと地域の実情を一層踏まえた学校運営協議会の具体的な在り方などについて研究を進めていく必要があります。</p>
今後の方向性と具体策	<p>【継続】今後は、学校評議員制度と学校関係者評価委員会の関係整理をした学校運営協議会による「大牟田版コミュニティ・スクール構想」の試験的な実施についての協議を行っていきます。</p>

平成28年度重点事業の取組状況報告書

(担当課：学校教育課指導室)

事業名	(施策推進の視点) 特色ある学校教育の展開 大牟田英語教育ステップアップ推進事業
-----	--

目的	本市の英語教育の成果と生徒の英語力に係る国の目標を踏まえ、小・中学校の学年に応じた新たな事業に取り組み、児童生徒の英語を使う実践力の向上を図ります。
----	--

事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 小学校2校をモデル校として、外国の学校との交流を実施し、世界遺産などの「大牟田の宝」や学校の紹介等を英語で行います。 2 夏季休業期間中に全小学校で、英語を「聞く」「話す」「読む」「書く」の学習を行う「イングリッシュ・サマースクール」を開催します。 3 中学校1校をモデル校として、英検の学習と模擬受験等を内容とする「イングリッシュ・チャレンジ」を開催します。 4 小学校において、英検5級の受験を希望する児童に対し検定料の一部を補助します。また、中学校において、英検3級の受験を希望する生徒に対し検定料の一部を補助します。 5 中学生を対象に、2コースの「イングリッシュセミナー」を開催します。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 本市の世界遺産等の外国人見学者に対し英語で説明できる「子どもイングリッシュボランティアガイド」育成コース (2) 世界遺産などの「大牟田の宝」の「イングリッシュガイドブック」作成コース 6 各学校の英語教育の発表の場「オオムタ・E1グランプリ」を開催し、小学生コンテスト(スキット)と中学生コンテスト(スピーチ、暗唱)を行い、優れた発表者を表彰します。
------	--

指標名	各年度末における	H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
英語の授業の理解度	目標値 (%)	82	83	84	85	外国語活動、英語科の授業はよく分かると答えた小学5年生と中学2年生の割合(27年度実績・81.7%)を、85%を目指して毎年1ポイントずつ向上させます。
	実績値 (%)	82.9				
	達成度 (%)	101.1				

取組実績	<ol style="list-style-type: none"> 1 吉野小学校と大牟田中央小学校をモデル校として、自校の紹介など具体的な交流内容についての計画を立てて、アメリカの小学校との交流を行いました。 2 夏季休業期間中に全小学校で5日間の「イングリッシュ・サマースクール」を開催しました。サマースクールには、英語指導のサポートを行うイングリッシュ・アドバイザーを派遣するなどして、学習の充実を図りました。 3 橘中学校をモデル校として、教育課程内等での英語検定に係る学習指導の研究に取り組みました。 4 小学校においては英検5級の受験を希望する6年生に、中学校においては英検3級の受験を希望する3年生に検定料の一部を補助(小学校1,000円、中学校1,500円)することとして受験希望者を募り、小学生260人と中学生122人が受験しました。 5 米生中学校を会場として、「イングリッシュセミナー」を合計15回開催し、10人の生徒が受講しました。セミナーには毎回イングリッシュ・アドバイザーを派遣し学習の充実を図りました。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「子どもイングリッシュボランティアガイド」育成コースでは、宮原坑を中心とした世界遺産の英語での説明についての学習に取り組みました。 (2) 「イングリッシュガイドブック」作成コースでは、「大牟田の宝」の英語版紹介ポスターを11月に作成し、12月に各学校や関係機関へ配布しました。 6 11月26日に文化会館で「オオムタ・E1グランプリ」を開催し、小学生コンテストでは9グループがスキットの発表を、中学生コンテストでは8グループが英語の教科書の暗唱の発表を行いました。発表後、グランプリほか各賞の表彰を行いました。
------	--

決算	国	県	起債	その他	一般財源
決算額 (次年度への繰越)	2,000 千円 千円)				2,000

問題点及び課題	小学校段階における新学習指導要領の実施を見据えた学習活動の充実が課題です。また、英検検定料の一部補助の継続を含め、児童生徒の興味・関心に応じた学習機会の提供が必要です。
---------	--

今後の方向性(具体策)	各小学校が実施するサマースクールへの支援を継続するとともに、小学校段階での英語を「読む・書く」の学習に係る資料の作成も進めます。イングリッシュセミナーとE1グランプリの開催、英検検定料の一部補助について28年度の取組を継続します。
-------------	---

評価	評価の理由
順調・充実	当初の計画どおり事業を実施でき、成果も上がっています。今後も、学習指導要領の改訂等を踏まえながら、児童生徒の英語を使う実践力の向上に向けて事業の充実を図っていきます。

平成28年度重点事業の取組状況報告書

(担当課：学校教育課指導室)

事業名	(施策推進の視点) 知育・徳育・体育のバランスが取れた児童生徒をはぐくむ 大牟田学力ブラッシュアップ推進事業
------------	--

目的	本市のこれまでの学力向上の取組の成果と児童生徒の学力の実態を踏まえ、取組の更なる強化と新たな事業に取り組み、児童生徒の学力の向上を目指します。
-----------	---

事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 各小・中学校において、夏季休業期間中に5日間程度、国語・算数(数学)等の基礎・基本の学習を中心に、児童生徒の実態に応じた「強化学習」を実施します。 小学校高学年児童及び中学校生徒を対象に、国語・算数(数学)等の教科の難問にチャレンジする「いきいきサマースクール」を開催します。 小・中学校の学年別に、個人やグループによる理科や社会科等の学習に関する自由研究のコンテスト「学びのグランプリ」を開催し、教科別・学年別に優れた発表者を表彰します。 児童生徒用の「家庭学習ガイドブック」と保護者用の「家庭学習リーフレット」を作成し、全児童生徒及び全保護者へ配布するほか、毎月11日(“いい日”)を「家庭学習の日」と定め、家庭学習に関する標語等を募集するなどの啓発を行い、家庭学習習慣の定着に取り組みます。 各学校等における学力向上を目指した日々の実践についての報告会を開催し、意見交換会等を行います。 上記の各取組の様子や成果等を教育委員会のホームページや『広報おおむた』等に掲載するなどにより、保護者や市民等に向けて、学力向上の取組の情報を発信します。
-------------	--

指標名	各年度末における	H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
標準学力検査結果	目標値	50	50	50	50	小学5年生と中学2年生を対象に実施する標準学力検査の結果を毎年度50(全国平均値)以上とすることを目標とします。
	実績値	50.3				
	達成度(%)	100.6				

取組実績	<ol style="list-style-type: none"> 各小・中学校の夏季休業期間中に「強化学習」を、中学校の放課後等に「補充学習」をそれぞれ実施するとともに、学習サポーターとして教員や学生等を派遣し、学習指導の充実を図りました。 8月10日に「いきいきサマースクール」を開催し、67人の児童生徒が参加して国語や算数・数学の難問に挑戦しました。1月5日に「クイズ大会」を開催し、71人の児童生徒が参加して、3人一組で国語と算数・数学の基本の問題に挑戦しました。 小・中学校の夏休みの自由研究の作品の中から、理科や社会科等の学習に関する作品を募集し、多数の応募の中から小学校6点、中学校5点の作品を選考しました。11月12日に石炭産業科学館で「学びのグランプリ」を開催し、作品作りのきっかけや工夫した点などについての発表を行うとともに、各表彰を行いました。 児童生徒用「家庭学習ガイドブック」と保護者用「家庭学習リーフレット」を作成し、10月に各学校を通してそれぞれ配布しました。毎月11日(“いい日”)を「家庭学習の日」と定め、各中学校区において小学校と中学校が連携し、家庭学習強化週間の設定を行うなどの取組を展開し、家庭学習習慣の定着に取り組みしました。 2月23日に「学力向上実践報告会」を開催しました。小学校2校、中学校1校の実践発表の後、中学校区ごとに各小・中学校の取組の交流を行いました。大学教授を招聘し、学力向上に向けた学校体制の在り方等についての講話を通して、各学校の28年度の取組の検証と次年度に向けた取組の充実を図りました。 『広報おおむた』8月1・15日合併号に家庭学習習慣についての記事を、同10月1日号に家庭学習の内容についての記事を掲載したほか、10月には教育委員会のホームページに児童生徒用「家庭学習ガイドブック」と保護者用「家庭学習リーフレット」を掲載するなど、情報の発信を行いました。
-------------	---

決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額 (次年度への繰越)	2,000 千円 千円)					2,000

問題点及び課題	各学校が実施している強化学習や補充学習の充実、家庭学習習慣の更なる定着が課題です。また、児童生徒の興味関心に応じた学習機会の提供、児童生徒の自尊感情を高める手立てが必要です。
----------------	---

今後の方向性(具体策)	各学校が実施している強化学習や補充学習への学習サポーターの派遣の拡充、児童生徒の興味・関心に応じた多様な学習機会の提供に取り組むとともに、新たに、自尊感情を高める資料の作成等に取り組めます。また、家庭学習習慣の定着については、中学校区における小・中が連携して取組を進めていきます。
--------------------	--

評価	評価の理由
順調・充実	当初の計画どおり事業を実施でき、成果も上がっています。今後も、児童生徒の学力の向上に向けて事業の充実を図っていきます。

平成28年度重点事業の取組状況報告書

(担当課：総務課学校再編推進室、学校教育課、学務課)

事業名	(施策推進の視点) 学校教育環境の充実 学校再編整備推進事業
-----	-----------------------------------

目的	<p>市立学校においては、児童生徒数の減少により複式学級編制への対応や学習活動への特別な工夫を要する小規模校が増加するなど、解決すべき課題が生じています。</p> <p>長期的展望に立ち、責任ある教育行政の確保の観点から学校の小規模化に対応した学校再編整備を行うことにより、各学校におけるクラス替えの実施、中学校の教科指導体制の充実、部活動の活性化など、児童生徒の教育環境の向上を目指します。</p>
----	--

事業内容	<p>1 市立学校再編整備第二次実施計画の推進</p> <p>(1) 上官・大牟田小学校の再編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上官小学校、大牟田小学校の再編後の新校（大牟田中央小学校）を開校します。 ・再編校の児童、保護者、教職員に対しアンケートを実施し、各再編後の教育環境の向上の成果を把握します。 ・校舎、体育館等の施設整備を行います。 <p>(2) 上内小学校における小規模特認校制度の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模特認校制度を運営し、複式学級編制の解消など、課題への対応を行うとともに、本制度の効果や諸課題等の検証を行います。 <p>2 市立学校適正規模・適正配置計画第1期実施計画の推進</p> <p>(1) 米生・勝立中学校の再編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年4月の新校（宮原中学校）開校に向けた取組を進めます。 ・新校の校歌・校章等を決定します。 ・平成29年4月の新校開校のため、米生中学校、勝立中学校の2校を閉校します。 ・校舎、体育館等の施設整備を行います。 <p>(2) 駛馬南・駛馬北小学校の再編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年4月の新校開校に向けた取組を進めます。 ・駛馬南・駛馬北小学校再編協議会を設置し、新校の校名案、通学路の安全対策等、開校に必要な事項を協議します。
------	--

指標名	各年度末における	H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
学校再編による教育環境向上の満足度（大牟田中央小学校）	目標値（％）	80	—	—	—	宅峰中学校（27年4月開校）での生徒・保護者・教職員アンケート結果（教育環境が向上したとの回答割合：80.0％）以上とすることを目標としました。
	実績値（％）	81.9	—	—	—	
	達成度（％）	102.4	—	—	—	

取組実績	<p>1 市立学校再編整備第二次実施計画の推進</p> <p>(1) 上官・大牟田小学校の再編</p> <p>4月1日に大牟田中央小学校を開校しました。再編後の教育環境の向上の成果を把握するため、10月に大牟田中央小学校の児童、保護者、教職員を対象に再編後のアンケートを実施し、教育環境が向上したとの回答割合は81.9％でした。また、校舎、体育館、プールなどの施設整備を行い、平成29年3月4日に落成式を実施しました。</p> <p>(2) 上内小学校における小規模特認校制度の運営</p> <p>平成24年度から本制度を導入したことにより、平成24・25年度に生じた複式学級編制は、平成26年度以降は解消し、平成28年度は全児童71名のうち22名が本制度で通学しています。また、児童・保護者・教職員に対するアンケート調査や保護者・地域との懇談などにより、制度の効果や課題等について検証を行った結果、概ね良好との評価がなされています。</p> <p>2 市立学校適正規模・適正配置計画第1期実施計画の推進</p> <p>(1) 米生・勝立中学校の再編</p> <p>米生・勝立中学校再編協議会を運営し、校歌、校章の決定等の再編に必要な事項の協議を終え、計画どおり平成29年3月に米生中学校、勝立中学校を閉校するとともに、新校（宮原中学校）の開校準備を完了しました。また、校舎、体育館等の必要な施設整備を行いました。</p> <p>(2) 駛馬南・駛馬北小学校の再編</p> <p>駛馬南・駛馬北小学校再編協議会を6月に設置し、8回の協議を行いました。再編協議会では、校名案の答申、通学路の安全対策の要請、施設整備の要望等を行い、概ね計画通り準備を進めました。また、校舎、体育館等の施設整備のための実施設計を行いました。</p>
------	---

決 算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	785,003 千円	257,669	7,382	479,100	0	40,852
(次年度への繰越)	16,504 千円)					
問題点及び課題						
<p>米生・勝立中学校の再編後のアンケート調査等により、市立学校適正規模・適正配置計画第1期実施計画の効果の検証を行う必要があります。また、駛馬南・駛馬北小学校の再編を進めるとともに、再編後の跡地の活用について全庁的な検討が必要です。</p>						
今後の方向性（具体策）						
<p>学校再編を推進するに当たっては、学校・P T A・地域の理解・協力・連携が不可欠です。今後も情報を共有しながら学校・P T A・地域の理解が得られるよう努力します。平成29年度は、適正規模・適正配置計画第1期計画に基づく、駛馬南・駛馬北小学校の再編を進めるとともに、同計画の中間見直しを行います。</p>						
評 価		評価の理由				
順調・ 継続	<p>市立学校再編整備第二次実施計画に基づき、天道・笹原小学校、上官・大牟田小学校、右京、船津・延命中学校を再編しました。また、市立学校適正規模・適正配置計画第1期実施計画に基づき、米生・勝立中学校を再編し、駛馬南・駛馬北小学校再編に向けた準備を進めています。いずれの再編事業も概ね計画通りに進捗しています。</p>					

平成28年度重点事業の取組状況報告書

(担当課：学校教育課指導室)

事業名	(施策推進の視点) 知育・徳育・体育のバランスが取れた児童生徒をはぐくむ／安心して学べ、地域とともにある学校づくり 「思いやり・親切」応援隊子どもプロジェクト事業
------------	--

目的
児童生徒が日常的にいじめや不登校の問題を考えたり、仲間づくりを推進することで、「いじめを許さない・いじめのない学校づくり」や「みんなが笑顔で登校する学校づくり」に関する考えを深め、「思いやり・親切」のある楽しい学校生活、豊かな人間関係づくりを推進します。

事業内容

- 各学校の児童会・生徒会の代表者が一堂に会する「児童会・生徒会リーダーミーティング」を8月と12月に開催し、各学校における「思いやり・親切」に係る取組の交流や、全ての学校で共通して実施することの採択等を行い、各学校における取組の充実を図ります。
- 各学校において、5月と10月に「思いやり・親切」に関するキャンペーンを実施します。5月は、児童会・生徒会における楽しい学校づくりの取組を話し合い、決定するとともに、友だちを大切にするポスターや標語等の募集を行います。10月は、楽しい学校づくりの取組の振り返りを行うとともに、友だちへの関わり方の良かった学校代表の児童生徒「友だち応援隊」を選びます。また、ポスターと標語の優れた作品を表彰し、学校や公民館等に掲示します。
- 各学校における友だちへの関わり方の良かった児童生徒「友だち応援隊」（個人やグループ）を募集し、1月の大牟田地域教育力向上推進大会で、特に関わり方の良かった友だち応援隊を表彰します。
- 各学校の児童会・生徒会における楽しい学校づくりの取組を紹介するチラシやポスターを作成・配布するなど、児童生徒自らによる広報啓発活動を行います。

指標名	各年度末における	H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
友だちを大切にする意識	目標値	3.7	3.7	3.7	3.7	27年度に実施した学校生活アンケート(1～4の4段階で評価)での「友だち関係」の項目の平均値約3.6ポイント(小学5年生と中学2年生が対象)を毎年度上回ることを目標とします。
	実績値	3.72				
	達成度(%)	100.5				

取組実績

- 第1回目の「児童会・生徒会リーダーミーティング」を8月26日に開催し、各学校の児童生徒主体の挨拶運動やメルシーアーチ等の取組の交流を行い、「思いやり・親切」についての意見交換の後、「思いやり・親切」に係る行為を「友だち応援隊」として取り上げ称賛することを確認しました。第2回目は12月26日に開催し、各学校の8月以降の「思いやり・親切」に係る取組の交流と1月以降の取組について話し合いました。
- 各学校では、5月の1回目のキャンペーンにおいて児童会・生徒会による楽しい学校づくりの取組を話し合い、今年1年間の取組を決めました。10月の2回目のキャンペーンでは、10月までの児童会・生徒会の取組を振り返るとともに、学校代表の児童生徒「友だち応援隊」を選びました。
「思いやり・親切」に係るポスターと標語の募集を行い、9月に審査を行いました。10月21日に優れた作品を表彰し、11月に優れた作品を取りまとめた啓発ポスターを作成・配布するなど、取組の啓発を行いました。
- 11月までに各学校からの「友だち応援隊」（個人やグループ）の応募を受け付け、1月28日の大牟田地域教育力向上推進大会で紹介を行いました。
- 児童会・生徒会による、自校の「思いやり・親切」の取組を紹介するチラシやポスターを作成しました。また、これら各学校の児童生徒主体による広報啓発活動に対して支援を行いました。

決算	国	県	起債	その他	一般財源
決算額 (次年度への繰越)	400 千円 千円)				400

問題点及び課題
児童生徒主体の「思いやり・親切」に係る行為の各学校における定着と広がり、並びに中学校区ごとの小学校と中学校が連携した取組の推進が課題です。

今後の方向性（具体策）
28年度の取組を継続・充実させていきます。具体的には、各学校が実施している児童生徒主体の「思いやり・親切」に係る行為の啓発活動の推進、中学校区ごとの小学校と中学校が連携した児童生徒による定期的な情報交換の場の設定等を進めていきます。また、各学校の取組を積極的に紹介し、取組が充実していくよう支援していきます。

評価	評価の理由
順調・充実	当初の計画どおり事業を実施でき、成果も上がっています。今後も、「思いやり・親切」のある楽しい学校づくりに向けて事業の充実を図っていきます。

評価・検証シート【施策】

平成 28 年度

【所管部局】企画総務部


施策名	(第1編第4章) 専門的な教育の機会が確保されているまち
-----	---------------------------------

1. 計画 (Plan)

意図 (どういふ状態になることを狙っているのか)						
市民の身近なところで専門的な教育を受けることができる環境が整備され、より高度な教育の機会が確保されているまちを目指します。						
指標名	各年度末における	H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
高等教育機関等との連携事業数	目標値 (事業)	24	26	28	30	年間2事業の増加を目標とします。[現状値:19 事業 (H26年度実績)]
	実績値 (事業)	38				
	達成度 (%)	158.3				

2. 実行 (Do) → 構成事業の実施による

3. 検証・評価と今後の方向性 (Check & Action)

(1) 指標達成度に対する要因分析 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)	
<ul style="list-style-type: none"> 本市実施事業における高等教育機関等との連携事業や学生等の参画事業については、各部局による多くの取組みが進められた結果、目標値を大きく上回る実績となりました。 まちづくり、教育、健康・福祉、産業などに関する包括協定を締結している帝京大学福岡医療技術学部や有明工業高等専門学校と、本市における高度な教育を受けることができる環境の充実や高等教育を取り巻く情勢について意見交換を行うことができました。また、H29年2月には、東京大学高齢社会総合研究機構との包括協定を締結することができました。本協定に基づく連携事業の推進については、今後同機構ならびに市内関係機関とも協議を進めていきます。 	
(2) 今後の方向性 ((1)の要因分析を踏まえ、施策目的達成に向けた部長方針を示す)	
<ul style="list-style-type: none"> 高等教育機関等の存在は、本市において教育を受ける機会の多様化に寄与しています。教育水準の向上はもとより、高度な専門教育による優秀な人材の輩出、大学が存在することによる都市イメージの向上、多くの若い人たちが大牟田に集まることによりもたらされるまちのにぎわいなど地域の活性化が期待されます。 高等教育機関等との連携による取組みは、本市にとって新たな知識や情報を得られるのみならず、地域にとっても若い世代との交流の機会となっており、また、将来のまちづくりを担う世代の人材育成の面からも重要であると考え、今後も継続して取り組みます。 <p style="text-align: right;">(企画総務部長 井田 啓之)</p>	
(3) 達成度	(4) 二次評価結果
	<p>一次評価のとおり、構成事務事業の進め方の改善や、新規事業の追加、既存事業の見直し、休止等が必要。指標については、目標値を大きく上回っているが、高度な教育の機会の確保という施策意図との関係が見えづらい。ほっと安心奨学金制度事業はこの施策意図にも合致するが、財源の問題もあることから、現状では国の動向を把握しながら検討を進められたい。</p>

※(3)達成度…施策目的が達成できたかを指標の達成度をもって測ります。 80%以上…はれ、60%以上 80%未満…くもり、60%未満…あめ

4. 施策推進の視点と各構成事業

No	事業名	所管課	成果指標等			評価結果	
			指標名	単位	H28 目標 H28 実績	結果検証 ・分析	今後の 方向性
[視点 1] 高等教育機関等の充実促進							
1	高等教育機関等充実促進事業	総合政策課	高等教育機関との意見 交換	校	2 2	順調	継続
[視点 2] 学生等のまちづくりへの参加促進							
2	学生等のまちづくり参加促進事業	総合政策課	市主催事業等への参加 者数	人	432 786	順調	継続
[視点 3] 高等教育機関等との連携							
3	高等教育機関との連携事業	総合政策課	連携事業数	件	24 38	順調	継続
4	ほっと安心奨学金制度事業	総合政策課	国の動向を踏まえた検 討	—	検討 検討	やや遅れ	継続

評価・検証シート【施策】・「別表」

5. 構成事業の実施状況

[視点1] 高等教育機関等の充実促進

事業名	高等教育機関等充実促進事業
事業の実施状況と課題	【順調】 帝京大学福岡医療技術学部や有明工業高等専門学校と、地域において高度な教育を受けることができる環境の充実に向けた意見交換を行いました。なお、帝京大学勝立キャンパス跡につきましては、大学としての活用方針を尊重しつつ、今後のまちづくりに有効活用して頂けるよう機会あるごとに働きかけを行っています。
今後の方向性と具体策	【継続】 今後も引き続き、市内外の高等教育機関等と協議を進め、更なる高等教育機会の充実に向けて取り組みます。

[視点2] 学生等のまちづくりへの参加促進

事業名	学生等のまちづくり参加促進事業
事業の実施状況と課題	【順調】 豊かな人間性と自主性、社会性を涵養し、主体的な活動などに結びつくよう人づくりを支援するため、市内高等教育機関等の学生等へ、市が実施するワークショップや事業への参加を促しました。まちづくりへの若い世代の参加は、人材育成の観点のみならず、地域にとっても貴重な取組みとなっていることから、引き続き、各部局における取組みへの学生等の参加を促します。
今後の方向性と具体策	【継続】 引き続き、各部局における取組みへの学生等の参加を促します。

[視点3] 高等教育機関等との連携

事業名	高等教育機関等との連携事業
事業の実施状況と課題	【順調】 高等教育機関等が持つ教育資源の有効活用や人材・情報の交流を推進し、市民がより高度な知識や情報を得ることができるよう、連携事業を推進しました。H28年度は、各部局により多くの連携事業が実施されました。
今後の方向性と具体策	【継続】 引き続き、各部局による連携事業の実施を促します。
事業名	ほっと安心奨学金制度事業
事業の実施状況と課題	【やや遅れ】 ほっと安心奨学金制度事業につきましては、経済的な理由で就学が困難な人の教育の機会の充実や、若年層の定住促進等を目的とする奨学金制度の導入に向けた課題の洗い出しや先進事例の情報収集を行いました。一方、国においてもH29年度より給付型奨学金が創設され、今後も制度拡充に向けた検討が進められる予定であることから、国の動向を見ながら本市における制度の導入について検討を進めます。
今後の方向性と具体策	【継続】 引き続き、国の動向を注視しながら、検討を進めます。

評価・検証シート【施策】

平成 28 年度

【所管部局】市民協働部


施策名	(第1編第5章) 生涯学習が盛んで、その成果が活かされるまち
-----	-----------------------------------

1. 計画 (Plan)

意図 (どういう状態になることを狙っているのか)						
いつでも、どこでも、誰でも、日常生活をはじめ家庭や職場などのあらゆる場面で楽しく学ぶことができ、その学んだ成果を適切に活かすことができるまちを目指します。						
指標名	各年度末における	H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
1年間に、何らかの学習活動を行った市民の割合	目標値 (%)	50.0	53.0	56.0	60.0	内閣府の調査結果 (H24年度_57.1%) を基に目標値を設定 [現状値:43.8%(H26年度実績)]
	実績値 (%)	44.4				
	達成度 (%)	88.8				

2. 実行 (Do) → 構成事業の実施による

3. 検証・評価と今後の方向性 (Check & Action)

(1) 指標達成度に対する要因分析 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)	
<ul style="list-style-type: none"> ・地区公民館、生涯学習課等において、子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象に様々な講座や事業を実施しました。特に、「生涯学習ボランティア登録派遣事業」(市民の登録者を派遣)においては登録件数、延参加者数ともに過去最高となり、また、「メニューいろいろまちづくり出前講座」(市職員を派遣)についても、派遣回数及び延参加者数は過去最多となりましたが、目標値を達成することはできませんでした。 ・目標値に到達することはできませんでしたが、これらの様々な取組みを通して、市民の皆さんへ幅広く学習活動の場・機会を提供したことで、達成度を高く保つことができました。 	
(2) 今後の方向性 (1)の要因分析を踏まえ、施策目的達成に向けた部長方針を示す)	
<ul style="list-style-type: none"> ・市民アンケートにおいて、学習活動を「特にしていない」と回答した人は、性別で見ると男性(61.0%)が多く、また、年代別にみると30代(60.9%)が最も多く、次いで50代(58.8%)、60代(57.8%)、70代(56.2%)、80代(55.8%)が多い状況にあります。 ・世代別の学習ニーズは、39歳以下が職業上必要な知識・資格取得等、40~50代は健康づくり、60歳以上は趣味・けいこ事が、それぞれ最も多い状況にあります(H23大牟田市社会教育・生涯学習まちづくり基礎調査より)。 ・実績値(何らかの学習活動を行った市民の割合)を伸ばし、「生涯学習社会」を実現させるためには、50代以上の男性、特に団塊の世代や退職された方々が、もっと気軽に学習活動を行えるよう、世代ごとの学習ニーズを踏まえた事業を展開することが必要になると考えます。 ・今後、各種事業を実施するにあたっては、特に50代以上の方や高齢者の方々に学習活動を行っていただくための“きっかけづくり”を行い、社会参加の促進、ひいては“生きがいづくり”や“まちづくり”につながるよう取組みを推進してまいります。 <p style="text-align: right;">(市民協働部長 中村 珠美)</p>	
(3) 達成度	(4) 二次評価結果
	一次評価における「有効性の検証」が不十分であり、構成事務事業の進め方の改善や既存事業の見直しが必要。生涯学習の趣旨を念頭に、構成事業の見直しを含めた再構築を行うとともに、無関心層へのはたらきかけに工夫を行っていただきたい。

※(3)達成度…施策目的が達成できたかを指標の達成度をもって測ります。 80%以上…はれ、60%以上80%未満…くもり、60%未満…あめ

4. 施策推進の視点と各構成事業

No	事業名	所管課	成果指標等			評価結果	
			指標名	単位	H28 目標 H28 実績	結果検証 ・分析	今後の 方向性
[視点 1] 学習機会の充実							
1	【重点】多様な学習機会提供事業	生涯学習課	【市民】生涯学習ボランティア登録派遣事業の新規登録件数	件	20 17	順調	充実
			【行政】メニューいろいろまちづくり出前講座のメニュー数	種	115 108		
			【企業】企業出前講座に参画する民間企業数	社	—		
2	【重点】学習情報提供事業	生涯学習課	生涯学習ボランティア派遣事業を再利用したい人の割合	%	100 99.7	順調	継続
			メニューいろいろ出前講座を再利用したい人の割合	%	100 95.9		
3	【重点】地域学習機会提供事業	地域コミュニティ推進課	講座内容の満足度	%	95.0 91.7	順調	充実
[視点 2] 学習成果を活かす仕組みづくり							
4	【重点】生涯学習ボランティア登録派遣事業	生涯学習課	生涯学習ボランティア登録者の満足度	%	100 97.7	順調	継続
			生涯学習ボランティア利用者の満足度	%	100 99.7		
5	学習成果活用事業	生涯学習課、地域コミュニティ推進課	事業参加後に生涯学習ボランティアを始めた人の割合	%	50.0 68.6	順調	継続
[視点 3] 地域での学習活動の支援							
6	【重点】地区公民館コミュニティ拠点化推進事業	地域コミュニティ推進課	参加した講座が役に立ったと答えた人の割合	%	90.0 87.4	順調	充実
7	地区公民館整備事業	地域コミュニティ推進課	当該年度に予定している施設修繕の実施率	%	100 100	順調	継続

評価・検証シート【施策】・「別表」

5. 構成事業の実施状況

[視点1] 学習機会の充実

事業名	【重点】多様な学習機会提供事業 《評価・検証シート【事業】参照》
事業名	【重点】学習情報提供事業 《評価・検証シート【事業】参照》
事業名	【重点】地域学習機会提供事業 《評価・検証シート【事業】参照》

[視点2] 学習成果を活かす仕組みづくり

事業名	【重点】生涯学習ボランティア登録派遣事業 《評価・検証シート【事業】参照》
事業名	学習成果活用事業
事業の実施状況と課題	<p>【順調】 たくさんの人が、やりがいや生きがいを持って楽しくボランティア活動ができるように、場や機会の拡大を図るため、高齢者生きがいづくり社会参加促進事業（生涯青春まなびの扉）における「ボランティア塾」3 講座や、カヌー乗船体験事業を支援するサポーターの養成講座を 1 講座、1 日講師チャレンジ講座を 5 講座開催し、受講者計 56 人中 40 人が講座終了後も継続的な活動に結びついています。</p> <p>また、ボランティアとの共催によるパソコン講座やボランティアのスキルアップのための研修会等の実施や、視聴覚ボランティアの支援等を行いました。</p> <p>ほかにも、公民館で活動するサークル会員が学んだ成果を生かす機会の提供として、夏休み子どもサークル体験の実施や、駿馬北小学校のクラブ活動の支援（指導）、帝京大学生の研修の受け入れ等を実施しました。</p> <p>今後も多様なボランティア活動に対するニーズに応える養成講座を実施し、学んだ成果を生かして地域に貢献する機会を創出する必要があります。</p>
今後の方向性と具体策	<p>【継続】 今後も学んだ成果を活かすボランティア活動を行えるような人材や団体を育て支援するため、ボランティアのニーズを把握しながら講座を企画し、自分の知識や技術を生かせるとの実感を持つことができるように、ボランティアの意義や生涯学習ボランティア登録派遣制度についての講義や講座終了後の継続的な活用につながるような実践の場を組み入れた講座を実施します。</p>

[視点3] 地域での学習活動の支援

事業名	【重点】地区公民館コミュニティ拠点化推進事業 《評価・検証シート【事業】参照》
事業名	地区公民館整備事業
事業の実施状況と課題	<p>【順調】 安全で安心に、また快適な学習環境を提供するとともに、公共施設維持管理計画に基づき施設の長寿命化を図るため、地区公民館の施設・設備の整備を行うこととし、H28 年度においては、駿馬地区公民館の外壁改修、及び屋上防水工事を実施しました。</p>
今後の方向性と具体策	<p>【継続】 公共施設維持管理計画に基づき、H29 年度においては、吉野地区公民館の外壁改修、及び屋上防水工事、三池・手鎌・駿馬地区公民館の受変電設備更新工事、三池地区公民館の照明設備更新工事、中央地区公民館の屋上防水等工事を実施します。</p> <p>また、老朽化と耐震化の課題を解決するため、勝立地区公民館の耐震診断調査を同年度内に実施します。</p>

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 生涯学習課

事業名	(施策推進の視点) 学習機会の充実 多様な学習機会提供事業
------------	----------------------------------

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)						
市民による自主的な学習活動が促進され、いつでも、どこでも、誰でも楽しく学習でき、その学んだ成果が適切に活かされる『生涯学習社会』を実現するために、市民による、市民のための生涯学習まちづくりを推進するために組織された「生涯学習まちづくり推進本部」(市民・団体・行政で構成)及び「生涯学習まちづくり推進会議」(全庁的な組織)において、市民の皆さんに多様な学習機会を提供できるよう様々な取組みを行います。						
事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)						
『生涯学習社会』の構築を目指し、市民と行政が生涯学習の推進に参画することを促すための取組みを行います。主なものとして、「生涯学習まちづくり推進本部」において取り組まれる生涯学習ボランティア登録派遣事業、市民大学講座や、「生涯学習まちづくり推進会議」が行うメニューいろいろまちづくり出前講座などの取組みを推進します。						
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
【市民】「生涯学習ボランティア登録派遣事業」の新規登録件数	目標値 (件)	20	20	20	20	多様な学習機会が提供できる社会になっているかをボランティアの新規登録件数でみます。
	実績値 (件)	17				
	達成度 (%)	85.0				
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
【行政】「メニューいろいろまちづくり出前講座」のメニュー数	目標値 (種)	115	120	125	130	多様な学習機会が提供できる社会になっているかをメニュー数でみます (H27年度 113種)。
	実績値 (種)	108				
	達成度 (%)	93.9				
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
【企業】「企業出前講座」に参画する民間企業の数	目標値 (社)	—	5	10	15	多様な学習機会が提供できる社会になっているかを参画する企業数でみます。 ※H29年度より実施予定
	実績値 (社)	—				
	達成度 (%)	—				

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況						
<p><生涯学習まちづくり推進本部></p> <ul style="list-style-type: none"> 生涯学習ボランティア登録派遣事業【市民】 派遣延 827 回/派遣者延 2,468 人/受講者延 32,811 人 市民大学講座【高等教育機関等との連携】 5 回 (帝京大 2・有明高専 2・企業 1) /受講者延 164 人 <p><生涯学習まちづくり推進会議></p> <ul style="list-style-type: none"> メニューいろいろまちづくり出前講座【行政】 169 回 (派遣した市職員延 339 人/受講者延 5,993 人) 						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	1,670 千円					1,670
(次年度への繰越)	千円)					
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた (気付いた) 問題点及び課題						
<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習の概念を広く市民に理解してもらうための啓発、情報発信の充実。 生涯学習社会の構築を目指すうえで、今後、本市の生涯学習をより一層推進するためには、これまでの市民、行政に加え、民間企業の参画が望まれます。 						
今後の方向性 (具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> ボランティア登録派遣事業及び出前講座の PR 充実 (見やすく工夫する) 市民の高度な学習ニーズにも応えられるよう、専門的な知識・技術を学ぶことができる「企業出前講座」(仮称)を実施します 						
評価結果	評価の理由					
順調・充実	1 日チャレンジ講座等の取組みにより、ボランティア登録者数は着実に伸びています。					

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 生涯学習課

事業名	(施策推進の視点) 学習機会の充実 学習情報提供事業
------------	-------------------------------

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)						
市民がいつでも気軽に学習活動が行えるよう必要な学習情報を得ることができ、かつ、学習活動を特にしていない人々の学習意欲を喚起して学習活動に参加してもらうためのきっかけづくりとして、様々な学習情報を提供します。						
事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)						
市内で行われる各種講座、イベント (展示会、コンサート等)、サークルの会員募集等、生涯学習に関する情報収集を定期的に行い、それらの情報を広く市民に周知するため、学習情報紙、ボランティア講師&講座メニューが掲載された冊子及びリーフレットの発行をはじめ、広報おおむた、ホームページ、愛情ねっと等により、様々な学習情報を提供します。 また、年間を通じて、市民の学習相談に応じ必要な情報提供を行います。特に、「メニューいろいろまちづくり出前講座」(市職員派遣)及び「生涯学習ボランティア登録派遣事業」(市民・団体派遣)については、市民の学習ニーズに合った講師を派遣できるようコーディネートを行います。						
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
生涯学習ボランティア登録派遣事業を再利用したい人の割合	目標値 (%)	100	100	100	100	市民の学習ニーズを満たすために必要な情報の提供やコーディネートができているかを左記事業のアンケート結果でみます。
	実績値 (%)	99.7				
	達成度 (%)	99.7				
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
メニューいろいろまちづくり出前講座を再利用したい人の割合	目標値 (%)	100	100	100	100	市民の学習ニーズを満たすために必要な情報の提供やコーディネートができているかを左記事業のアンケート結果でみます。
	実績値 (%)	95.9				
	達成度 (%)	95.9				

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> 学習情報紙「まなびのカタログ」を年6回発行 (2,000部/回) H28年度生涯学習ボランティア登録者名簿「まなばんかん」(冊子)を1,700部発行 「H28年度メニューいろいろまちづくり出前講座」メニュー表(リーフレット)を1,000部発行 広報おおむたによる学習情報の提供及び生涯学習の啓発(7回) ホームページ、SNS、愛情ねっと、FMたんとう等による情報発信・提供(年間随時) 学習相談業務(必要な学習情報の提供、学習・講習会等のコーディネート)(年間随時) 						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	590 千円					590
	(次年度への繰越 千円)					
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた(気付いた)問題点及び課題						
・児童から高齢者の誰もが、わかりやすく学習情報を得られるよう記載内容に工夫が必要です。						
今後の方向性(具体策)						
・今後も引き続き市民の学習ニーズを把握するよう努めながら、ホームページ、冊子、リーフレット等をより見やすくわかりやすい内容となるよう充実させるとともに、インターネット、ラジオ等の媒体を更に活用することで、学習情報をより有効に提供できるよう取り組みます。						
評価結果	評価の理由					
順調・継続	紙、インターネット、ラジオなどの多種多様な媒体を活用して様々な学習情報を提供することにより、あらゆる年代に対応できるよう取り組んでいます。					

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 地域コミュニティ推進課

事業名	(施策推進の視点) 学習機会の充実 地域学習機会提供事業
------------	---------------------------------

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)						
社会情勢の変化に伴い、市民を取り巻く環境が移り変わり、様々に地域課題が生じている中、各地区公民館において学習機会を提供することで、要求課題 (個人の要望)・必要課題 (社会の要請) に対し市民が学び、主体的に考え、取り組むことができるようになります。						
事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)						
家庭や地域の教育力の低下、地域コミュニティの希薄化、地域活動の担い手の高齢化・後継者不足、さらには防災対策等、多種多様化している地域や社会が抱える問題・課題の解決につながるような講座等の学習機会を提供します。						
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
講座内容の満足度	目標値 (%)	95.0	95.0	95.0	95.0	毎年度、それぞれの世代の課題解決とニーズに対応した講座を開催します。
	実績値 (%)	91.7				
	達成度 (%)	96.5				

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況						
<p>現代的課題・地域課題や市民の多様な学習ニーズに対応し、あらゆる層の市民が参加できる学習機会の提供のため、地区公民館において次のとおり実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援事業 (家庭教育講座) 6 講座 ・子ども体験活動事業 6 講座 ・政治学級 1 講座 ・一般成人向け講座 5 講座 ・高齢者生きがいづくり社会参加促進事業 (生涯青春まなびの扉) シニアデビュー塾 2 講座 マナビ塾 5 講座 健康アップ塾 4 講座 						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	1,592 千円					1,592
(次年度への繰越)	千円)					
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた (気付いた) 問題点及び課題						
<ul style="list-style-type: none"> ・学習機会の提供、内容の充実には努めていますが、講座の内容に対する満足度が目標値を下回ったりしたものもありました。 ・また、館は違っても同じ種目の講座があったり、開催時期が重複したりすることで、受講者の確保に苦慮する場合があります。 						
今後の方向性 (具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> ・市民ニーズに即した事業展開と、7 地区公民館の特色を活かし事業内容の充実を図るとともに、ターゲットの絞込みやできるだけ講座内容や開催時期が重複しないよう、7 地区公民館の連絡、調整を行います。 ・また、事業を企画、運営する地区公民館職員の資質を向上するため、研修の充実を図ります。 						
評価結果	評価の理由					
順調・充実	達成度については、目標値の 96.5%となったことから「順調」と評価をしました。今後も「要求課題 (個人の要望)」と「必要課題 (社会の要請)」のバランスを考慮しながら、ニーズの把握を行い、新たな参加者の獲得に取り組めます。					

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 生涯学習課

事業名	(施策推進の視点) 学習成果を活かす仕組みづくり 生涯学習ボランティア登録派遣事業
------------	--

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)						
いつでも、どこでも、誰でも楽しく学習でき、その学んだ成果が適切に活かされる『生涯学習社会』を実現するために、市民の方々が学んだ知識・技術を他の人々へ教える機会・場を提供することで、学ぶ意欲のさらなる向上、生き甲斐や人と人との絆づくり、ひいてはまちづくりの一助となることをねらいとしています。						
事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)						
市民の学習活動を支援するボランティア講師を登録し、依頼者の学習ニーズ・要求に応じてコーディネートを行い、登録者を派遣します(無料)。 H27年度は、登録件数(ボランティア講師)が195件(個人90件・団体105件)で、講座のメニューは歴史、伝統文化、自然、健康、子育て支援など多岐にわたり、地域や学校、介護施設などからの依頼に応じて年間995件(過去最多)の派遣(延2,536人)を行いました(派遣先の参加人数は延28,703人)。 なお、登録者を対象とした研修会、表彰式などを実施したり、派遣の依頼がない登録者へ活動の機会・場を提供するための「ボランティア活用講座」を開催するなどして、講師としての意識やスキルを向上していただくための取組みも行っていきます。						
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
生涯学習ボランティア登録者の満足度	目標値 (%)	100	100	100	100	登録者の登録への満足度100%を目指します。
	実績値 (%)	97.7				
	達成度 (%)	97.7				
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
生涯学習ボランティア利用者の満足度	目標値 (%)	100	100	100	100	利用者の満足度(次回も活用したいと回答した割合)100%を目指します。
	実績値 (%)	99.7				
	達成度 (%)	99.7				

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> ・H28年度生涯学習ボランティア登録者名簿「まなばんかん」(冊子): 1,700部発行 ・ボランティア登録件数: 199件(個人110件・団体89件) ・派遣件数: 延827件(延派遣者2,468人/延受講者32,811人) ・利用者説明会(5月)/登録者説明会・研修会(6月)/表彰式・発表会(2月) ・「ボランティア活用講座」の開催: 4講座(延受講者208人) 						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	783 千円					783
(次年度への繰越)		千円)				
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた(気付いた)問題点及び課題						
・ボランティア登録者の稼働率(H28年度79.4%)の更なる向上						
今後の方向性(具体策)						
・当該事業をより多くの市民・団体に利用していただくとともに、ボランティア登録者の活動の機会が広がるよう、PRの充実を図ります。						
評価結果		評価の理由				
順調・継続		ボランティア登録者数も増加傾向にあり、学習の成果を活かす場として機能しています。				

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 地域コミュニティ推進課

事業名	(施策推進の視点) 地域での学習活動の支援 地区公民館コミュニティ拠点化推進事業
------------	---

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)						
これまで地域活動の核となっていた人が高齢化し、まちづくりの担い手や後継者の不足により、地域コミュニティの維持が困難な状況になっています。地区公民館の事業をとおして、住民が自らの知識や経験を活かし、自分のこととしてさまざまな地域づくりの取り組みが進められるような人材育成や、地域活動を支える多様な人材の発掘と育成を行います。						
事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)						
地域づくりの担い手及び後継者の育成・発掘、また地域コミュニティの活性化につなげる取組みとして各地区公民館において「地域力アップ支援事業」を行い、地域の学習機会の提供や活動の支援を行います。事業に取り組むにあたっては、地域担当職員と連携して、校区まちづくり協議会など地域との意見交換を行い、地域の実態や要望、地域課題をよく把握した上で、それに応じた内容とします。						
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
参加した講座が役に立ったと答えた人の割合	目標値 (%)	90.0	92.0	94.0	96.0	事業の内容は、地域と協議し、地域課題に応じたものとします。
	実績値 (%)	87.4				
	達成度 (%)	97.1				

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> 地域担当職員と連携の上、地域と意見交換を行いながら、地域の実態や要望、地域課題を把握し、「地域コミュニティの形成と活性化」や「地域の人材育成」を図るため、各地区公民館で次のとおり実施しました。 <ul style="list-style-type: none"> 中央地区公民館 2 講座 (大正、平原校区対象) 三川地区公民館 3 講座 (みなと、天領校区対象) 勝立地区公民館 4 講座 (玉川、天の原校区、玉川・天の原 2 校区合同対象) 吉野地区公民館 3 講座 (上内、吉野、倉永校区対象) 三池地区公民館 2 講座 (高取、銀水校区対象) 手鎌地区公民館 2 講座 (明治、手鎌校区対象) 駛馬地区公民館 2 講座 (駛馬南、駛馬北校区対象) これにより、参加者にとっては「自らが地域活動に参加すること」や「地域でのつながりの大切さを意識する」きっかけになり、校区まちづくり協議会未設置の校区においては、設立に向けた機運が高まり、駛馬南校区では H28 年 11 月に校区まちづくり協議会が設立される等の成果も得られています。 						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	688 千円					688
(次年度への繰越)	千円)					
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた (気付いた) 問題点及び課題						
<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ政策の最前線で地域と接している地域担当職員との連携を強化し、校区まちづくり協議会を始め地域の人々と意見交換をしながら地域の実態を把握し、課題や要望を汲み取りながら事業を組み立て実施したことにより達成度が高まったものと考えます。 協働のまちづくりを進める上での地域コミュニティの活性化や地域活動を担う人材育成については、今後も継続的に取り組む必要があります。 						
今後の方向性 (具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> 「大牟田市協働のまちづくり推進条例」に掲げる、市民、地域コミュニティ組織、市が果たす役割に基づきながら、今後も協働のまちづくりを推進するため、地域担当職員と連携しながら、地域の状況、課題等を把握するため、年に 1 回以上は校区単位で全地域と意見交換を行い事業を組み立て、地域が自主的、自立的に運営や活動できるよう支援します。 						
評価結果	評価の理由					
順調・充実	達成度については、目標値の 97.1%となったことから「順調」と評価をしました。地域活動を支える多様な人材の発掘と育成、地域の自主的・自立的な運営や活動は、継続的な目的・課題であり、事業内容や手法の改善を図りながら目的達成、課題解決に取り組む必要があります。					

評価・検証シート【施策】

平成 28 年度

【所管部局】市民協働部


施策名	(第1編第6章) スポーツを通して生きがいに満ち、活気にあふれるまち
-----	---------------------------------------

1. 計画 (Plan)

意図 (どういう状態になることを狙っているのか)						
誰もが、ライフステージに応じてスポーツに親しみ、楽しむことで、生涯にわたり心身ともに健康で、活気にあふれた生きがいある生活を営むことができるまちを目指します。						
指標名	各年度末における	H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
1年間のうち、週1回以上の運動・スポーツの実施率	目標値 (%)	30.0	35.0	40.0	45.0	本市スポーツ振興計画に掲げる目標値(H32年度_50.0%)を基に目標値を設定 [現状値:25.3%(H26年度実績)]
	実績値 (%)	25.5				
	達成度 (%)	85.0				

2. 実行 (Do) → 構成事業の実施による

3. 検証・評価と今後の方向性 (Check & Action)

(1) 指標達成度に対する要因分析 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)	
<ul style="list-style-type: none"> スポーツ都市宣言推進協議会、体育協会、スポーツ推進委員協議会等と連携し、市民が生涯にわたり、ライフスタイルや心身の状況に応じてスポーツに親しみ、健康で明るい生活が送れるよう、スポーツに楽しめる教室や地域スポーツ行事など、地域や年齢層に応じ多様なスポーツ活動の機会を提供しました。1年間のうち週1回以上の運動・スポーツの実施率は、対前年度比1.7ポイント増加したものの目標値を達成しませんでした。過去5年間の実績の平均値は、26.3%とほぼ横ばいの状況であり、スポーツ振興計画に掲げる目標値の伸びに対して、乖離があります。 	
(2) 今後の方向性 (1)の要因分析を踏まえ、施策目的達成に向けた部長方針を示す)	
<ul style="list-style-type: none"> 市民の誰もがどこでも生涯にわたり、スポーツに親しみ健康で明るい生活を送るためには、行政だけではなく、市民団体、スポーツ団体、商・工団体、医療・福祉団体、学校など様々な団体との更なる連携が不可欠です。また、各種事業の実施にあたっては、さまざまな機会を捉え、タイムリーな情報提供を行うことにより参加者増を図り、健康で明るいまちづくりに取り組みます。 老朽化した市民体育館の建替えについては、市の財政状況等を踏まえて、様々な建設手法を検討するなど、建設実現に向けた取り組みを進めます。 <p style="text-align: right;">(市民協働部長 中村 珠美)</p>	
(3) 達成度	(4) 二次評価結果
	<p>一次評価における「達成度の検証」、「有効性の検証」がともに不十分。成果の把握の方法を再検証するとともに、構成事務事業の進め方の改善、休廃止を含めた既存事業の見直しが必要。ここ5年横ばいとなっている運動・スポーツの実施率を高めるためには、幼少期から高齢期まで多様な世代の市民に実施を促す必要があるが、現在の構成事業からはそれが見えない。総合型地域スポーツクラブが今後増える目途がないのであれば、それに代えて、多くの市民がスポーツに触れる機会を拡充するなど、構成事業全体を見直されたい。</p>

※(3)達成度…施策目的が達成できたかを指標の達成度をもって測ります。 80%以上…はれ、60%以上80%未満…くもり、60%未満…あめ

4. 施策推進の視点と各構成事業

No	事業名	所管課	成果指標等			評価結果	
			指標名	単位	H28 目標 H28 実績	結果検証 ・分析	今後の 方向性
[視点1] 気軽に親しめるスポーツ活動の機会づくり							
1	【重点】市民スポーツ推進事業	スポーツ推進室 (指定管理者)	人口に占める市民スポーツ教室等への参加率	%	3.65 3.46	順調	充実
2	【重点】地域スポーツ活動推進事業	スポーツ推進室	スポーツ推進委員が企画・運営等支援する地域スポーツ行事数	件	80 88	順調	充実
[視点2] スポーツ活動を支える仕組みづくり							
3	【重点】地域スポーツクラブ育成・支援事業	スポーツ推進室	総合型地域スポーツクラブ総設置数	箇所	2 1	遅れ	改善
4	スポーツ団体との連携によるスポーツ活動支援事業	スポーツ推進室	チャレンジデー参加率70%以上	%	70.0 68.7	順調	継続
5	競技スポーツ振興・支援事業	スポーツ推進室	県民体育大会（秋季大会）5位以内入賞	位	5 9	やや遅れ	継続
6	表彰・奨励事業	スポーツ推進室	おおむたっ子がんばれ奨励金授与数	件	125 173	順調	継続
[視点3] スポーツがしやすい環境づくり							
7	【重点】スポーツ施設整備事業	スポーツ推進室	当該年度の施設改修等予定実施率	%	整備 実施	順調	継続
8	【重点】(仮称)総合体育館整備事業	スポーツ推進室	進捗管理	%	1段階 1段階	やや遅れ	改善
9	指導者育成事業	スポーツ推進室	研修会への参加者数	人	220 200	順調	継続
10	スポーツ情報提供事業	スポーツ推進室	スポーツカレンダー配布数	冊	20,000 18,000	順調	継続

評価・検証シート【施策】・「別表」

5. 構成事業の実施状況

[視点1] 気軽に楽しめるスポーツ活動の機会づくり

事業名	【重点】市民スポーツ推進事業 《評価・検証シート【事業】参照》
事業名	【重点】地域スポーツ活動推進事業 《評価・検証シート【事業】参照》

[視点2] スポーツ活動を支える仕組みづくり

事業名	【重点】地域スポーツクラブ育成・支援事業 《評価・検証シート【事業】参照》
事業名	スポーツ団体との連携によるスポーツ活動支援事業
事業の実施状況と課題	【順調】市民団体、スポーツ団体、商・工・観光団体、医療・福祉団体、学校、行政等で組織されるスポーツ都市宣言推進協議会では、数多くの市民が参加する「スポーツ2016市民の祭典」の実施や「チャレンジデー」に参画し、その構成団体と連携し市民のスポーツ活動を推進しました。
今後の方向性と具体策	【継続】市内の様々な団体で構成されるスポーツ活動を推進する組織であり、今後も引き続き連携を密にし、スポーツ活動を支援していきます。
事業名	競技スポーツ振興・支援事業
事業の実施状況と課題	【やや遅れ】九州一円の各郡市の選手が参加し競技力の向上並びに親睦・融和を図ることを目的に開催される全九州都市対抗陸上競技大会を支援しました。(H28年度:総合3位) 競技スポーツの振興及び本市の活性化に寄与するものとして開催される広域スポーツ大会を支援しました。(H28年度実績:11広域大会、参加者4,923名) 広く県民間にスポーツを振興し、その普及発展とスポーツ精神の高揚を図り、一層健康で明朗な県民生活に確立に寄与することを目的に開催される「福岡県民体育大会」に選手団を派遣しました。(H28年度実績:秋季大会9位、市町村対抗駅伝14位)
今後の方向性と具体策	【継続】全九州都市対抗陸上競技大会については、第70回の歴史ある大会であり九州各県から参加があり、広域スポーツ大会についても、近隣市町から広く参加があるため、地域の活性化にも寄与することから、継続して実施します。 県民体育大会については、秋季大会は、前年度7位から9位と順位を下げたものの、市町村対抗駅伝では、前年度22位から14位と順位を上げました。今後も更なる支援を行います。
事業名	表彰・奨励事業
事業の実施状況と課題	【順調】スポーツ基本法に基づき、全国大会等において優秀な成績を収めた者及びスポーツの発展に寄与したものに対し、大牟田市スポーツ功労表彰を授与しました。(H28年度実績:功労賞7名、記録賞9名・3団体) また、青少年の育成、スポーツの振興、選手の意欲向上に寄与するため、青少年健全育成基金を活用し、全国レベルの大会等に出場した者におおむたっ子ががんばれ奨励金を交付しました。(H28年度実績:173名)
今後の方向性と具体策	【継続】表彰・奨励事業を実施することにより、スポーツ実施者ならびにスポーツ支援者の励みとなるものであり、他市町の実施状況等を調査しながら継続して実施します。

[視点3] スポーツがしやすい環境づくり

事業名	【重点】スポーツ施設整備事業 《評価・検証シート【事業】参照》
事業名	【重点】(仮称)総合体育館整備事業 《評価・検証シート【事業】参照》
事業名	指導者育成事業
事業の状況と課題	【順調】市民のスポーツの普及並びに指導助言を行うスポーツ推進委員の資質向上を図るため研修を実施し、国・県等が主催する研修会に派遣しました。 また、スポーツ少年団の指導者を対象とした研修会やスポーツ指導者や実施者を対象としたスポーツ医科学研修会を実施しました。(H28年度実績：延べ200名)
今後の方向性と具体策	【継続】指導者の資質の向上は、子どもたちや市民のスポーツに反映することから、継続して資質向上に向けた取り組みを実施します。
事業名	スポーツ情報提供事業
事業の状況と課題	【順調】様々な情報媒体を活用してスポーツ情報の発信を行っており、また、本市のスポーツ情報をはじめ各体育施設ごとのスポーツ大会等開催情報を多く掲載する「スポーツカレンダー」を日本スポーツ振興センターの助成金を活用して作成し、広く市民、スポーツ団体、小・中・高校生等に配布しました。
今後の方向性と具体策	【継続】スポーツカレンダーは、市民にも好評を得ており、今後も内容を検証しながら継続して作成していきます。

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： スポーツ推進室

事業名	(施策推進の視点) 気軽に楽しめるスポーツ活動の機会づくり 市民スポーツ推進事業
-----	---

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)						
市民の誰もが、気軽に参加でき、みんなで楽しめるスポーツ活動への参加の機会をつくり、健康・体力の維持増進や社会的交流を深めます。						
事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)						
指定管理者の必須事業として、初心者を対象としたスポーツ教室や多くの市民を対象としたスポーツ大会を開催し、運動・スポーツの機会を提供します。						
①市民スポーツ教室 (春季、秋季、新春)						
②サマースポーツ教室						
③市民スポーツ大会						
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
人口に占める市民スポーツ教室・大会等への参加率	目標値 (%)	3.65	3.70	3.75	3.80	過去3カ年の平均値 (3.65%) を H28 年度目標値に設定し、毎年度 0.05 ポイントの参加率増加を目標値として設定
	実績値 (%)	3.46				
	達成度 (%)	94.8				

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者の必須事業として、広く市民に対して募集を行う初心者を対象としたスポーツ教室やスポーツ大会を実施し、運動・スポーツ実施の機会を提供しました。(4,113人) <ul style="list-style-type: none"> ①市民スポーツ教室 (春季5講座、257人、秋季6講座、238人、新春5講座、219人) ②サマースポーツ教室 (7講座：406人) ③市民スポーツ大会 (市民グラウンドゴルフ大会：126人、市民ソフトバレーボール大会：76人、市民女子フットベースボール大会：188人、市民健康マラソン大会：2,563人、市民観梅ハイキング：40人) 						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	指定管理料に含む 千円					指定管理料に含む
	(次年度への繰越 千円)					
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた (気付いた) 問題点及び課題						
<ul style="list-style-type: none"> 実績値は目標値に近い結果となっているものの、参加者数としては、前年度比 305 人減少しています。このため、スポーツのもつ効果について市民周知を図り、スポーツ教室等の情報提供を行い参加促進を図ります。 						
今後の方向性 (具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> ホームページ、広報誌掲載の他、愛情ネット、FM たんと等の活用や健康いきいきマイレージ事業と連携しながら市民への周知を図ります。 						
評価結果	評価の理由					
順調・充実	昨年度の参加者数は減少したものの、ここ近年は横ばい傾向にあり、市民に対して運動・スポーツ実施の機会を創出しました。一定の効果はありましたが、今後、更なる情報提供を行い、市民へ周知を図り参加率の増加を図ります。					

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： スポーツ推進室

事業名	(施策推進の視点) 気軽に楽しめるスポーツ活動の機会づくり 地域スポーツ活動推進事業
------------	---

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)						
市民が、身近な地域でスポーツに親しめるよう、地域でのスポーツ活動を活性化し、市民の健康増進や地域活動全体の活性化につなげます。						
事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)						
地域団体等の活動が継続的に活発になるようスポーツ推進委員による地域スポーツ活動への支援や地域で気軽に取り組める地域元気アップスポーツ事業を行います。						
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
スポーツ推進委員が企画・運営等支援する地域スポーツ行事数	目標値 (件)	80	80	80	80	各校区4件の地域スポーツ行事を目標値として80件と設定
	実績値 (件)	88				
	達成度 (%)	110				

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> 地域団体等のスポーツ活動が活発になるよう、その地域のスポーツ推進委員は地域スポーツ行事等の企画、指導・助言、運営、参加呼びかけ等により地域団体等を支援しました。 市民が身近な地域や家庭で気軽にスポーツに取り組めるよう地域元気アップスポーツ事業を実施しました。 <p>(H28年度実績)</p> <p>地域元気ウォーキング・体力測定 [2地区] 24人 (※1回は雨天のためニュースポーツを実施) スロージョギング教室 [全3回] 延べ188人 ニュースポーツ体験教室 [1回] 55人</p>						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	4,981 千円					4,981
(次年度への繰越	千円)					
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた(気付いた)問題点及び課題						
<ul style="list-style-type: none"> 各校区のスポーツ推進委員が中心となり、大人から子どもまで参加する地域の運動会をはじめとした校区行事を実施できた。しかしながら、地域役員の高齢化等により地域におけるスポーツ行事の減少が懸念されます。 						
今後の方向性 (具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> スポーツ推進委員の地域スポーツ行事等への運営支援等更なる充実を図るとともに、スポーツ推進委員とともに地域スポーツ行事の開催情報の提供手法を検討します。 高齢者や体が不自由な人まで地域で気軽に楽しめる「ニュースポーツ用具」の充実を図り、貸出しを促進します。 						
評価結果	評価の理由					
順調・充実	スポーツ推進委員が校区行事に参画することにより、地域でのスポーツ活動が継続的に実施できています。					

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： スポーツ推進室

事業名	(施策推進の視点) スポーツ活動を支える仕組みづくり 地域スポーツクラブ育成・支援事業
------------	--

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)						
地域の誰もが、「いつでも」、「気軽に」スポーツができる仕組みづくりを行うことによって、子どもを地域で支えながら子どもの体力向上を目指すとともに、スポーツを通してコミュニティの形成・活性化します。						
事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)						
地域が自ら「多様目」「多世代」「多志向」に取り組める「総合型地域スポーツクラブ」の設立や既存クラブの活性化を支援し、子どもから高齢者まで誰もが、自分にあったスポーツに取り組むことができるよう地域スポーツ振興の担い手となる組織・団体等の取組みを支援します。						
①新規の総合型地域スポーツクラブの設立に意欲のある組織・団体等の掘り起こし						
②既存の総合型地域スポーツクラブに対する活動支援						
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
総合型地域スポーツクラブ総設置数	目標値 (箇所)	2	3	4	5	スポーツ振興計画に掲げるH32年度末のクラブ総設置数5箇所を基点に設定
	実績値 (箇所)	1				
	達成度 (%)	50.0				

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> 本市唯一の総合型地域スポーツクラブ「右京ふれあい健康クラブ」には、オブザーバとして定例理事会への参加や各種イベントの広報やスタッフとして参加するなど支援を行いました。 右京ふれあいタイム (毎週火曜日：卓球、バドミントン 延べ730人)、 バドミントン教室 (延べ68人)、アーチェリー教室 (延べ89人)、 パソコン教室 (延べ77人)、パンづくり料理教室 (延べ14人)、 天領校区右京ふれあい体育祭 (延べ500人)、宝さがしウオーキング (延べ9人) 随時、新規クラブ設置に向けて、スポーツ推進委員との情報交換を実施しました。 						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	千円					
(次年度への繰越)	千円)					
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた (気付いた) 問題点及び課題						
<ul style="list-style-type: none"> 新たなクラブ創設については、地域のスポーツ推進委員と意見交換等を行い意向等の聞取りに努めました。意欲ある地域の掘り起こしまでは至っていません。 						
今後の方向性 (具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> 意欲ある地域の掘り起こしからクラブ設立までには、その地域に深く関わり信頼関係を構築する必要があることから、地域に密着したスポーツ推進委員と更なる連携をとりながら、推進役となる人材の発掘、地域の合意形成に努めます。 						
評価結果	評価の理由					
遅れ・改善	既存の右京ふれあい健康クラブについては、安定した経営ができていますが、新規のクラブ設立には至っていません。地域団体等と連携し、合意形成を図りながら、クラブ設置に意欲のある人材の確保に努める必要があります。					

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： スポーツ推進室

事業名	(施策推進の視点) スポーツがしやすい環境づくり スポーツ施設整備事業
------------	--

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)						
市民が、安心・安全で快適にスポーツに親しむことができる場を提供します。						
事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)						
本市のスポーツ施設は老朽化していることから、公共施設維持管理計画との整合を図りながら、安全性や緊急性、競技ルール改正などに対応したスポーツ施設の整備・長寿命化を行います。						
[延命球場] スタンド床防水・スタンド外壁等改修実施設計 (公)						
[御大典記念グラウンド] 管理棟外壁実施設計及び外壁・屋根等改修工事 (公)						
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
当該年度の施設改修等 予定実施率	目標値 (-)	整備	整備	整備	整備	当該年度の施設改修等予定 の実施状況为目标値として 設定
	実績値 (-)	実施				
	達成度 (%)	75				

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> 延命球場については、H29年度に実施予定のスタンド床防水・外壁改修工事に伴う実施設計を行いました。 御大典記念グラウンド管理棟については、外壁の実実施設計・改修工事及び屋根等の改修工事を実施し、H29年度に建具・内部改修工事を実施する予定としていましたが、利用者の利便性等を考慮し、今年度は、外壁改修の工法検討のための実施設計のみを実施し、外壁及び屋根等の改修工事は、H29年度事業と合わせて実施することとしました。 この他、緊急性、安全性等を考慮しながら、各体育施設の補修工事等を実施しました。 						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	3,613 千円					3,613
(次年度への繰越)	千円)					
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた(気付いた)問題点及び課題						
本市の体育施設は老朽化しており、大会等運営に支障が出ないよう、また、利用者が安心・安全に利用できるよう整備が必要です。						
今後の方向性 (具体策)						
日本スポーツ振興センター等有利な助成制度を活用するなど、公共施設維持管理計画等に基づき、計画的に整備していきます。						
評価結果	評価の理由					
順調・継続	H28年度に予定していた工事を一部 H29年度に実施することとしましたが、これは、利用者の利便性等を考慮した結果であり、評価としては「順調」としました。					

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： スポーツ推進室

事業名	(施策推進の視点) スポーツがしやすい環境づくり (仮称) 総合体育館整備事業
------------	--

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)						
老朽化した施設を更新することで、①市民が、安心・安全、快適に使用でき、健康・体力づくり、生きがいがづくり、医療費抑制・介護予防に寄与します。②広域のスポーツ大会等が実施されることで、交流人口が増加し、経済効果がもたらされ地域活性化に寄与します。③プロスポーツ、トップアスリートを身近で見ることができるようになるため子どもたちに夢や希望を与えることができます。④大規模災害時等の避難所、収容施設として、被災者・避難者に対応できます。						
事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)						
H28年度は、H26年度に実施した「(仮称)総合体育館建設に係る基礎調査」を踏まえて「(仮称)総合体育館建設に係る交通量調査」を実施し、これらを踏まえて、今後の総合体育館建設に向けた整備方針を決定していきます。						
H28年度 交通量調査及び解析						
H29年度 基本構想・基本計画策定						
H30～31年度 基本設計・実施設計						
H32～33年度 建設工事						
H34年度 既存施設解体工事						
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
進捗管理						総合体育館建設着工のため必要な事務作業を実施します。
1段階：交通量調査		1段階	2段階	3段階	3段階	
2段階：基本構想・基本計画策定						
3段階：基本設計・実施設計		100				
4段階：建設工事						
5段階：既存施設解体工事		100				

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> ・H28.4～7月、基礎調査の有力候補地における交通量調査及び交通解析を実施しました。 ・H28.9～11月、各種団体や高校生等によるワークショップを開催しました。(35名参加) ・H28.12月～29.1月、これまでの調査・ワークショップ結果や市の現状を示し、広く市民意見を聴取し市の方向性を決定していくため市民意見募集を行いました。(募集結果：31件) 						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	3,554 千円					3,554
(次年度への繰越)	17,500 千円)					
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた(気付いた)問題点及び課題						
<ul style="list-style-type: none"> ・当初予定の交通量調査等に加え、総合体育館建替えに対し市民意見を一層反映するためワークショップ及び市民意見募集を追加して実施しました。 ・財政状況が厳しい折、総合体育館建設を進めていくためには、民間資金の活用を視野に入れて考えていく必要があります。 						
今後の方向性(具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> ・H28年度に内閣府の助成事業(H29.2採択、補正)を活用し、H29年度予算に繰越して実施します。 ・「(仮称)大牟田市総合体育館民間資金等活用事業導入可能性調査」を実施し、施設の複合化など整備計画の整理、PFI事業実施方法の検討、民間企業参入意向調査、体育協会等との連携策等の検討を行います。 						
評価結果		評価の理由				
やや遅れ・改善		H28年度当初予定していた取組みに加え、ワークショップ、民間資金等活用事業可能性調査を行うこととしたため、進捗としては「やや遅れ」と判断します。また、民間資金等活用事業可能性調査は、事業の実現可能性を高める取組みであることから、今後の方向性を「改善」を図るとします。				

評価・検証シート【施策】

平成 28 年度

【所管部局】市民協働部、企画総務部、産業経済部


施策名	(第1編第7章) 文化芸術に親しみ、心豊かに生活できるまち
-----	----------------------------------

1. 計画 (Plan)

意図 (どういう状態になることを狙っているのか)						
郷土の歴史や遺産を大切に継承・活用し、郷土を愛する気持ちと誇りをはぐくむとともに、市民が文化芸術を通して心豊かで充実した生活を送ることができる文化の薫るまちを目指します。						
指標名	各年度末における	H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
1年間のうち、何らかの文化芸術活動(鑑賞は除く)への参加率	目標値 (%)	30.0	33.0	36.0	40.0	文化庁「文化芸術の振興に関する基本的な指針」の成果指標(H32年度_40.0%)を基に目標値を設定 [現状値:23.8%(26年度実績)]
	実績値 (%)	25.7				
	達成度 (%)	85.7				

2. 実行 (Do) → 構成事業の実施による

3. 検証・評価と今後の方向性 (Check & Action)

(1) 指標達成度に対する要因分析 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)	
<ul style="list-style-type: none"> 三池炭鉱関連資産が世界文化遺産に登録されたことや、市制施行100年を迎えたことから、様々な事業や施設整備が行われ、郷土の歴史などを再認識する機会となりました。 脈々と続いている大牟田市の文化芸術活動を、「大牟田市民文化のつどい」として年間を通して実施することで、発表の場と鑑賞の場など、市民が身近に文化芸術を感じる機会を提供しました。 また全国的なTV番組の招致により、にぎわいづくりと本市のPRにつながりました。 	
(2) 今後の方向性 (1)の要因分析を踏まえ、施策目的達成に向けた部長方針を示す)	
<ul style="list-style-type: none"> 子どもの頃から質の高い文化芸術に触れる機会を充実させ、文化を育む土壌を作る取組みが必要です。そのため、上記のような取組みを通して、現在各文化団体等が抱えている「後継者」「後進」の育成を促進し、各事業を通して「文化の薫るまち」の創造に取り組みます。 (市民協働部長 中村 珠美) 世界遺産をはじめとする近代化産業遺産や文化財の保存・活用、市史編さんや100周年事業を推進する中で、より多くの市民がまちの歴史や文化に対する理解を深め、それがまちへの愛着と誇りにつながるよう、市民との協働により、引き続き取組みを進めていきます。 (企画総務部長 井田 啓之) 	
(3) 達成度	(4) 二次評価結果
	<p>一次評価における「有効性の検証」が不十分であり、構成事務事業の進め方の改善や、新規事業の追加、既存事業の見直し、休廃止等の再検証が必要。構成事業が多く、施策意図に対して参加率だけでは測れない部分も大きい。様々な観点から達成度の要因分析を行い、文化芸術活動の参加者の増加や街中での文化芸術活動の促進の観点から、事業の見直しを進められたい。</p>

※(3)達成度…施策目的が達成できたかを指標の達成度をもって測ります。 80%以上…はれ、60%以上80%未満…くもり、60%未満…あめ

4. 施策推進の視点と各構成事業

№	事業名	所管課	成果指標等			評価結果	
			指標名	単位	H28 目標 H28 実績	結果検証 ・分析	今後の 方向性
[視点1] まちの歴史や文化を知る・学ぶ							
1	【重点】市史編さん事業	市史編さん室	執筆進捗率	%	15 2.2	遅れ	改善
2	【重点】近代化産業遺産活用事業	世界遺産・文化財室、総合政策課	市民理解度	%	87 82.4	やや遅れ	改善
3	文化財保護事業	世界遺産・文化財室	国、県又は市の文化財の増	件	1 1	順調	継続
4	【重点】三川坑跡保存活用事業	総合政策課	三川坑跡の認知度	%	50 50.6	順調	充実
5	【重点】市制100周年記念事業	100周年記念事業推進室	市制100周年記念事業の参加者数	人	100,000 128,437	順調	継続
[視点2] 文化芸術事業の充実							
6	【重点】多様な文化芸術提供事業	生涯学習課	大牟田市文化のつどい参加者数	人	14,000 12,885	順調	充実
7	【重点】子どもの文化芸術体験事業	生涯学習課	アウトリーチ事業の実施件数	件	37 47	順調	継続
8	若者の関心に合わせた文化芸術事業	生涯学習課	事業実施に向けた高校生ワークショップ開催回数	回	3 3	順調	充実
9	【重点】本市の特色を活かした文化芸術事業	生涯学習課	本市の特色を活かした文化芸術事業数	件	5 6	順調	充実
10	広域連携による文化芸術事業	生涯学習課	定住圏域内市町による連携事業数	件	1 1	やや遅れ	改善
[視点3] 文化芸術活動への参加機会の充実							
11	【重点】文化芸術活動参加促進事業	生涯学習課	文化のつどい公募採択事業数	件	2 1	やや遅れ	改善
12	文化団体等育成・支援事業	生涯学習課	文化団体等への補助等の件数	件	2 2	順調	継続
[視点4] 文化芸術の環境づくり							
13	【重点】街かどのにぎわい創出事業	生涯学習課、産業振興課、観光おもてなし課	文化会館以外での文化芸術活動への支援（共催・後援数）	件	35 37	順調	継続
14	郷土伝統芸能保存継承事業	生涯学習課、世界遺産・文化財室	伝統芸能保存継承活動への補助件数	件	1 1	順調	継続
15	文化施設整備事業	生涯学習課	—	—	— —	順調	継続

※「文化芸術振興プラン改訂事業」は評価対象から除外しています。

評価・検証シート【施策】・「別表」

5. 構成事業の実施状況

[視点1] まちの歴史や文化を知る・学ぶ

事業名	【重点】市史編さん事業 《評価・検証シート【事業】参照》
事業名	【重点】近代化産業遺産活用事業 《評価・検証シート【事業】参照》
事業名	文化財保護事業
事業の実施状況と課題	【順調】H28年度は旧長崎税関三池税関支署及び三池炭鉱専用鉄道敷跡の一部を国史跡に追加指定しました。また市内大字岩本に所在する小野家墓地について、市文化財指定に向けた調査を実施しました。
今後の方向性と具体策	【継続】H29年度は、引き続き小野家墓地の指定予定範囲の検討や測量等具体的な内容に着手する予定です。継続的に調査を実施し、指定に向けた取組みを進めます。
事業名	【重点】三川坑跡保存活用事業 《評価・検証シート【事業】参照》
事業名	【重点】市制100周年記念事業 《評価・検証シート【事業】参照》

[視点2] 文化芸術事業の充実

事業名	【重点】多様な文化芸術提供事業 《評価・検証シート【事業】参照》
事業名	【重点】子どもの文化芸術体験事業 《評価・検証シート【事業】参照》
事業名	若者の関心に合わせた文化芸術事業
事業の実施状況と課題	【順調】H29年度の高校生による総合文化祭の開催に向けて、市内全7校から生徒を選出してもらい、3回のワークショップの後、実行委員会を組織しました。
今後の方向性と具体策	【充実】総合文化祭の名称及びキャッチフレーズを決定し、高校生のみならず、多くの市民が来場、交流できるような内容として、8月12日（土）に開催する予定です。
事業名	【重点】本市の特色を活かした文化芸術事業 《評価・検証シート【事業】参照》
事業名	広域連携による文化芸術事業
事業の実施状況と課題	【やや遅れ】従前より広域事業として取り組んでいる「有明美術展」の更なる広がりを模索しましたが、具体的な取組みにはつながりませんでした。有明圏域定住自立圏域内の自治体で協議の場を設け、今後の取組みについて確認しました。
今後の方向性と具体策	【改善】有明圏域定住自立圏域内文化振興会議では、できることから取り組んでいくことを確認し、まずは情報の共有を行うこととしています。また、共同事業の可能性についても引き続き検討していくこととしています。

[視点 3] 文化芸術活動への参加機会の充実

事業名	【重点】文化芸術活動参加促進事業 《評価・検証シート【事業】参照》
事業名	文化団体等育成・支援事業
事業の実施状況と課題	【順調】本市の文化団体の連合体である、大牟田文化連合会に対し、運営費補助を行いました。また、中学校文化連盟に対し、負担金を交付しました。その他文化の振興に資する事業に対しては、後援等を実施しました。
今後の方向性と具体策	【継続】今後もこの補助金・負担金により、文化団体や中学生の活動を支援するとともに、後援等を実施することで、後発の育成に努めます。

[視点 4] 文化芸術事業の環境づくり

事業名	【重点】街かどのにぎわい創出事業 《評価・検証シート【事業】参照》
事業名	郷土伝統芸能保存継承事業
事業の実施状況と課題	【順調】毎年、市指定無形文化財「岡天満宮祭礼行事」の担い手であるぜんでこ踊り保存会に対して、保存活動事業に要する経費について補助金を交付しており、H28年度についても実施しました。その他民俗芸能団体へ、各種民俗芸能事業参加への情報提供等伝統芸能の保存継承について働きかけを行いました。
今後の方向性と具体策	【継続】当該事業を通じて、市内の郷土芸能の保存を促し、特に後継者問題等の解決につなげます。
事業名	文化施設整備事業
事業の実施状況と課題	【順調】大牟田文化会館は開館 30 年、カルタックスおおむたは開館 25 年が経過し、老朽化が進む中、計画的な予防保全が必要となっています。公共施設維持管理計画に基づき、維持補修に取り組みました。 文化会館：エレベーターリニューアル、舞台幕更新など カルタックス：屋上全面防水など
今後の方向性と具体策	【継続】今後も公共施設維持管理計画に基づき、適切な維持管理に努めます。

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 市史編さん室

事業名	(施策推進の視点) まちの歴史や文化を知る・学ぶ 市史編さん事業
------------	-------------------------------------

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)						
概ね S39 年からの本市の歴史を的確に記録し、後世に引き継ぐために、市制 100 周年記念事業の一環として、新たな市史の編さんに取り組むことにより、市民が郷土への理解を深め、愛着を高め、誇りを醸成する契機となることを目指します。						
事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)						
『新大牟田市史』(「現代史編」「三池炭鉱近現代史編」「テーマ特講編」「資料編」)及び別冊「年表と写真で見る大牟田市の 100 年」の作成を、H30 年度末完成を目標に進めます。そのため、市史編さん委員との連携を深め、執筆者を確保し、必要な資料の収集を行います。						
収集した資料を確実に引継ぎ、将来にわたって活用できるようにするために、整理・解説を進めます。						
市民への周知と更なる気運の高まりを醸成するため、歴史講座の開催並びに広報おおむたへの「市史だより」の掲載を継続するとともに、出前講座の要望に積極的に対応します。						
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
執筆進捗率	目標値 (%)	15	60	100	—	新大牟田市史の内容構成に関する原稿執筆の進捗率を指標とします。
	実績値 (%)	2.2				
	達成度 (%)	14.6				

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> 『新大牟田市史』別冊「年表と写真で見る大牟田市の 100 年」を H29 年 3 月 1 日に発刊、3,000 部印刷、資料提供者、議会、庁内各課室、市内各学校、周辺自治体、県内図書館等に配布、1,500 円で販売 (3 月中に 744 冊販売) 市史編さん委員会を 3 回開催 (5 月、10 月、1 月) 市史編さんの機運を盛り上げるため、大牟田の近代を学ぶ歴史講座を 2 回実施 (10 月 15 日、22 日) 広報おおむたに「市史だより」を 6 回掲載 1,000 点以上の古絵葉書を含む資料を収集、資料解説委託を実施 						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	14,341 千円				1,116	13,225
(次年度への繰越)	千円)					
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた (気付いた) 問題点及び課題						
全 5 冊刊行する『新大牟田市史』の内の 1 冊目である別冊「年表と写真で見る大牟田市の 100 年」が発刊できました。この別冊の製作を進めながら、他の編を並行して作成していく予定でした。しかし、実際には、別冊への注力度合いが想定より大きくなったため、他の編の進捗が遅れ、達成度が低くなってしまいました。						
今後の方向性 (具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> 『新大牟田市史』の本体となる「現代史編」「テーマ特講編」「三池炭鉱近現代史編」「資料編」の作成を本格化し、原稿の執筆並びに執筆依頼を進めます。 完成目標を踏まえて、全体的な進行管理を行います。 						
評価結果	評価の理由					
遅れ・改善	完成目標に照らすと、現在の進捗度合いは大変遅れている状況です。市史編さん委員の指導を得ながら、『新大牟田市史』本体 4 編の作成を進める必要があります。					

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 世界遺産・文化財室

事業名	(施策推進の視点) まちの歴史や文化を知る・学ぶ 近代化産業遺産活用事業
-----	---

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)						
市内に数多く残る三池炭鉱関連の近代化産業遺産の価値や歴史を市民等に伝え、理解していただくことで、まちへの愛着を育み、まちづくりの原動力としていきます。また、必要な修復、整備を行い、各資産を適切に管理していきます。						
事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)						
次世代を担う子どもたちの近代化産業遺産への理解促進を図るため、小学生を対象とした近代化産業遺産のバス見学会を実施します。						
また、ホームページへの近代化産業遺産に関する情報の掲載やスマートフォン等を活用した施設案内システム「三池炭鉱ナビ」の運用により資産の価値、保全や活用に対する理解促進を図ります。						
資産の保存・活用に向け大牟田市近代化産業遺産を活用したまちづくり協議会を中心にイベント等各種啓発活動や市民と連携した清掃活動などに取り組むとともに、資産保全のための取組みを行い、資産を適切に管理します。また、国・県、関係団体等と協議しながら、宮原坑や三池炭鉱専用鉄道敷跡の修復整備活用計画を策定します。						
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
市民理解度	目標値 (%)	87	90	93	96	近代化遺産一斉公開のアンケートで、施設の保存・継承に係る理解度を測る。(H27年度84%から毎年3ポイントアップ)
	実績値 (%)	82.4				
	達成度 (%)	94.7				

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> 市内の全小学校 20 校の 6 年生 (911 名) を対象に近代化産業遺産のバス見学会を実施し、近代化産業遺産への理解促進を図りました。 近代化産業遺産ホームページへの施設の公開情報、イベント案内等の掲載や来訪者への「三池炭鉱ナビ」による施設案内の開始 (H28 年 6 月から) など、資産の理解促進に資する取組みを行いました。 米生中学校や駿馬北校区まちづくり協議会と宮原坑駐車場への花植えを行ったり、市内幼稚園・保育所の子どもたち、三池港未来のまちづくり会や市民と三川坑跡への花植えを行うなど、環境美化活動を「近代化産業遺産を活用したまちづくり協議会」と連携して実施しました。 宮原坑や三池炭鉱専用鉄道敷跡の修復整備活用計画をH28年度から策定中で、H29年度に完成予定です。 						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	29,854 千円	7,434	1,455		89	20,876
(次年度への繰越)	千円)					
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた (気付いた) 問題点及び課題						
市民理解度の達成度は目標を下回ったものの、アンケートで施設の保存等が必要ではないと答えた人はおらず、否定的な意見もなく、一定の理解は得られていると考えます。しかし、無回答の割合が15%程度あることから、より多くの方々に資産への関心を高める取組みが必要です。						
今後の方向性 (具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> より多くの市民の資産への関心が高まるよう、イベント等の企画段階から市民の参画を求めるような取組みを行います。 市民との協働による環境美化活動は、引き続き実施し、より多くの方々の参加を促すような仕掛け作りも併せて実施します。 						
評価結果	評価の理由					
やや遅れ・改善	市民理解度が目標に達していないものの、一方で小学6年生のバス見学会の定着などで、理解度の向上が進みつつあります。環境美化、イベント等各種啓発活動を継続しつつも、より多くの市民が活動へ参画し、資産への関心を高めるための取組みとなるよう、事業の改善を図る必要があります。					

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 総合政策課

事業名	(施策推進の視点) まちの歴史や文化を知る・学ぶ 三川坑跡保存活用事業
------------	--

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)						
地域に残されている近代化遺産・三川坑跡を大切に保存・継承し、市民とともに活用する取組みを通して、郷土の歴史や文化に触れる機会を充実し、郷土を愛する気持ちと誇りをはぐくみます。						
事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)						
市内外から多くの人に訪れてもらうために、次のことに取り組みます。						
<ul style="list-style-type: none"> ・保存・整備・・・保存・活用計画に沿って、来場者が安全、快適に見学できるような整備を進めます。H28年度は、旧三井港倶楽部間連絡スロープの整備と、第二斜坑の損壊部分の改修を行います。また、市内外から寄せられた寄付金を活用して炭鉱電車4両を三川坑跡に移設・展示します。 ・活用・・・炭鉱電車を活用した特別企画や三川坑跡限定商品の開発、地元団体等との協働によるイベントの開催などで、三川坑跡への認知や関心を高めます。 						
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
三川坑跡の認知度	目標値 (%)	50	53	56	59	H31年度までにまちづくり市民アンケートでの認知度59%への到達を目指します。
	実績値 (%)	50.6				
	達成度 (%)	101.2				

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> ・炭鉱電車移設・展示への寄付額が目標額に到達し、三川坑跡への移設・展示ができました。 ・連絡スロープの整備や除草作業、地元 NPO 法人等との協働による構内の整備、市内の子ども等による花植えなどの取組みにより来場者を受け入れる環境が改善されました。 ・炭鉱電車見学ツアーやレトロカーフェスタ、合格祈願滑り止め砂「スベラナイス」などの取組みが地元紙やテレビに多く取り上げられ、来場者が前年度の10,305人より5,550人増えました。公開日1日当たり来場者数は、前年より24人(22%)増え130人/日となりました。 ・第二斜坑については、緊急性の高い危険箇所の解体のみ一般財源で実施し、当該部分の再建は有利な財源を活用するためH29年度実施するよう見直しました。 						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	44,623 千円			4,800	30,140	9,683
(次年度への繰越)	千円)					
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた(気付いた)問題点及び課題						
<ul style="list-style-type: none"> ・ニュース性の高い取組みが多くの媒体で紹介され、認知・関心の高まりにつながりました。 ・認知度が低い現時点では、ニュース性を重視した多様で幅広い活用が必要ですが、それだけでは近代化遺産を通して郷土を愛する気持ちと誇りをはぐくむという本来の目的は達せられません。活用にあたっての戦略が必要です。 ・計画的・効率的な活用を図るため、庁内連携・市民協働を促進する実施体制が必要です。 						
今後の方向性 (具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> ・市民意識調査などで認知・関心の状況を見極めながら、近代化遺産・三川坑跡を通して郷土を愛する気持ちと誇りがはぐくまれるようなイベントを庁内連携・市民協働を深めながら取り組みます。 ・継続した公開と計画に沿った保存・整備を担保するため、さらなる財源確保を研究します。 						
評価結果	評価の理由					
順調・充実	保存・整備は順調に進み、活発なイベントとあいまって来場者の増加につながっています。今後も計画に沿った保存・整備と、三川坑跡の認知を高め近代化遺産への理解を深めるためのイベントなどの活用の充実が必要です。					

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 100周年記念事業推進室

事業名	(施策推進の視点) まちの歴史や文化を知る・学ぶ 市制 100 周年記念事業
------------	---

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)							
100周年記念事業を通じ、先人たちの功績を称え、歴史・文化への理解を深め、ふるさと意識の醸成、郷土愛の育成を図ります。							
事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)							
H27 年度中に市制 100 周年記念事業実行委員会において事業計画を策定し、H28 年度は当該計画に盛り込まれた事業を実施していきます。							
<ul style="list-style-type: none"> 事業計画においては、H28 年度は 3 月 1 日の市制 100 周年の誕生日の記念イベントの他、市制 100 周年記念のイベントを各種盛り込む予定です。 市民や民間団体等の方々が自主的に実施する事業を募集し支援する事業や、広報・PR 事業として、CM の制作や市制 100 周年宣伝部長の中島浩二氏を起用した PR などを事業計画に盛り込みます。 市主催事業、冠事業も事業計画に盛り込み、進捗把握するとともに、広報 PR の面での支援を行います。 							
	指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
市制 100 周年記念事業の参加者数	目標値 (人)	100,000	600,000	—	—	—	より多くの市民等が市制 100 周年関連事業に参加することが、意図する目標達成につながります。
	実績値 (人)	128,437		—	—	—	
	達成度 (%)	128.4		—	—	—	

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> 市制 100 周年を迎える 3 月 1 日の 100 日前よりカウントダウンを行い、併せて精力的にイベント開催やポスター掲示、交通広告等を実施し、市制 100 周年の機運の盛り上げを図りました。 3 月 1 日に、バースデーセレモニーを開催しました。 市公式キャラクター「ジャー坊」をバースデーセレモニーにて発表し、関連グッズも同時に制作、配布しました。 3 月 5 日に、おおむた・九州うまかもん祭を開催しました。約 70 の出店、多彩なステージイベントにより当初予想 (15,000 人) を上回る 25,000 人の来場がありました。 市民提案自主事業 (22 事業)、市主催事業 (14 事業) 等を実施し、H28 年度合計で約 128,000 人の参加がありました。 						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	51,242 千円				50,976	266
(次年度への繰越)	千円)					
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた (気付いた) 問題点及び課題						
<ul style="list-style-type: none"> 市制 100 周年への機運の醸成については、多くのイベント開催により周知が図られました。 市民提案自主事業を始め、市民の方々の自主的な 100 周年を祝う取り組みも見受けられ、より多くの市民に市制 100 周年が浸透しています。 						
今後の方向性 (具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> 市制 100 周年を迎えたことより、実行委員会特別記念事業 (おおむた 100 キロリレーマラソン・世界遺産ウォーキング、市民舞台劇“おおむた”再発見 (仮称) の実施のほか、引き続き、市民提案自主事業、広報・PR 事業、市主催事業、冠事業等を実施します。 市公式キャラクター「ジャー坊」の活用をはじめ、積極的に広報・PR 事業を展開します。 						
評価結果	評価の理由					
順調・継続	当初目標値を上回る参加者があり、市制 100 周年の周知がなされています。					

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 生涯学習課

事業名	(施策推進の視点) 文化芸術事業の充実 多様な文化芸術提供事業
------------	------------------------------------

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)						
日ごろ活動している文化芸術活動団体の発表の場の提供とともに、多くの市民が、文化芸術に身近に触れ、心豊かで充実した生活を送ることができるようになります。						
事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)						
本市文化団体の連合体である、「大牟田文化連合会」を中心に組織した実行委員会主催で、「大牟田市民文化のつどい」を年間通して様々なジャンルの文化芸術の催しを開催し、発表の場と鑑賞の場を提供します。 また H28 年度は、市制 100 周年記念事業として、「NHK のど自慢」と「出張お宝なんでも鑑定団」を招致します。						
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
大牟田市民文化のつどい参加者数	目標値 (人)	14,000	14,000	14,000	14,000	大牟田市民文化のつどい H27 年度実績：14,149 人
	実績値 (人)	12,885				
	達成度 (%)	92.0				

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> 大牟田市民文化のつどいについては、H28 年度 19 事業を実施し、12,885 人の参加を得ました。H27 年度と比し、1,264 人の減少となりましたが、隔年実施の事業などによる事業数の減によるものです。 市制 100 周年記念事業として実施した「出張お宝なんでも鑑定団」(出品者 6 人、観覧者 1,300 人) や 12 月 4 日「NHK のど自慢」(出演者 20 組、観覧者 1,396 人) といった TV 番組により、広く大牟田市を PR しました。 大牟田文化会館の指定管理者である(公益財団法人)大牟田市文化振興財団においても、鑑賞型、育成型、参加型事業をバランスよく実施し、多様な文化芸術の提供に努めました。 						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	2,883 千円					2,883
(次年度への繰越)	千円)					
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた(気付いた)問題点及び課題						
<ul style="list-style-type: none"> 大牟田市民文化のつどいについては、単に文化団体の発表の場のみならず、多くの一般の方に参加(鑑賞)してもらうような工夫が必要です。 市内の文化団体の多くが、後継者の育成に悩んでおり、市民文化のつどい事業を通じて、後進の育成を行うことが重要です。 						
今後の方向性(具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> H29 年度は、大牟田市民文化のつどいに 100 周年の冠を付けて、多くの方に参加いただけるよう、広報に努めます。 また 100 周年記念事業として、「子どものためのオーケストラ体験コンサート」、「市民舞台劇」を実施することとしています。 100 周年記念事業(H30 年度)後も、気軽に参加、楽しめる文化芸術事業の提供に努めます。 						
評価結果	評価の理由					
順調・充実	大牟田市民文化のつどいについては、19 事業と前年比 2 事業の減となりましたが、全国的な TV 番組の招致により、多くの市民の方に参加いただきました。					

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 生涯学習課

事業名	(施策推進の視点) 文化芸術事業の充実 子どもの文化芸術体験事業
------------	-------------------------------------

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)						
子どもたちが質の高い文化芸術に触れることにより、文化芸術を身近に感じ (生活の中に文化芸術を感じる、体験・実践する)、豊かな感性を育みます。						
事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)						
主に市内で活躍する文化芸術活動者 (団体) を学校に派遣し、学校教育の場において子どもたちの文化芸術鑑賞や体験等の機会 (アウトリーチ事業) の充実に努めます。また、親子で気軽に参加し、楽しめる鑑賞・体験等の文化芸術事業の充実に努めます。 あわせて、文化庁などが実施する巡回公演など、事業の紹介や申請の支援などを行います。						
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
アウトリーチ事業の実施件数	目標値 (件)	37	40	44	48	現状値 (H27 年度: 34 件/年) から、各年 4 件増 ※文化芸術振興プラン目標値
	実績値 (件)	47				
	達成度 (%)	127.0				

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> ・H27 年度に引き続き、文化芸術活動団体 (者) の協力により、「まちの芸術家派遣事業」のプログラムを作成し、機会を捉えて学校へ紹介、活用依頼を行いました。 ・学校からの依頼に基づき、文化芸術活動団体 (者) との調整を行い、学校へ派遣しました。(13 件) ・大牟田市立特別支援学校において、文化庁「文化芸術による子供の育成事業 (巡回公演)」が採択、実施されました。 						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	145 千円					145
(次年度への繰越)	千円)					
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた (気付いた) 問題点及び課題						
<ul style="list-style-type: none"> ・学校のカリキュラムに取り入れてもらうには、早期の情報提供と実施支援が必要です。 ・親子で気軽に参加し、楽しめる鑑賞・体験等の文化芸術事業の提供が必要です。 						
今後の方向性 (具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムを組まれる段階で活用を検討いただけるよう、「まちの芸術家派遣事業」のプログラムを早期に作成し、校長会等で紹介、依頼します。 ・H29 年度は、市制 100 周年記念事業として、「子どものためのオーケストラ体験コンサート (仮称)」を実施します。 						
評価結果	評価の理由					
順調・継続	今後は、各学校へ積極的に働きかけるとともに、事業を検討する際の学校側の要望とのマッチングを図っていく必要があります。					

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 生涯学習課

事業名	(施策推進の視点) 文化芸術事業の充実 本市の特色を活かした文化芸術事業
-----	---

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)						
本市の特色を生かした文化芸術事業を通して、市民が本市の歴史や文化芸術を再認識し、関心を高めるとともに、郷土への愛着を深めます。また、併せ広く本市の魅力を発信することで、認知度の向上、ひいては来牟者の増加につながります。						
事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)						
本市の特色を生かした事業を実施・充実します。						
【本市の特色】						
<ul style="list-style-type: none"> 絵本作家や作家及び、多くの漫画家を輩出しています。 カルタ発祥の地として、国内唯一の公立カルタ資料館を有しています。 押花文化 (技術、技法) が盛んです。 						
具体的な事業として、絵本や漫画・アニメに関する文化芸術事業 (テーマ別展覧会)、カルタ大会等の充実、押花作品の展覧会 等						
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
本市の特色を活かした文化芸術事業数	目標値 (件)	5	6	6	6	H27 年度実績：5 事業 H29 年度から、テーマ別展覧会を開催することとしています。(+1 事業)
	実績値 (件)	6				
	達成度 (%)	120				

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> 三池地区公民館まちかどギャラリーで、内田麟太郎氏の「わらうだいじゃやま」絵本展を開催しました。 大牟田市民文化のつどい事業の一つとして「押し花フェア」が開催されました。(大牟田押し花の会) 指定管理者として、広く市民を対象とした「市民カルタフェア」と、競技カルタの登竜門と言われる「九州新人かるた競技大会」を実施し、カルタ文化の普及啓発と本市の PR に努めました。また、本市所蔵の「復元天正カルタ」を NHK に提供 (貸出し) し、その模造品が大河ドラマ「真田丸」で使用され、本市の PR につなげました。 毎年新春にアクロスで行われる「かるた祭り」に参画しています。(指定管理者) えるるにおいて、「ともだちや絵本ギャラリー」が開催されました。(ともだちや絵本ギャラリー実行委員会) 						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	27 千円					27
(次年度への繰越)	千円)					
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた (気付いた) 問題点及び課題						
<ul style="list-style-type: none"> 「わらうだいじゃやま」絵本展は、内田麟太郎氏が児童文化功労賞受賞されたのを記念して開催したもので、事業数の増の要因となりました。 H29 年度は、100 周年記念事業として実施する事業も多く、H30 年度以降の継続性が課題です。 						
今後の方向性 (具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> 市制 100 周年事業として、「内田麟太郎の世界展」を、県庁よかもん広場、動物園、カルタックス、石炭産業科学館などで開催し、広く PR を行います。 100 周年を記念した独自のカルタを制作するなど、カルタ文化の普及啓発に努めます。 100 周年記念式典に向けたしおり作り、押し花創造展の開催等を通して、押し花文化の普及にも努めます。 						
評価結果	評価の理由					
順調・充実	本市の特色を生かし、市内外に PR できるような事業を実施することができました。また、人気漫画の実写化により、競技かるたへの関心が高まっており、参加者数も増加しています。カルタ・歴史資料館の入館者数も 12,123 人と、順調に推移しています。					

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 生涯学習課

事業名	(施策推進の視点) 文化芸術活動への参加機会の充実 文化芸術活動参加促進事業
------------	---

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)						
多くの市民が、日ごろの文化芸術活動の成果を広く披露する機会を得ることができます。 また、自主的な文化芸術事業やイベントが実施しやすくなります。						
事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)						
大牟田市民文化のつどい事業において、広く公募を行い、実行委員会で承認の後、文化のつどい事業の一つとして開催します。 また自主的な文化事業、イベントに対して、共催・後援などにより、広報やチラシ、ポスターの配布、施設使用料の減免など、支援を行います。						
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
文化のつどい公募採択事業数	目標値 (件)	2	2	2	2	少なくとも毎年2つは公募団体による事業が実施されることを目指します。
	実績値 (件)	1				
	達成度 (%)	50.0				

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報おおむたで公募を行った結果、H28年度は、1団体が公募事業として「プレイヤーズコンサート」を実施しました。実施に当たっては、FM たんと出演など、自ら広報宣伝に努めるとともに、協賛集めなど、自主的に活動され、文化のつどい事業の趣旨に沿った事業となりました。 ・ 市民や市民団体が自主的に行う文化芸術事業、イベントに対し、H28年度は82件の後援決定を行い、広報など支援を行いました。 						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	990 千円					990
(次年度への繰越)	千円)					
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた(気付いた)問題点及び課題						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動団体の中には、資金や人員、ノウハウの面から、単体ではなかなか事業を実施できない状況にあります。 						
今後の方向性 (具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 単体では実施できない文化芸術団体等について、既存の事業の中に「賛助出演」で受け入れてもらうなどの働きかけを行っていきます。 ・ 市民や市民団体が自主的に行う文化芸術事業、イベントに対し引き続き後援等により支援を行っていきます。 						
評価結果	評価の理由					
やや遅れ・改善	公募事業が1事業に止まり、その入場者数についても当初の予定を下回っており、更なる支援(相談、助言等)が必要です。					

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 生涯学習課、産業振興課、観光おもてなし課

事業名	(施策推進の視点) 文化芸術の環境づくり 街かどのにぎわい創出事業
-----	--------------------------------------

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)						
商店街や中心市街地をはじめ、まちの様々な場所で文化芸術活動が実施されることにより、日常生活の中で多くの市民が文化芸術の楽しさを感じ、多くの人交流し、にぎわいが創出されます。						
事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)						
市民団体等の自主的な文化芸術活動やまちづくりイベントに対し、共催や後援することで、より活発に活動できるよう支援を行います。 また、商店街や空き店舗を活用して、文化芸術事業を開催します。						
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
文化会館以外での文化芸術活動への支援 (共催・後援数)	目標値 (件)	35	35	35	35	H27年度実績 (32件) を上回る。
	実績値 (件)	37				
	達成度 (%)	105.7				

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> 幅広い文化芸術事業に対して、後援決定を行い、広報おおむたへの掲載や、チラシ、ポスターの配布など、支援を行いました。 炭都国際芸術祭は10月29日～11月6日にかけて、宮原坑における野外インスタレーション (2,486人)、石炭産業科学館における現代アート作家展 (716人) など、様々なイベントが開催されました。 						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	千円					
(次年度への繰越)	千円)					
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた (気付いた) 問題点及び課題						
文化芸術による「街かど」のにぎわいを創出するためには、後援や共催をはじめ、行政からの積極的な働きかけが必要です。						
今後の方向性 (具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> 今後も、積極的に支援を行います。 公共施設での文化芸術事業の開催に合わせて、「プレ事業」的に街かどでイベント等ができないか、働きかけを行います。 炭都国際芸術祭等の事業を通じてより多くの方に世界遺産関連施設の魅力に触れていただき、世界遺産関連施設への来訪者の増加に繋がります。 						
評価結果	評価の理由					
順調・継続	今後、より多くの事業が活発に行われ、にぎわいを創出するためには、継続的な働きかけが必要です。					

評価・検証シート【施策】

平成 28 年度

【所管部局】市民協働部、教育委員会


施策名	(第1編第8章) 一人ひとりの人権が尊重され、男女が生き生きと暮らすまち
-----	---

1. 計画 (Plan)

意図 (どうい状態になることを狙っているのか)						
市民一人ひとりの人権が尊重され、互いに認め合える、あらゆる差別のない、男女が生き生きと暮らすことができるまちの実現を目指します。						
指標名	各年度末における	H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
人権が尊重されている と思う市民の割合	目標値 (%)	37.0	38.0	39.0	40.0	現状値から5ポイント程度(年1ポイント)の向上を目指します。 [現状値: 34.3%(H26年度実績)]
	実績値 (%)	33.9				
	達成度 (%)	91.6				
性別による固定的な役割 分担意識に同感しない市民の割合	目標値 (%)	58.0	60.0	※H30年度以降の 目標値は、第3次男女 共同参画プラン の中で設定します。		市第2次男女共同参画プランに 掲げる目標値(H29年度_60.0%) を基に目標値を設定。 [現状値: 54.1%(H26年度実績)]
	実績値 (%)	57.2				
	達成度 (%)	98.6				

2. 実行 (Do) → 構成事業の実施による

3. 検証・評価と今後の方向性 (Check & Action)

(1) 指標達成度に対する要因分析 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)	
<ul style="list-style-type: none"> 指標の達成度(人権)は、目標の91.6%に留まりました。構成事業が与えた影響については、人権・同和問題啓発推進事業では、人権フェスティバル等の実施により、また、人権擁護推進事業では、相談件数の増加等により指標の実績値向上に寄与していると分析していますが、目標値達成(100%)までは、至りませんでした。 指標の達成度(男女)は、98.6%でした。男女共同参画に関する意識啓発事業においては、一定の効果が上がっていると考えられますが、性別による固定的な役割分担意識は、まだ、市民に残っていると考えられます 同和問題をはじめ、女性、子ども、高齢者、障害のある人、外国人等のさまざまな人権問題について解決すべき課題があり、近年混在化してきています。特に、社会情勢の変化に伴い、インターネットによる人権侵害が社会問題になっており、指標の目標達成を妨げる要因と考えられます。 	
(2) 今後の方向性 (1)の要因分析を踏まえ、施策目的達成に向けた部長方針を示す)	
<ul style="list-style-type: none"> 人権・同和問題啓発推進事業及び人権擁護推進事業においては、構成事業ごとの実績や指標での実績では、一定の成果を上げてきています。しかし、国際化やインターネットの普及などの社会情勢等の外的要因の影響を受け、結果的に指標の目標達成までには至りませんが、今なお、差別問題や人権侵害事象の発生は後を絶たず、今後も継続した周知啓発等に取り組めます。 男女共同参画に関する意識啓発事業及び女性に対する暴力防止及び被害者支援事業等においては、新たに制定された「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」及び「配偶者からの暴力防止及び被害者の保護等に関する法律」を踏まえ、さらなる周知・啓発等に取り組む必要があると考えられます。 今後とも、構成事業ごとに最善の効果をあげていくため、周知方法の改善や関係機関・団体との連携を強化しながら目的達成へ向けて取り組んでいきます。 (市民協働部長 中村 珠美) 人権・同和教育・啓発推進事業及び人権・同和教育連携事業においては、今後とも人権問題に対する理解と認識を深めるため、大牟田市人権・同和教育研究協議会(市同研)などの関係団体と連携しながら、諸事業を推進していきます。 (教育委員会事務局長 大迫 孝博) 	
(3) 達成度	(4) 二次評価結果
	一次評価における「有効性の検証」が不十分であり、構成事務事業の進め方の改善や、新規事業の追加、既存事業の見直し、休廃止等の再検証が必要。参加者の固定化や高齢化の傾向があることから、より多くの市民(無関心層)に伝わるよう周知啓発を工夫するとともに、学校教育の段階からの継続的な取組みが重要である。

※(3)達成度…施策目的が達成できたかを指標の達成度をもって測ります。 80%以上…はれ、60%以上80%未満…くもり、60%未満…あめ

4. 施策推進の視点と各構成事業

No	事業名	所管課	成果指標等			評価結果	
			指標名	単位	H28 目標 H28 実績	結果検証 ・分析	今後の 方向性
[視点 1] 人権に関する教育・啓発の推進							
1	【重点】人権・同和問題啓発推進事業	人権・同和・男女共同参画課	人権問題に対する気づきにつながった人の割合 理解度	%	90.0 87.5	順調	継続
2	【重点】人権・同和教育・啓発推進事業	人権・同和教育課	人権尊重意識の醸成度	%	100 96.0	順調	継続
3	人権・同和教育連携事業	人権・同和教育課	市同研参加者の人権意識が向上した割合	%	100 95.4	順調	継続
[視点 2] 人権擁護の推進							
4	【重点】人権擁護推進事業	人権・同和・男女共同参画課	差別や偏見がないと思う市民の割合	%	37.0 36.2	順調	継続
[視点 3] 男女がともに生きる社会への意識づくり							
5	【重点】男女共同参画に関する意識啓発事業	人権・同和・男女共同参画課	社会全体の中で「男女が平等である」と回答した市民の割合	%	40.0 21.8	順調	継続
6	【重点】女性に対する暴力防止及び被害者支援事業	人権・同和・男女共同参画課	DV 相談件数	件	50 51	順調	継続
[視点 4] 男女がともに参画する機会の確保							
7	【重点】女性参画促進事業	人権・同和・男女共同参画課	審議会等委員への女性の登用率	%	40.0 36.2	順調	継続

評価・検証シート【施策】・「別表」

5. 構成事業の実施状況

[視点1] 人権に関する教育・啓発の推進

事業名	【重点】人権・同和問題啓発推進事業 《評価・検証シート【事業】参照》
事業名	【重点】人権・同和教育・啓発推進事業 《評価・検証シート【事業】参照》
事業名	人権・同和教育連携事業
事業の実施状況と課題	【順調】事業内容としては、人権・同和教育研究実践交流会、課題別委員会「子ども就学支援」及び人権連続講座を実施しています。人権連続講座のアンケート結果において、開催テーマに対する理解度は97%と高くなっていますが、初めて参加した人の割合は15%と低くなっています。また、「おおむた子ども支援ガイドブック」については、450冊作成し、学校をはじめとして、人権・同和教育研究協議会加盟団体に配布するとともに、ホームページに掲載し情報提供を行いました。
今後の方向性と具体策	【継続】講座等を開催する際には、誰もが気軽に参加でき、分かりやすく身近な問題をテーマに広く市民を対象として開催するとともに、周知方法についても、愛情ネット、FM たんと、広告モニター等を活用し、広く啓発していきます。また、「おおむた子ども支援ガイドブック」については、毎年度、各種支援制度の改正などに対応し、改訂版を発行していきます。

[視点2] 人権擁護の推進

事業名	【重点】人権擁護推進事業 《評価・検証シート【事業】参照》
-----	-------------------------------

[視点3] 男女がともに生きる社会への意識づくり

事業名	【重点】男女共同参画に関する意識啓発事業 《評価・検証シート【事業】参照》
事業名	【重点】女性に対する暴力防止及び被害者支援事業 《評価・検証シート【事業】参照》

[視点4] 男女がともに参画する機会の確保

事業名	【重点】女性参画促進事業 《評価・検証シート【事業】参照》
-----	-------------------------------

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 人権・同和・男女共同参画課

事業名	(施策推進の視点) 人権に関する教育・啓発の推進 人権・同和问题啓発推進事業
------------	---

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)						
関係機関等と連携しながら、人権に関する教育・啓発を推進することにより、市民一人ひとりが、人権問題に対する正しい理解と認識が深まり、互いの人権を尊重していく意識を醸成していきます。						
事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)						
関係団体・関係機会等と連携して、市民の人権問題に対する理解と認識を深めるために、人権フェスティバルをはじめ、7月の福岡県同和问题啓発強調月間や12月の人権週間を中心に、各種啓発事業に積極的に取り組みます。						
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
人権問題に対する気づきにつながった人 (理解度)	目標値 (%)	90.0	90.0	90.0	90.0	人権フェスティバルにおける参加者の気づきにつながった人の割合 (理解度) を、H27年実績値 (79.6%) から勘案して、90%以上に設定しています。
	実績値 (%)	87.5				
	達成度 (%)	97.2				

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> 大牟田市人権・同和问题啓発推進協議会等との連携により、12月の人権週間に合わせて人権フェスティバルを開催し、障害のある人の人権をテーマに野田あすかさん・恭子さん親子の講演やピアノ演奏を行い、会場満員の500人の参加があり、初参加の割合は58.6%、気づきにつながった人の割合 (理解度) は、87.5%でした。 国・県の職員や人権擁護委員等と連携し、7月の福岡県同和问题啓発強調月間と12月の人権週間に合わせて街頭啓発を行い、2,400部の啓発用チラシ等を配布しました。 障害者差別解消法の周知については、関係課と連携し、上記人権フェスティバルとともに2月にリオ・パラリンピック出場の本市や近隣の町出身選手を招き、トークショーを開催し、多くの市民 (約150人) に対して行いました。 						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	10,340 千円		859			9,481
(次年度への繰越)	千円)					
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた (気付いた) 問題点及び課題						
<ul style="list-style-type: none"> 人権フェスティバルについては、指標達成度が、ほぼ目標に近い数字となった。これは、講師の演奏や家族の話等により、参加者の間に、今回のテーマである発達障害についての理解と支援の気持ちが広がったものと分析しています。 参加者が固定化傾向にある中で無関心層を取り込んでいくことが課題であり、若年層などへの新たな周知方法など必要となっています。 						
今後の方向性 (具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> 人権フェスティバルでは、講演だけではなく、市民参画型のカリキュラムやロビーなど展示物等を用いて、他の啓発活動を紹介していくなどの事業間の連携を取り入れながら、より広がりのある開催を目指します。 広報誌やホームページ等に加え、新たに愛情ネットやFMたんとう等のメディアを活用するなど積極的に周知を行っていきます。 						
評価結果	評価の理由					
順調・継続	人権フェスティバルに関しては、会場満員の参加者があり、本会のテーマである発達障害への理解度が目標の90%近くに達したことで、効果があったと判断しました。					

平成28年度重点事業の取組状況報告書

(担当課：人権・同和教育課)

事業名	(施策推進の視点) 人権に関する教育・啓発の推進 人権・同和問題啓発事業 (人権・同和教育・啓発推進事業)
-----	--

目的	人権・同和問題に対する理解と認識は、未だ十分とは言えません。学校、家庭、地域、職場など日常生活のあらゆる場を通して、市民一人ひとりが人権・同和問題を自らの課題として捉え、人権・同和問題に対する理解と認識を深めながら、「差別をしない」から「差別をなくす」取組を進めていくことにより、一人ひとりの人権が尊重される社会の実現を目指します。
----	--

事業内容	<p>「第2次大牟田市人権教育・啓発基本計画」に基づき、人権のまちづくりを推進するための人材育成や、市民の人権・同和問題に対する理解と認識を深めるための啓発事業を実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 福岡県同和問題啓発強調月間(7月)の趣旨を踏まえて、「人権・同和教育講演会」を開催します。また、人権週間(12月4日～10日)の趣旨を踏まえて、「人権フェスティバル」(人権・同和問題の啓発に取り組む市内の団体や行政などで構成する「大牟田市人権・同和問題啓発推進協議会」による主催)を共催します。 人権のまちづくりを推進する人材を育成するため、公務員、教職員、保健・医療・福祉・介護関係者等人権にかかわりの深い特定の職業に従事する人を対象とした「人権のまちづくり啓発リーダー養成講座」を開催します。また、本講座で養成した啓発リーダーのフォローアップ研修を実施し、活動を支援していきます。 ホームページにより各種啓発事業や地域や職場での学習を支援するための啓発資料(啓発ビデオや図書等)の案内を行うとともに、「広報おおむた」に啓発記事や啓発事業の案内を掲載するなど、情報提供の充実を図ります。
------	--

指標名	各年度末における	H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
人権尊重意識の醸成度	目標値 (%)	100	100	100	100	諸事業の参加者アンケートで、開催テーマに対する理解及び認識が「深まった」「概ね深まった」と全ての人に回答していただくことを目指します。(H27年度の諸事業の参加者アンケートでの回答割合を踏まえて設定。)
	実績値 (%)	96.0				
	達成度 (%)	96.0				

取組実績	<ol style="list-style-type: none"> 7月16日(土)に大牟田文化会館において開催した人権・同和教育講演会には99人の参加があり、人権尊重意識の醸成度は94.9%でした。また、12月5日(月)に大牟田文化会館小ホールにおいて開催した人権フェスティバルには500人の参加があり、人権尊重意識の醸成度は96.5%でした。 人権に関わりの深い保健・医療・福祉等の特定の職業に従事する人を対象に、人権のまちづくり啓発リーダー養成講座を3回実施し、26人の受講がありました。人権尊重意識の醸成度は93%で、受講者が講座受講後に職場等で実践活動を行った割合は21%でした。 講師派遣事業では、35回、1,502人の参加がありました。「広報おおむた」には、記事を年間7回掲載し、啓発用DVD等の貸出実績は36件でした。また、新たに「FMたん」とを活用した周知・啓発に努めました。
------	---

決算	国	県	起債	その他	一般財源
決算額 (次年度への繰越)		364 千円 千円)		121	243

問題点及び課題	人権・同和問題に対する理解と認識を深めるためには、初めて参加する人の割合を増やすことが重要となってきます。諸事業のアンケート結果において、初めて参加した人の割合は、人権フェスティバルでは58%と高くなっていますが、人権・同和教育講演会では21%と低くなっており、参加者が固定化している状況がみられます。
---------	---

今後の方向性(具体策)	諸事業を開催する際には、誰もが気軽に参加でき、分かりやすく身近な問題をテーマに広く市民を対象として開催するとともに、周知方法についても、「愛情ねっと」、「FMたん」と、庁舎内に設置の「広告モニター」等を活用し、広く啓発していきます。
-------------	--

評価	評価の理由
順調・継続	人権・同和教育講演会や人権フェスティバルの各講演会においては、定員に近い参加者となり、醸成度についてもほぼ目標に近い数字となりました。このため、開催テーマや趣旨については参加者に十分伝わったものと思われます。今後も、一人ひとりの人権が尊重される社会の実現を目指して取り組んでいきます。

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 人権・同和・男女共同参画課

事業名	(施策推進の視点) 人権擁護の推進 人権擁護推進事業
------------	-------------------------------

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)						
市民の人権問題に対する理解と認識は、深まってきている一方で、人権侵害事象が発生しています。本市の人権問題の総合的な解決に向けて、関係機関との連携を図りながら、人権擁護を推進しています。						
事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)						
人権擁護委員や国等の関係機関との連携を図りながら、相談体制の充実や人権擁護活動に対する支援を行います。 人権擁護活動の支援については、人権擁護委員と連携し、街頭啓発の人権啓発活動を実施するとともに、市民を対象とした相談事業(毎月1回)や人権の花運動事業(市内の小学校4校で実施)の開催を支援します。また、市は、柳川人権擁護委員協議会に対して、人権擁護委員協議会補助を交付することで、協議会の運営及び人権擁護を目的とした活動を支援します。柳川人権擁護委員協議会は、当該補助を受けて、①人権相談②人権の花運動③人権作文等の取組みを実施されます。						
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
差別や偏見がないと思う市民の割合	目標値 (%)	37.0	38.0	39.0	40.0	現状値から毎年1ポイントの向上を目指します。 [現状値: 34.8%(H26年度実績)]
	実績値 (%)	36.2				
	達成度 (%)	97.8				

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> 人権擁護委員と連携し、人権週間(12月)や人権問題啓発強調月間(7月)の事業の一環として、街頭啓発活動を実施しました。 「人権なんでも相談」(毎月1回)や人権の花運動(市内小学校4校で実施)の開催を支援しました。また、そのうち1校では、エコ風船を使用した種飛ばしイベントを行いました。 柳川人権擁護委員協議会に補助金を交付するとともに協議会の運営や協議会が行う諸活動について、連携を図りながら支援を行いました。 						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	991 千円		388			603
(次年度への繰越)	千円)					
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた(気付いた)問題点及び課題						
相談事業については、特設相談日を増やしたりして、H27年度から相談件数(H26-2件、H27-13件、H28-27件)が増加してきました。しかし、全国的には、まだまだインターネット上での人権侵害などの事例が後を絶たない状況があります。このことから、人権侵害を受けている人など人権擁護が必要とする市民の利用が促進されるようさらなる周知を図っていく必要があります。						
今後の方向性(具体策)						
柳川人権擁護委員協議会や久留米人権啓発活動ネットワーク協議会などの諸団体との連携強化を図っていきます。市民生活課や子ども未来室など他の市民からの相談窓口を設置している関係課との連携を図っていきます。						
評価結果	評価の理由					
順調・継続	相談件数等が増加してきており、相談窓口の市民への周知は広まってきていると分析しています。					

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 人権・同和・男女共同参画課

事業名	(施策推進の視点) 男女がともに生きる社会への意識づくり 男女共同参画に関する意識啓発事業
------------	--

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)						
男女共同参画に関する理解は深まっていますが、依然として女性に対する差別や偏見が残っています。あらゆる場やあらゆる年齢層の方々に対して、男女共同参画について考える機会や学ぶ機会を増やし、啓発活動に取り組むことにより、男女共同参画に関する理解が深まります。						
事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)						
男女共同参画について学習する機会の提供や啓発活動を行い、制度や慣行についての見直しを促進していきます。また、市民や事業者の男女共同参画に関する自主的な活動を促進するため、講師の派遣や講座の開催に係る情報の提供を行うなどの支援を行います。H28年度は市内で活動している各団体と連携し、男女共同参画週間事業を実施し、各種団体等との新たなネットワークの構築を図ります。						
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
社会全体の中で「男女の地位が平等である」と回答した市民の割合	目標値 (%)	40	40	※H30年度以降の目標値は、第3次男女共同参画プランの中で設定します。		第2次男女共同参画プランに掲げる目標値(H29年度_40.0%)を基に設定します。 [現状値:14.4%(H26年度実績)]
	実績値 (%)	21.8				
	達成度 (%)	54.5				

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> 男女共同参画に関する意識啓発のために、男女共同参画週間事業として、市内で活動している団体と実行委員会を立ち上げ、6月に「おおむたパパフェア」を初めて開催しました。 男女共同参画についてのチラシ等を各公民館等に配布しました。 						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	1,665 千円					1,665
(次年度への繰越)	千円)					
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた(気付いた)問題点及び課題						
<ul style="list-style-type: none"> 「おおむたパパフェア」への参加者数は50名と目標の100名には届かなかったものの、アンケート結果は、「よかった」「まあまあよかった」と回答した割合が8割を超えていました。(講演会で94.5%、パネルディスカッションで80.5%) 男女共同参画に関する市民活動に取り組む団体が高齢化してきているため、団体・グループ等の支援・育成や新たなネットワークの構築が必要です。 指標の実績値 H27年度は16.5%、H28年度は21.8%と着実に上昇し、意識啓発事業の取組み成果と思われまます。 						
今後の方向性 (具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> 6月の男女共同参画週間に合わせて、広報誌、ホームページや商業施設などへのポスター掲示に加え、新たに愛情ネットやFMたんとう等のメディアを活用するなど積極的に啓発を行っていきます。 						
評価結果	評価の理由					
順調・継続	社会全体の中で「男女の地位が平等である」と回答した市民の割合が H26年度に比べ7.4ポイント増加しました。					

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 人権・同和・男女共同参画課

事業名	(施策推進の視点) 男女がともに生きる社会への意識づくり 女性に対する暴力防止及び被害者支援事業
------------	---

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)							
女性に対する暴力は、周囲が気付かないうちに激化し、深刻化しやすい傾向にあることから、暴力を許さない意識啓発の取り組みを行うとともに、被害者への適切な支援を行うことにより、女性が、安全で安心して暮らしていくことができるようになります。							
事業内容 (具体的にどのような取り組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)							
女性に対する暴力を防止するために、国が定めた運動期間にあわせて広報啓発を実施するとともに、広報やHP並びに商業施設及び公共施設にDV情報カードやDV情報ポスターを作成・設置を行い、窓口や支援機関等の周知を図ります。 また、相談者に対する適切な支援を行うため、関係機関等との連携し、相談機能の充実を図るとともに、被害者の態様に応じた適切な支援や自立に向けた情報の提供等を行います。							
	指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
DV相談件数	目標値 (件)		58	53	48	43	DV相談件数の減を目標とします。 [現状値: 68件(H26年度実績)]
	実績値 (件)		51				
	達成度 (%)		113.7				

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況																											
<ul style="list-style-type: none"> 女性の人権について理解を深めるために、広報紙を活用した啓発を行いました。 DVに関する相談窓口を周知するために、公共施設や大型商業施設、ファミリーレストラン等に協力を依頼し、女子トイレにDV情報ポスターの掲示を行いました。 女性相談員のスキルアップのため、各種研修会へ派遣しました。 被害者に対する支援として、シェルターへの緊急一時保護や自立支援のため庁内関係課や警察、県の女性相談所等の関係機関と連携した支援を行いました。 電話や来所による相談件数 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>相談全体の件数</td> <td>H26年度</td> <td>182件</td> <td>H27年度</td> <td>216件</td> <td>H28年度</td> <td>204件</td> </tr> <tr> <td>DV相談件数</td> <td>H26年度</td> <td>68件</td> <td>H27年度</td> <td>41件</td> <td>H28年度</td> <td>51件</td> </tr> <tr> <td>緊急一時保護の件数</td> <td>H26年度</td> <td>6件</td> <td>H27年度</td> <td>6件</td> <td>H28年度</td> <td>10件</td> </tr> </table> 							相談全体の件数	H26年度	182件	H27年度	216件	H28年度	204件	DV相談件数	H26年度	68件	H27年度	41件	H28年度	51件	緊急一時保護の件数	H26年度	6件	H27年度	6件	H28年度	10件
相談全体の件数	H26年度	182件	H27年度	216件	H28年度	204件																					
DV相談件数	H26年度	68件	H27年度	41件	H28年度	51件																					
緊急一時保護の件数	H26年度	6件	H27年度	6件	H28年度	10件																					
決算		国	県	起債	その他	一般財源																					
決算額	3,283 千円					3,283																					
(次年度への繰越)	千円)																										
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた(気付いた)問題点及び課題																											
H26年1月にDV法改正でメディアの影響等もあり、相談件数が一時的に増えましたが、H27年度はその反動もあつてか例年より相談が減少しました。なお、H28年度は法改正以前の相談件数の推移から判断しても、若干減少しているものと考えます。																											
今後の方向性 (具体策)																											
<ul style="list-style-type: none"> 女性に対する暴力をなくす運動(11月12日～25日)において広報啓発を実施します。 デートDV(若者における交際相手からの暴力)防止の取り組みとして、出前講座等を実施していきます。 相談者への適切な助言や支援ができるように女性相談所が主催する研修会へ派遣します。 緊急一時保護が必要となった際には、警察や関係課と密に連携しながら、被害を受けている女性の安全を確保します。 																											
評価結果	評価の理由																										
順調・継続	DV相談件数がH26年度実績に比べ25%減となりH28年度の目標を達成しました。																										

評価・検証シート【事業】

1. 施策を構成する事業

所管課： 人権・同和・男女共同参画課

事業名	(施策推進の視点) 男女がともに参画する機会の確保 女性参画促進事業
------------	---------------------------------------

(1) 計画と実施 (Plan & Do)

意図 (誰が、どういう状態になることを狙っているのか)						
ワーク・ライフ・バランスを推進することにより、女性も仕事や、地域活動、ボランティア活動等への社会参加を通じて自己実現が可能となります。さらには様々な政策や方針決定過程の場に女性が参画する機会が増えるようになります。						
事業内容 (具体的にどのような取組みを行なうのか/前年度からの改善策への対応についても記述)						
女性の社会参画のために学習機会の提供を実施するとともに、企業、各種団体等における方針決定過程への女性の参画促進や、自分の希望するバランスで仕事や家庭、地域活動等に関われるように、ワーク・ライフ・バランスの趣旨について意識啓発を行います。						
また、市における政策・方針決定過程への女性の参画を推進するために、市内で活動している各分野の女性へ「女性人材リスト」への登録を促し、リストを整備するとともに、その人材についての情報提供を行っていきます。						
指標名		H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
審議会等委員への女性の登用率	目標値 (%)	40.0	40.0	※H30 年度以降の目標値は、第3次男女共同参画プランの中で設定します。		第2次男女共同参画プランに掲げる目標値(H29 年度_40.0%)を基に設定します。 [現状値:36.5%(H26 年度実績)]
	実績値 (%)	36.2				
	達成度 (%)	90.5				

(2) 事業の実施状況と要因分析 (Check & Action)

当年度取組みの実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> 女性の社会参画やワーク・ライフ・バランス等について広報おおむたやホームページに掲載し、資料の配布を行うなどの啓発活動を実施しました。 審議会等委員の選任の際には、事前協議を行うことを徹底するとともに、女性人材リストの活用に取り組みました。 						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	240 千円					240
(次年度への繰越)						
結果に対する要因分析と事業実施において新たに生じた(気付いた)問題点及び課題						
<ul style="list-style-type: none"> 女性委員の登用を促進するためには、各課が求めている人材を確保することが必要ですが、女性人材リストへの登録については、まだまだ十分とは言えない状況です。 ワーク・ライフ・バランスの趣旨について、さらなる意識啓発が必要です。 審議会の増加に伴い女性委員の人数は増えてきましたが、総数に追いつきませんでした。 						
今後の方向性 (具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> 地域等で活動している女性を掘り起こし、女性人材リストへの登録を働きかけリストの拡充をしていきます。また、各課と連携しながら、審議会開催時にチラシを配るなど、女性人材リストの登録の働きかけをしていきます。 「大牟田市審議会等の設置運営及び公開に関する要綱」の適切な運用により、審議会等における女性の参画を推進していきます。 						
評価結果	評価の理由					
順調・継続	指標の実績値が、H27年度の38.4%より2.2ポイント下がりましたが、達成度は90%を超えています。					

評価・検証シート【施策】

平成 28 年度

【所管部局】企画総務部


施策名	(第1編第9章) 多文化共生が実現するまち
-----	--------------------------

1. 計画 (Plan)

意図 (どういう状態になることを狙っているのか)						
市民が異文化を理解し、国籍にとらわれず互いに認め合い、誰もが住みやすく訪れやすいまちを目指します。						
指標名	各年度末における	H28	H29	H30	H31	指標・目標値設定の根拠
英語弁論大会参加者数	目標値 (回)	9	11	13	15	過去5年間の参加者数平均の2倍の参加者数を目標とします。 [現状値: 7.5人(過去5年間の平均)]
	実績値 (回)	0				
	達成度 (%)	0				

2. 実行 (Do) → 構成事業の実施による

3. 検証・評価と今後の方向性 (Check & Action)

(1) 指標達成度に対する要因分析 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)	
<ul style="list-style-type: none"> 市民が異文化に興味・関心を持ち、更に異なる文化の言語を用いて自らの考えを述べるのが大切であると考え、そのことを英語弁論大会の参加者数をもって測ろうとしていましたが、H28年度は、結果として参加が得られませんでした。 同種のイベントが近い日程で開催されたことや友好・姉妹都市交流が、市民への異文化に対する興味・関心の惹起につながっていないことが考えられます。 	
(2) 今後の方向性 (1)の要因分析を踏まえ、施策目的達成に向けた部長方針を示す)	
<ul style="list-style-type: none"> 国際交流事業の実施にあたっては、政治的問題などの外的要因による影響を受け易いため、幅広い交流の窓口を備える体制づくりを目指し、日頃より民間レベルでの草の根交流が進むよう支援を行います。 在住や来訪される外国人にも優しいまちづくりを目指すため、一人でも多くの人に国際感覚を持ってもらうよう国際交流の機会を設け、多文化共生の環境づくりを進めます。 これまでの友好・姉妹都市交流で培ったつながりを大切に、これからも相互の発展につなげるため、双方のニーズを踏まえた有意義な交流を行います。 大牟田・マスキーガン友好協会については、H29年6月末に解散することが決定したため、今後、事業構成や成果指標について再検討を行います。 <p style="text-align: right;">(企画総務部長 井田 啓之)</p>	
(3) 達成度	(4) 二次評価結果
	<p>一次評価における「達成度の検証」、「有効性の検証」がともに不十分。目標の達成状況の要因を再検証するとともに、構成事務事業の進め方の改善や既存事業の見直し等が必要。実績0となっている指標については、施策目標との整合やH29年6月末のマスキーガン友好協会の解散を受けて見直しが必要。施策目標の達成に向け、民間における様々な交流などの多様な切り口での事業の再構築について検討を進められたい。</p>

※(3)達成度…施策目的が達成できたかを指標の達成度をもって測ります。 80%以上…はれ、60%以上 80%未満…くもり、60%未満…あめ

4. 施策推進の視点と各構成事業

№	事業名	所管課	成果指標等			評価結果	
			指標名	単位	H28 目標 H28 実績	結果検証 ・分析	今後の 方向性
[視点 1] 国際感覚を持った人づくり							
1	多文化共生のまちづくり推進事業	総合政策課	多文化共生指針の策定	—	調査・収集 調査・収集	順調	継続
[視点 2] 友好・姉妹都市交流の推進							
2	中国大同市との友好都市交流事業	総合政策課	交流事業への参加者数	人	750 650	順調	継続
3	米国マスキーガンとの姉妹都市交流事業	総合政策課	交流事業への参加者数	人	270 25	遅れ	改善

評価・検証シート【施策】・「別表」

5. 構成事業の実施状況

[視点1] 国際感覚を持った人づくり

事業名	多文化共生のまちづくり推進事業
事業の実施状況と課題	【順調】多文化共生の推進に係る指針の策定にあたり、現在の社会ニーズなどを分析すると共に、他都市の策定状況や在留外国人の状況調査など指針の策定に必要な情報収集を行いました。
今後の方向性と具体策	【継続】収集した各種情報を整理し、H29年度中の指針策定に向け作業を進めます。

[視点2] 友好・姉妹都市交流の推進

事業名	中国大同市との友好都市交流事業
事業の実施状況と課題	【順調】CLAIR 自治体国際化協会の「自治体国際協力専門家派遣事業」を活用し、大同市への教職員派遣により小学校の環境学習指導や環境教育授業の視察、環境教育等に関する意見交換等を行いました。また、友好都市35周年を記念して、大同市への理解を深めてもらうため写真展「美しい大同」を開催しました。一方で、当初予定されていた大同市政府代表団の来日については、大同市側の都合により延期となりました。
今後の方向性と具体策	【継続】環境教育並びに環境技術に係る交流を継続実施できるよう、自治体国際協力促進事業の積極的な活用を行います。
事業名	米国マスキーガンとの姉妹都市交流事業
事業の実施状況と課題	【遅れ】H27年度のホームステイ団受け入れ時のホストファミリーとの意見交換を実施しました。また、友好協会創立20周年の節目の年でもあったことから、20周年記念誌の発行を行いました。一方で、当初予定していたマスキーガンへのホームステイ団派遣は、派遣団募集に向けた準備など本市側の作業は滞りなく進んでいましたが、ホストファミリーの手配が整わないなどマスキーガン側での調整に問題が生じ、結果的に実施はできませんでした。
今後の方向性と具体策	【改善】定期的実施しているホームステイ団の交流事業について、今後も継続できるよう友好協会間の連絡状況などを確認しながら、調整等の必要な支援を行います。